

朝霧 (台高・明神平)

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて33年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

新ハイ関西・海外山行

玉山と雪山

台湾の2座登頂 7日間

旅行代金 ¥194,000

旅行期間 2003・4/13(日)~4/19(土)

①関空→台北→阿里山 ②→上東埔→
タタカ鞍部→排雲山荘 ③→玉山登頂
→排雲山荘→タタカ鞍部→東埔温泉
④→武陵→シチカ山荘 ⑤→三六九山
荘→雪山登頂→三六九山荘→シチカ
山荘 ⑥→武陵→台北 ⑦→関空

ニューゼaland「アルプス街道縦断」縦断・
日帰りハイキング 満喫8日間 <関空発着>

出発日 ●3/6 ●3/20 ●4/3 ●4/17 ●5/1
¥278,000~¥358,000

エベレスト展望トレッキングと
シェルパの里9・10日間 <関空発着>

出発日 ●3/25 ●4/1 ●4/19 ●4/26 (19日開)
¥310,000~¥382,000

アルプス・フラワー・ハイキングと
スイス丸ごと体験9日間 <関空発着>

出発日 ●4/28 ●5/13 (4/28は成田発着)
¥362,000~¥438,000

マレーシア最高峰 Mt. 神ノ峰 登頂 6日間
出発日 ●3/19 ●4/30 ¥176,000~¥248,000

チモラ BC と中国国境 12日間
出発日 ●4/24 ¥548,000

秘境ムスタン・トレッキング19日間
出発日 ●4/6 ●5/4 ¥632,000~¥648,000

秋のニューゼaland・南島周遊
のんびりハイキング9日間<関空発着>

出発日 ●4/19 ●4/26
¥462,000~¥498,000

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマ
トレッキング9・10日間 <関空発着>

出発日 ●3/18 ●4/1 ●4/26 ●4/29 ●5/6
¥298,000~¥358,000

始めてのスノーシュー・樹氷の八甲田山
ハイキングと酸ヶ湯温泉滞在4日間

出発日 ●3/9 ●3/23 ¥99,000

海外トレッキング<特設説明会>

◆ヨーロッパ・アルプスとカナディアン・
ロッキー 特設説明会 <3/12>

会場:大阪府商工会館会議室 入場無料
時間:①14:00~16:00 ②18:30~20:30
(地下鉄本町駅17番出口・中央大通り沿い)

3/27発・4/17発 屋久島大縦走5日間 ¥160,000 大阪発着 12名限定

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド
上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでも
お気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業490号/(社)日本旅行業協会正会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区靱本町1-10-22 (A'009ビル4階)

TEL:06-6444-3033 E-Mail:atsosa@pearl.ocn.ne.jp

FAX:06-6444-3032 ホームページ http://www.alpine-tour.com

ご請求下さい!

アルパインツアー

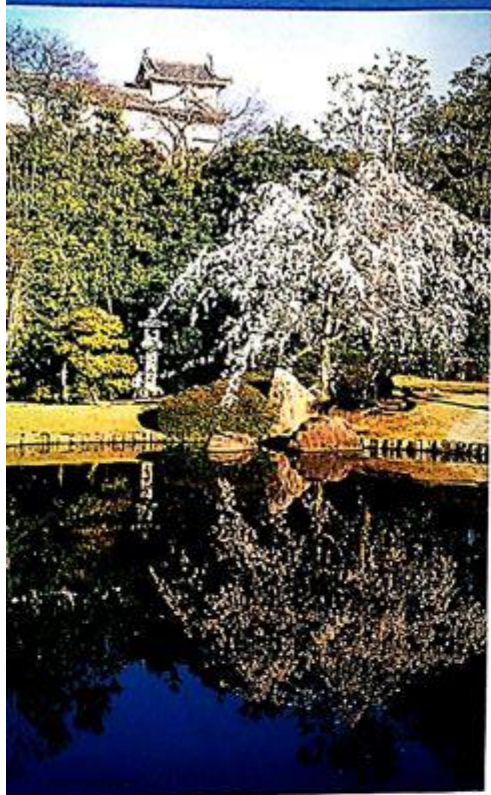
総合ツアーカタログ

「世界の山旅・辺境の旅」

海外・国内のハイキン

グ・トレッキング・登山

コース満載! (最新版)



姫路・好古園

優美な姿が桜の上に浮かび上がる
 三の丸広場と西の丸庭園は
 家族づれ・恋人たちであふれる
 嵯峨天皇は神泉苑で桜を眺めた
 秀吉は吉野山や醍醐で開いた
 それはそれはにぎやかな宴会
 江戸時代は「長屋の花見」
 三味線や鼓を奏で
 小唄をうたい酒を酌み交わす
 4月6日花の美しさに酔いしれる
 「姫路城観桜会・お花見太鼓」
 百面の琴の演奏 和太鼓の競演
 夕闇がせまりあたりを夢に変える
 光に浮かび上がる庭園が
 幽玄という言葉を思い出させる

姫路城・本丸を望む

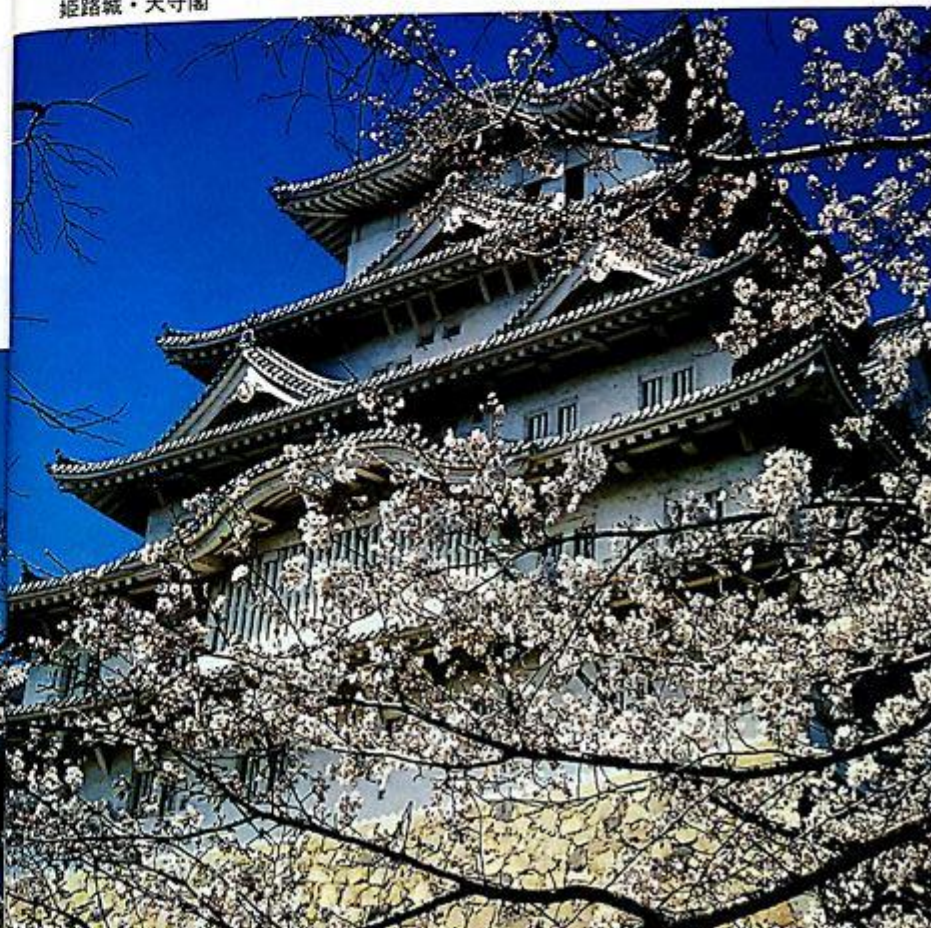


Photo essay

姫路の宴

題字 中田 蘭石
 撮影 山井 収
 文 松 永 恵 一

姫路城・天守閣





イカリソウ

季節の



山桜（屏風岩）

山峡の桜

実景

陽春

春の曾爾村

撮影 武市通治



シダレ桜

桃畑（兜岩）





さくらの園 (吉野山) 三浦 弘幸



ブタンブチの向こうに天狗堂 (鈴鹿・御池岳) 今村 悦子



つつじ回廊 (播磨・御試山) 中川 光郎



武奈ヶ嶽登山道より三重嶽を望む (湖北) 松田 敏男

アンナプルナ展望ハイキング(ネパール)〈3月〉

奥田 英一郎



ネパール国花ラリィーグラス(シャクナゲ)
-アンナプルナの展望尾根より-



アンナプルナI峰(8091m)とサウス峰(7219m)
-ゴラバニのロッジより-



ダウラギリ(8063m)とツクチェピーク(6920m) -ブーンヒル(3194m)より-

●目次

表紙：松田敏男「蝶ヶ岳より穂高連峰」(北アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳探検、山岳西の発展多岐関係。(京都平安通商、南アルプス山水小説、東京キャリアー百号、他) 京越山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新作 8冊 関西の山
'03年 3・4月 開巻 第69号

●グラビヤ	花の宴……………	撮影 由井 収	文 松永 恵一
(口絵) 金谷 昭	季節の美景(陽春)「シダレ桜」他……………	武市 通治	4
随想(山のエッセイ)	異国で歌う「早春賦」-ポカラにて-……………	奥田英一郎	2
飯ノ浦峠とアチラ坂峠……………	……………	奥田英一郎	12
小塩山からポンポン山へ(京都西山)……………	……………	田中 明	16
奄美大島の山(南西諸島)……………	……………	西尾 寿一	20
高丸へ(奥美濃)……………	……………	山本 久雄	23
茅ヶ岳(甲州)……………	……………	木村 太郎	26
連載 標高による山の紹介シリーズ 9	△△69mの山……………	松田 敏男	30
乗鞍岳・口三方岳・赤岩山・雷倉……………	……………	松田 敏男	30
雨ヶ岳から毛無山……………	……………	松田 敏男	30
天子ヶ岳から長者ヶ岳(静岡)……………	……………	松田 敏男	30
ルートバントラック(ニュージールランド)……………	……………	松田 敏男	30
連載 三角点を訪ねて②……………	……………	松田 敏男	30
藤原岳東端の三角点峰、持腰へ(鈴鹿)……………	……………	松田 敏男	30
●旗振り通信の研究⑬	……………	松田 敏男	30
岡山ルート1……………	……………	松田 敏男	30
●1等三角点峰(500m以上) 548座完全登の記録(第36回)……………	……………	松田 敏男	30
平成八年夏の北海道の山旅……………	……………	松田 敏男	30
●六甲最高峰 有馬(下山)(六甲)……………	……………	松田 敏男	30
●文学歴史探訪ハイク⑩……………	……………	松田 敏男	30
神峯山寺からポンポン山へ(京都西山)……………	……………	松田 敏男	30
●(山のレポート)山の地名を歩く⑧「道と峠」……………	……………	松田 敏男	30
●(山のレポート)山岳観光のあり方……………	……………	松田 敏男	30
コース	……………	松田 敏男	30
ガイド	……………	松田 敏男	30
①船岡山(吉野)……………	……………	松田 敏男	30
②滝谷山(湖西)……………	……………	松田 敏男	30
③大長山と赤兎山(加越国境)……………	……………	松田 敏男	30
④東山(南北)……………	……………	松田 敏男	30
⑤ダイジョウ・鏡子・イブネ(糸魚川)……………	……………	松田 敏男	30
沿線ハイキングガイド……………	……………	松田 敏男	30
サービスチェーン……………	……………	松田 敏男	30
せせらぎ……………	……………	松田 敏男	30
82 82 80	……………	松田 敏男	30
新ハイ関西山行計画と報告……………	……………	松田 敏男	30
バス時刻表(室生)……………	……………	松田 敏男	30
編集後記・広告案内……………	……………	松田 敏男	30
112 110 87	……………	松田 敏男	30
77 74 72 70 68	……………	松田 敏男	30
67 64 60	……………	松田 敏男	30
57 54	……………	松田 敏男	30
42	……………	松田 敏男	30
50	……………	松田 敏男	30
36 32	……………	松田 敏男	30
30	……………	松田 敏男	30
26 23 20 16	……………	松田 敏男	30
12 10	……………	松田 敏男	30

●巻頭言

眠る山から笑う山に移りゆく春。寒さに縮こまった背筋を思い切りのばして野山を歩いてみましょう。春の歌でも口ずさみながらユリ道を歩いてみましょう。陽光に輝く新芽や道端に咲き初めた花たちを愛でながら林道でも歩いてみましょう。日常の雑事や仕事のことはどこかへ追いやって汗を流しながら急登に挑戦してみましょう。遠くに冠雪の頂を望みながら尾根道を歩いてみましょう。激しく流れる雪解け水の轟音を聞きながら溪谷の道を歩いてみましょう。木の香をかきながら樹林の道を歩いてみましょう。

気持ちが落ち着いてきつと気分も晴れてくると思います。まさに爽快そのもの。野山を歩くと、どうしてこのように気分がよくなるのでしょうか。

それは、たまったストレスが解放されるからです。自然の力が人の身体のうちから働いてくれるからです。人のもつ機能が正常に働き、それまで異常や摩擦をきたしていた機能を順調に回復させてくれるからです。そして、悩む心もいつしか癒されるのです。

新ハイ関西山(代表) 村田 智俊



克

異国で歌う「早春賦」

—ボカラにて—

奥田英一郎

アンナブルナ展望のトレッキングからボカラに帰ってきた翌日、当初計画になかったサランコットの丘へも出かけた。モルゲンロートに映えるマチャプチャレ峰を、モディコーラを隔てて、何ひとつ遮るものもなく間近に眺めることができた。三角錐の特異な形をした雪肌が暗紫色から赤褐色に変わり、やがてしだいにオレンジ色から明るくなってゆくのは感動的であった。

レンガ造りの古い建物が並ぶオールドバザールを歩いて、ベア湖畔近くの「菜の花」ロッジに帰り、クローワッサンとゆで卵とミルクティーという軽い朝食をとったところである。明るい三階の花いっぱいテラスで、

チバスリーガルを飲みながら藤椅子にくつろぐ。どこまでも澄み切った青空のもと、やわらかい陽光をたっぷり浴び、アンナブルナ連峰が白く輝いている。

天候に恵まれたトレッキングだった。ガンドルンへくだる途中、にわか雨に遭ったが、埃がおさまったあとにきれいな虹が眺められて、かえってよかった。

ブーンヒルでの夜明け、黎明のグウラギリを見ようと、暗いうちに歩き出したときは、ヘッドランプに濃霧が映るだけで、眺望は半ばあきらめていた。それが3190呎のピークに着く頃、立ち込めていた霧が突然吹き消され、白みかけた空に青空が現れた。そのときハッとするような景色が眼前に広がったのは全く幸運だった。

ヒマラヤひだのくつきりと刻まれた山肌が赤褐色から濃いオ

レンジ色に染まって、躍動する霧の間隙から見え隠れる山の姿は神々しいまでに美しかった。グウラギリは一見してそれとわかった。山並の中央にひときわ堂々としていた。それはかつて見たことのない眺めであった(グラビア参照)。「神々の饗宴」、そんな言葉がふさわしかった。

同行の妻と女友だちは感激のあまり、うなり声で「ありがとう」と何度も繰り返していた。クルという青年が熱いミルクティーを持ってきてくれて、冷え切った身体に温もりがジーンとしみてゆく。その間も、激しく流れる霧の間から望める山々を感慨深く眺めた。

トレッキングに華やかな彩りを添えてくれたのはいろいろな花だった。高さ4〜5呎にもなるシヤクナゲの木に真紅の大輪を枝もたわなに咲かせているのはネパール園花のラリーグラスである(グラビア参照)。苔むす



克

随想

(山の思い出)

古木に着生する純白のラン、可憐な原生のプリムラ、ポーター頭が教えてくれたコットンフラワー・パツファローグラス等々……。十分に目を楽しませ心を和ませてくれた。

雪渓をトラバースして狭い谷間をくだっていたとき、ポーターが叫びながら指差す。その方を見ると、一匹のカモシカが険しい崖を何度も足を滑らせながらも何とか無事に横切って樹林のなかに消えていった。

ヒレのバツティ(茶店)で休んでいるとき、ロバ(ドンキー)の隊商がガラガラと鈴を鳴らしながら降りて来たが、先頭の一人頭が突然立ち止まって、首を上下に振り始めた。何かと違って足元を見ると、なんと、可愛い一羽の雛が石畳の上を駆けずっていたのである。重い荷を背負ったドンキーは人になぶかって平然としているのに、自分の体の百分の一にもならない雛にと

まどっている姿は、おかしくもあったが、命あるものこのころを深く印象づけられた。

トレッキング最終のガンドルンの夜、夕食に用意してもらった地鶏を大きめのブロックに切って、オンリーポイルとキッチンポイイに指示して、Mさん即席のソースでいただいた料理は格別においしかった。若い寡黙なポーターが鶏の頭を、老いて朴訥なポーターが黄色い油の塊を、それぞれもらって大事そうにかかえていた。

その夜、泊まり合せたイスラエルの若い男女2人とポーターたちを交じえて、日・イ・ネ3国の交歓会となった。イスラエルの2人は自国の歌をハモニー美しく聞かせてくれた。クルとポーターたちはネパール民謡のレッサソフイリリーを歌い、身振りよろしく踊った。

私たちは学校唱歌の中から春の季節に合う歌を歌った。次々

と各国の歌が披露されるなかで「早春賦」を歌ったとき、イスラエルの2人もネパールの皆さんも口を揃えて美しい歌だと言ってくれた。好きな歌だったので嬉しかった。が、実は私は皆と声を合せて歌うことはできなかったのである。

春は名のみの風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど
時にあらずとも声も立てず
……

この歌を聞くと、妹が小学6年のとき、やや音程の狂った調子で無心に歌っていたのを思い出す。

妹は肺炎で入院したあと、医師の治療の甲斐あって回復して退院したのだが、一、二年経った頃、聴力に異常が生じた。両親の懸命な奔走にもかかわらず結果はよくならなかった。耳鼻科の医師から薬害によるものだろうと聞かされた。聴力障害者となった妹は進学を断念した。



克

その妹が折々に口ずさんでいたのが学校で習った「早春賦」だったのである。今は年に一度ばかり、同じ障害者仲間と旅を楽しんだり、油絵を描くことをよりどころにして、一人暮らしをしている。最近では歌ももう忘れたのか？ 全く歌わなくなっている。

ガンドルンでの夜、「早春賦」が歌われ始めたとき、胸にこみあげてくるものがあった、声は出なかったのである。

その夜は楽しい交流の夜だった。イスラエル人・ネパール人・日本人が、民族・宗教・政治・文化の違いという壁など全く感じないで心をつなげて歌い踊り笑った。自然を愛し人間を愛し、自由を愛する者同士が、何のわだかまりもなく心を聞き、心を通わせたひとときであった。

マチアブチャレ峠は、いつまでも春のやわらかい陽差しのなかに輝いていた。2、3日後にはここを発って、あの喧騒と排気ガスと埃のカトマンドゥに戻るのには正直言って嫌な気がする。

ここボカラは憩いの楽園である。ゆったりと流れる時間がある。ベア湖の湖面をよぎっていく透明な空気がある。クルとカラムとか親しい友人もいる。人々はフレンドリーで旅人にも親切である。

優雅なボカラの休日だった。

飯ノ浦峠とアチラ坂峠

柴田 昭彦

中庄谷直「関西国辺 低山ワールドを楽しむ」(ナカニシヤ出版)の中に「あちら坂」が出てくる。

国民宿舎余呉湖荘と飯浦とを結ぶ道を「飯浦越切通し道」といい、その峠を少し西側にくだった所の北側に地蔵石仏があり、この坂道を「あちら坂」と呼ぶのだという。写真には飯浦峠ともある。

しかしあちら坂とは奇妙なネーミングだというのみで、中庄谷氏はその由来を説明していない。

市販の登山ガイドブックでは、無名の場合と、「飯ノ浦峠」とある場合、「アチラ坂峠」とある場合の三種類であった。イン



随想

克

ターネットの検索でも、飯ノ浦峠とアチラ坂峠は同一の場所であるはずなのに、単独でしか現れてこないのでもぎらわしい。筆者が行く市山のガイド(33頁)を書く際に集めた資料を調べ直すと、「飯の浦切通し」は賤ヶ岳合戦の激戦地で「堀切」ともいい、その坂を「飯浦坂」と呼んでいるという。手軽な参考書に高柳光壽「賤ヶ岳の戦い」(学研M文庫、2001年)がある。

平成14年5月5日、余呉湖の西尾根の縦走に出かけた。長宗清司「琵琶湖周辺の山」(ナカニシヤ出版)を読んで一度行きたいと思っていたので、「アチラ坂」の呼称の由来の解明を兼ねて、JR木之本駅前からバスで飯浦へと向かった。

「近江湖の辺の道」の道標があるが、お世辞にもわかりやすいとはいえない案内表示である。集落の東端から峠の方に刻まれ

た谷に沿う広い山道に入れば一本道で、石畳もあり、趣のある古道である。

切通しの峠のすぐ手前に「アチラ坂峠の地蔵」と題した案内板が設置されている。全文は次の通り。「飯浦の港が北国から来る人々にぎわった頃、余呉から飯浦へ通じる坂道をアチラ坂と言いました。この峠にある地蔵はもともと飯浦の集落にあったものですが、峠を越えてくる多くの人と会いたかったのでこへ安置するよう、お告げがあったと伝えられています。この歩道沿いには三つほどの地蔵がありますが、歩行者やふもとの集落をやさしく見守っているようです。」

瓦屋根の地蔵をまつた祠は雪の重みのためか傾き、今にも倒れそうだ。横の常夜灯には「奉納地蔵」と刻んである。案内文からは「アチラ坂」の由来は出てこない。

余呉湖西尾根の縦走に入る前に、山頂の案内板の表示を確認するため、賤ヶ岳の頂上へ向かった。

山頂の展望台で昼食にしようとしたら、自然保護監視員の腕章をつけたおじさんが親しげに話しかけてきた。西尾根に行くと言うと、道はあるのかと心配そうだったので、余呉町の1万分の1の地図を見せて、山道が記入してあることを示したが、半信半疑であった。

おじさんは體の大音の人で休日になるとボランティアで山頂に来て、お客さんに道案内をしたり、歴史の話をしつたりしているのだという。歴史や地名に詳しい方で、単なる他人の話の受け売りでなく、自身で研究したことを「伊香・余呉は朝鮮系統の言葉だらう。羽衣伝説はチョゴリと関係があると思う。若狭への古道は朝鮮からの人の道。余呉湖畔の新羅



克

森(白木の森)はその名残。小字地名は大切なのに若いもんは大切にしない。マツタケ山を再生するのが夢だが、薪木をとらんようになって下刈りをしなくなった山には生えてこない。古代の赤米を育てとるが肥沃地では2畝にもなるのでやせ地がいい。山中を歩いて見ると耕作地跡やシシガキなどが見つかっておもしろい所がいっぱいある」などと話をされた。伊香・余呉は日本語でも解釈されており、そのまま信じられないが、興味深い内容であった。

そこで、疑問に思っていた「アチラ坂」の由来と「猿が馬場」の位置について尋ねてみた。「飯浦の人から、もとはこちら(集落)にあった地蔵さんをあちら(峠)に移したことから、アチラ坂という、と聞いたことがある。飯浦の人は余呉湖の畔に土地を持っているから、峠をよく行き来してきた」とのこと

あった。

「猿が馬場」の位置というのは「余呉の庄と賤ヶ岳の合戦」(余呉町観光協会、平成元年)というパンフレットに「茶臼山と賤ヶ岳山頂の中間の所に猿が馬場がある。最初秀吉はここから余呉湖畔を見下ろし、指揮していた」とあるが、その地図には「猿が馬場」は賤ヶ岳山頂の北東1.5kmの269.7m峰に記載されており、茶臼山の南西150mにあり、矛盾した位置になっていることをいう。「日帰りハイキング関西」(JTB)の帰りハイキング関西(丁T)のるぶ情報版)では猿が馬場は茶臼山の北ということになっている。

賤ヶ岳頂上にある「賤ヶ岳合戦図(木之本町観光協会)」では、「猿が馬場」は蜂ヶ峰(349m)と賤ヶ岳の中間地点にあり、矛盾が生じない(蜂ヶ峰は茶臼山と賤ヶ岳の中間にある)。おじさんも、この位置で間違いないと言

う。

「さる」とは「取り去る」「曝す」こと、「馬場」は「山上の平坦地」、よって、猿が馬場は「山中の少し広い場所」のことだとされている(地名用語語源辞典、東京堂出版、昭和58年)。

おじさんは合戦図に行市山が二つも書いてあるから早く消せと言ったのにまだ消しとらん、と怒っていた。切通しの峠は「飯ノ浦峠」と記載されている。なお、「みんなの山歩き 大阪周辺」(協同出版、昭和60年)に掲載されている合戦図の写真をみると、現在の合戦図と同一の内容だが、行市山は一つしかなく、字体が異なるので、書き直されたことがわかる。

木之本町では担当者によって「飯ノ浦峠」としたり「アチラ坂峠」としたり、一貫性がないが、おじさんのように「アチラ坂峠」が正しいと主張するより併用されていると認めるほうが



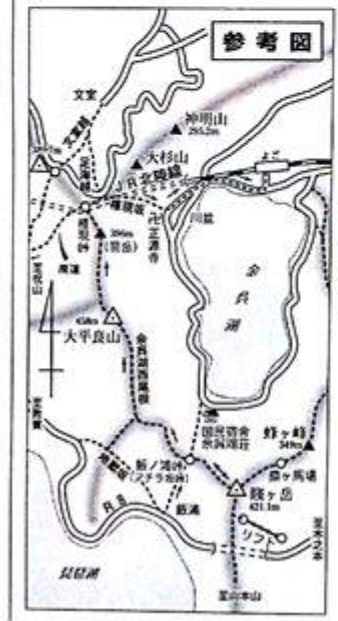
随想 (山の北東) 克

よいだろう。

おじさんが他の客を相手に合戦の話に力を入れたのを潮時に、余呉湖西尾根へ向かった。飯ノ浦峠(アチラ坂峠)の地蔵から登り、公法寺山(386m)で自然歩道に別れを告げ、「利用者のみなさんへ!」という看板の背後から、やぶの西尾根の縦走に入った。

赤布があり、踏み跡もあるので、さほど難しいコースではないが、大平良山(点標名、458m)の北方の尾根筋で西斜面に道はずしそうになり、あわてて尾根に戻るハプニングもあった。慣れない人は立ち入らぬほうが無難だが、余呉湖周辺山地の完全縦走を試みる人はけっこういるようだ。

合戦図によると、川並の西山を世岳という。396m地点であろうか(中庄谷氏は「足海山」と地図に記入している)。このあたりに、テープが張ってあって



北東にくだるようになってい

が、単なる山道で、どうしてもう少し先の鞍部の権現峠まで案内しないのか不思議である。

蔵王権現のまつられた権現堂があったという権現峠には灯籠が残り、権現越の古道が折れにくだっている(祝山方面は廢道)。

テープに従い、北東にくだると林道に出て、石仏がまつられているが、文室から登ってここに至る足海越の道が権現坂と合流している(余呉の庄と賤ヶ岳合戦)余呉町教育委員会、昭和61

年)。

中庄谷氏は足海越と権現坂越を同じ道としているが、同じなのは石仏まで、足海越は文室へ、権現坂は川並へくだっているから区別しなくてはならないだろう。

ぬかるみがちな権現坂をくだり、正源寺の左手に出て、JR余呉駅に着いた。アチラ坂、猿ヶ馬場、余呉湖西尾根縦走と、三つの懸案が片付いて、満足できる山行となった。

あのカタクリを求めて

小塩山からポンポン山へ

京都西山

田中 明

阪急東向日駅からのバスは15分で南春日町に着き、満員のハイカーを吐き出した。

人の心はこれほどまでも一つののだろうか。京の西、山陰街道が亀岡方面に越える峠を老ノ坂というが、この峠をはきんで南北に連なる山地を老ノ坂連嶺と呼んでいる。この山地の代表的な小塩山(642呎)にきょうも多数の人たちが集う。帝陵の頂、ここ小塩山一帯はカタクリの宝庫。4月ばかりは麓のサクラの花見でこった返し、山頂はカタクリ見学でにぎやかだ。

ひょんなことから京都府立S病院の整

御陵道を1時間と少しで小塩山頂上だ。あたりには6、7本の鉄塔が林立している。麓の集落の人たちが通称アンテナ山と呼んでいるのがわかる。

山頂奥まった所には淳和天皇陵(延暦五年(786)~承和七年(840))がある。皇は桓武天皇の第三皇子で、即位から讓位まで10年であった。嵯峨上皇の力により治世中は安定した御代であったが、最後は上皇の第二皇子の意に背いて讓位となったようだ。

崩御の後は陵をつくらず、遺骸は埋めず、火にふすようにとのご意志であったようである。

土葬の時代になると勇氣ある決断では



形外科と、リハビリテーション科に勤める先生といっしょのカタクリ山行にやってきたのだ。

大原野神社・正法寺に向かう畦道を華やかに飾るキク科のコオニタビラコ・セイヨウタンポポ・ハルノゲシの黄花を一面に眺めながら、花曇りのきょうも幸先のよいスタートである。

御陵道に取りつくと、すぐにムラサキケマン・ミヤマキケマン(ケンシ科)の出会いだ。この付近はタケノコの産地でもあり、朝摘りの軽トラが忙しく走っている。

ゆるやかな林道から一汗かくと二本杉の展望台である。途中、名残のシュンラ

なからうか。「骨粉砕、奉散」大原野西山嶺上」と『続日本書記』に記し残されているという。つまり今という散骨の先がけである。小塩山周辺の山麓に灰谷・出灰・灰方の地名が残されているのはこれらの話に通ずるものと思われる。はかなくも厳しい皇位継承争いに敗れた天皇の心を察すれば、複雑な気持ちになるのは私だけではないだろう。

さて、本日のお目当てカタクリの第一群生地は、NTTバラボラアンテナの前にあり、一面ピンクの花で満開だった。

カタクリは太陽が大好きな花の代表である。特に北斜面のコナラが立ち並ぶ林床に多く咲く。冬の間から暖かな陽を受けて春一番に咲く。多くの花たちが山野に新芽を出す前に、フタバを出して3月下旬に一本の花茎がのび、2週間ほどで茎先に3、4枝のピンクから薄紫色の花をつける。

カタカゴ・カタグリ・カタコユリ・カタッコ・カタカタと、いずれもその土地土地での呼び名で愛されている。

山の花を愛する人たちの一番の人気者のゆえんは、振り返る花弁の可憐な姿も

カタクリの群生



ン(ラン科)、開花にはまだ遠いイチヤクソウ(同科)を見つけ、一本立てる展望台の足元にはカンサイタンポポ(キク科)、タチソボスミレ(スミレ科)。ルーベでシベヤ花冠等をとことん観察する医学界の人たちを見やりながら、いつもとは角度を変えた山野草の観察機会ともなった。その姿を見て、物の見方考え方は千差万別であることを改めて考えさせられた。

魅力的だが、7、8年かけて地上に現れ、ほかの植物が茂る前に早々と消える。そのはかなさ、深さが私たちハイカーの心をくすぐるのではなからうか。花ことは「初恋」。うつむき加減に咲く姿からはじらう乙女を想像して考えられたのであろう。

そばにはミヤマカタバミ(カタバミ科)も薄いピンク色をつけ、精一杯の麗しさを表現しているものの、一帯のカタクリばかりが女王でちょびり寂しそうに見える。

アンテナの鉄塔群をぬうように引き返し、淳和天皇陵にお参りし、地味だが一面に広がるツルシキミ(ミカン科)を見て、直下の谷間には第二のカタクリ群生地あり、所狭しと咲き競っている。

近年、地元の西山自然保護ネットワークの人たちがそれぞれの群生地にロープを張って散策路を整備し、パトロールしている。乙訓の自然を守ろうとの活動が年々高まっている。その西山に住まう者として自分にできることは何なのか、と自問自答の昨今である。

数多くのカタクリの可憐さにたっぷり

と心揺さぶられ、すっかり心がなごみ、次なる山を目指すこととした。

淳和天皇陵裏道から西へしっかりとした踏み跡から、すぐに北向き急斜面の階段らしき山道を大原野外畑町中畑へくだる。のどかな雰囲気たんぼ道をのんびりとオドリコソウ・ホトケノザ・ヒメオドリコソウ・カキドウシ(シソ科)、ムラサキサギゴケ・オオイヌノフグリ(ゴマノハグサ科)などの野草たちを愛でながら、森の案内所へ到着した。

ここはボンボン山のゴルフ場開発予定地で大きな問題となったが、自然を守る大きな運動により、自然のままにしておくという画期的な「大原野森林公園」が平成12年に開園した。研修室・休憩所の管理室・水洗便所・展望デッキ等の諸設備は山奥には不似合いだが、「自然そのものが公園施設」「自然とともに市民とともに」を基本テーマに「優れた生物的自然の特性を維持しながら、人と自然が触れ合える場」とし、地域振興を図るとともに持続的利用を行うこと」を基本理念におき、今までの都市公園にない新しい観点で整備したと京都市は説明している。

いずれにしても東尾根と西尾根ルートを持っているボンボン山を目指すハイカーの登山口でもあり、下山口ともなる大原野森林公園一帯が全ての山人に愛され、私たちを楽しませてくれる。この自然を次の世代に残していくよう、マナーとルールを守る姿勢が大切であろう。

ところで、私たちはこの東・西尾根ルートは踏まず、真ん中の出灰川支流に取りつき、ササやぶのなかに芽を出した直後のキツネノカミソリ(ヒガンバナ科)を横目に、自然林と苦むした倒木が続く踏み跡をつめることとした。この道はボンボン山の北面のなかでもとりわけ植生豊かな一帯であり、草花好きには目の離せない花巡りコースでもある。

山中の溪流沿いにはニリンソウ・イチリンソウ(キンポウゲ科)、フタバアオイ(ウラボシ科)、コガネノメソウ・ヤマネコノメソウ・タチネコノメソウ・チャルメルソウ(ユキノシタ科)、ユリワサビ・ワサビ(アブラナ科)、キンキエンゴサク(ケシ科)、エンレイソウ・ショウジョウバカマ(ユリ科)などが群落で咲いている。



ミヤマカタバミ

ウ(ケシ科)、ゴヨウアケビなども開花の準備中である。この出灰川支流は「二俣」まで突き上げ

あまり見ることのないレンブクソウ(同科)、トウゴクサバノオ(キンポウゲ科)も沢沿いにひっそりと咲いている。山地の日当たりのよい所にはニシキゴロモ(シソ科)、フデリンドウ(リンドウ科)、ヤブレガサ(キク科)が咲き、林床にはヒメハギ(同科)にも会えた。もちろん登山道はニヨイスミレ・アオイスミレ・シハイスミレ・タチツボスミレのスマイレ科の花たちもオンパレードだ。もう1ヶ月もすれば咲くラショウモンカズラ(シソ科)、クサノオウ・ヤマブキソウ(シ科)、ゴヨウアケビなども開花の準備中である。この出灰川支流は「二俣」まで突き上げ

ているが、その中間あたりの一本杉の木陰で3人の昼食パーティが始まった。山馴れた先生たちは食事事も手馴れたものだから、花談義に交じって人の命を預かる医学界に生きる人生論を聞き、一介のサラリーマンとしての40年のキャリアなど、世界が変われば通じないものがほとんどと言っても過言ではなからうか。同じ会社一筋での常識論にもギアチェンジが必要であることが認識できただけでも遅くはなかった。

早春の花フクジュソウ群生地尾根道へは向かわず、二俣から送電線沿いの稜線を進み、ボンボン山のカタクリ谷へ足を踏み入れた。このカタクリはどうだ。小塩より大ぶりゆうに5〜6枚は十分あろう。元氣よくピンクの花弁を反り返らせてそよ風に揺れながら、言葉には言い尽くせない感動の春の妖精たちである。カメラ好きの人たちがビューポイントを占領している。ここは谷の斜面がきつく、足場もよくないため立ち止まるのはつらい。

イモック山遊くらぶ
3月2日(日)
救急法(ケガの手当法)と
初級の岩登り講習
詳細はお問い合わせ下さい。



〒653-0039 神戸市長田区日吉町3丁目1番27号
カナノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間 10:00-20:00 日曜日不特定

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezack

新製品紹介
◆ウォーキングW◆
2気室切替式短期縦走モデル

☆32/☆
*カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
*重量 1550g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥15,000

☆28/☆
*カラー マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
*重量 1400g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥13,000

・雨蓋内ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。



そのような悪条件下だが、可憐で魅力的なカタクリに会いたくて足を運ぶ人が何と多いことか。

来年もまたカタクリを見られたら幸せだねと、道々話しながら第一ベンチへ腰をかけて、そのときによくよくボンボン山の頂上を踏まなかったことに気づき、3人で大笑いとなったが、幸せいばいのときが持てたことによかったと心の底から感ずる山歩きであった。

さあ、来年は小塩のどの谷筋のカタクリに出会おうかな?.....

(平成14年4月14日歩く)

▲参考タイム▼

阪急東向日駅8・46(バス)南春日町9・02
二本杉9・35
小塩山カタクリ見学10・25
45
外畑11・00
森の案内所11・30
一本杉12・30(昼食)
13・30
ボン山カタクリ見学14・30
50
シャカ岳15・30
第一ベンチ16・00
西山キャンプ場16・30
阪急長岡天神駅17・30
△地図▽昭文社「京都西山」

怖いハブがいる

奄美大島の山

あまみ おおしま

西尾寿一

南西諸島

奄美の山へ行くとなるとマムシより強い猛毒をもつハブがいるというので腰が引ける。沖縄でもそうだが、まずハブとマンガースのショーを見せられ、ハブの怖さをたたきこまれるので、なおのこと登山そっちのけで身構えてしまう。登山適期は真冬かも知れないが、ゆえあって4月下旬の格安ツアーを延長して、4日間で多くの山に登ろうと4人で出かけた。

1日目、初日はツアー客といっしょで伊丹から空路で奄美へ到着し、観光バスで島の北部と名瀬市の名所を見てホテルにて解散となる。明日から3日間はレンタカーで自由に移動しながら登山活動が

決し、北側の古い林道跡を南下するがやぶとなる。小雨のなか、硬い靴にスパッツ、雨カッパに皮手袋、首にバスタオルを巻きつけての、大層な装備にわれながらあきれる。
やぶ漕ぎが長すぎる。いつの間にか傘をたたみ首のタオルをとって蒸し暑さをしのぐが、ハブの恐怖は消えたわけではない。山頂はやぶのなかであり登られていない印象だ。展望は皆無である。しかし下山の際テープを発見し、これは林道から直登していた。やはり物好きが丹念に登っていたのだ。

続いて最高峰の湯湾岳(△694・4貯・1等)に向かう。資料では南側の展望台からの一本しかないものと思っていたのに、北側にも立派な設備の登山口があり、



この山は北側からも登拝されていたことが判明する(むしろ北側のほうが本命か)。標識に従って北側の登山口を調べてみる。ガスでも見えないが、駐車場も案内板もある。しかも木道もあり、カクコトと靴音を立てながら登って行く。
しばらくで神社である。鳥居をくぐるとガスのなかに白い馬が異様に光っている。ギョッとして正視すると生きている馬ではなく、コンクリート製の神馬だった。素朴な信仰の姿を垣間見た思いがした。

3日目、この日は湯湾岳(△694・4貯・1等)に向かう。資料では南側の展望台からの一本しかないものと思っていたのに、北側にも立派な設備の登山口があり、

できる。市内の中心地にあるホテルに朝食付き三連泊とレンタカーの手配が済んでおり、まずは市内のレストランで前祝いとする。
2日目、天候がよくないが、まずは8時にレンタカーで出かける。島は山ばかりで峠越えが基本だ。平地や水田がない。北からまず島の最高峰の湯湾岳(△694)を目指してマテリアの滝を目指す。道標も少なく何人も人に尋ねながらやっと滝へ着く。
滝は低いが淵が巨大で立派だ。水はやや汚れている。付近に遊歩道もあり、人はいないが設備は整っている。
流をめぐる伝説もあるらしいが、滝が多くある地形ではない。湯湾岳に向かっ

小川岳



て行き、十字路を右(北)折し、小川岳(△528・2貯・2等)に向かう。この山をまず先に登ってやろうとしたが、取りつきがややこしい。ここでもハブが怖いのでやぶのなかを避けたい心が邪魔をして、入っては出て入っては出るを繰り返してしまふ。聞くところでは、ハブは木の上にもいて熱を感じて落ちてくるというので傘の用意もしてきた。やっと意を

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|------------------|-----------------|
| * 1 利根・碓氷・利根・阿蘇 | * 35 白馬岳 |
| * 2 セコ・羊蹄山 | * 36 奥鳥居・五竜岳 |
| * 3 大雪山・十勝岳・横尾岳 | * 37 駒・立山 |
| * 4 十和田湖・八甲田 | * 38 上高地・穂・穂高 |
| * 5 八幡平 奥平山・北山 | * 39 奥高尾 |
| * 6 奥駒・早池峠 | * 40 御前山 |
| * 7 蔵王 奥白川・奥山 | * 41 中央・南アルプス総図 |
| * 8 奥海山 | * 42 木曽駒・空木岳 |
| * 9 朝日・出羽三山 | * 43 甲斐駒・北岳 |
| * 10 飯綱山 | * 44 塩見・赤石・聖岳 |
| * 11 磐梯・吾妻・安達太良 | * 45 白山・荒巻岳 |
| * 12 那須・塩原 | * 46 奥山・伊吹・藤原 |
| * 13 日光 奥日光・白根山 | * 47 御在所・羅ヶ岳 |
| * 14 荒瀬 | * 48 比良山系 |
| * 15 越後三山 | * 49 京都北山1 |
| * 16 谷川岳・吾妻山・武尊山 | * 50 京都北山2 |
| * 17 志賀高原・草津 | * 51 京都西山 |
| * 18 妙高・戸隠・雨崩 | * 52 北岳の山々 |
| * 19 軽井沢・清見 | * 53 六甲・摩耶 |
| * 20 赤城・奥海・筑波 | * 54 吾妻高原・二上山 |
| * 21 西上州・妙義 | * 55 金剛山・岩瀧山 |
| * 22 奥武蔵・秩父 | * 56 紀伊高原 |
| * 23 奥多摩 | * 57 大峰山脈 |
| * 24 大菩薩峠 | * 58 大台ヶ原 |
| * 25 奥秩山・両神山 | * 59 赤目・奥信濃高原 |
| * 26 金峰山・甲武信 | * 60 氷ノ山 |
| * 27 高尾・陣馬 | * 61 大山・霧山高原 |
| * 28 内沢 | * 62 四国山々 |
| * 29 箱根 | * 63 石室山 |
| * 30 伊豆 | * 64 福岡の山々 |
| * 31 富士・富士五湖 | * 65 阿蘇・九重 |
| * 32 ハッケ岳・霧科 | * 66 祖母・栴 |
| * 33 奥ヶ岳・奥ヶ峠 | * 67 奥鳥居・奥鳥居 |
| * 34 北アルプス総図 | * 68 奥久島 |

★印は新仕様の地図です

- 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年更新発行します。この山の標高はなるべく最新版をご使用下さいませようお願ひ申し上げます。
- 2002年度版は「13日光・奥日光」「45白山・荒巻岳」「54吾妻高原・二上山」を全面改訂しました。

エリアマップ 昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011

(インターネットで情報発信中)
<http://www.maple.co.jp/>

かされた。雪に押されて曲がりくねった枝を払いながら、大きな枝をくぐったりまたいだりと「難行苦行」の様相となってきた。鞍部を越え高丸本峰の登りになってみずっと同じ状態で、時間だけが刻々と過ぎてゆく。

高丸から引き返して三周ヶ岳に登頂し、夜叉ヶ池から帰ろうというプランは甘かったと反省。ここで、どのようなコースで駐車場に戻るか思案をめぐらすこととなった。

いろいろ考えているうちにやっと山頂の一角にたどり着いた。頂上は意外と細

灌木が密生していて、足を取られてなかなか思うようには歩けない。気を緩めればなだかな谷の源頭へと誘い込まれそうになる。高丸の南斜面は全体にあまり凹凸がなく、下に向かって丸みを帯びた急斜面であり、灌木に遮られて視界が得られずかなり神経を遣う。

コンパスと地図を片手に、時折大きめの木に登ってあたりの景色を見比べて次の目標を決め、そこに到着したら、また確認し直してくだる。目指す1016のピークまでは地図で判断するよりずっと大きく落ち込み、まるで谷を隔てた別



高丸付近略図

の尾根のように見える。やがて放置された木の植林跡に出ると、そこは沼のようなヌタ場もある1016のピークとの鞍部であった。このあたりはオレンジ色の布のマークが散見されたが、いずれも樹皮が上に廻りこんでいて、かなり古いものであることがわかる。

ここで西に向きを変えなければならぬのだが、そのような顕著な尾根が見当たらない。しかし、池ノ又谷駐車場の対岸にある山ヌケが見えているので、場所は間違っていないはずだと言いつつ、尾根を探しながら一気池ノ又谷目指してくだる。足下がズルズルと滑るような急斜面で木に踏みながら悪戦苦闘。木の間に越しに先方を確認して方向修正を繰り返してゆくが、すでに夕暮れの気配が迫っていき、登り直しはできない。ずっと緊張の連続であったが、林道が見えたときは、正直なところ安堵感でいっぱいだった。

最後の難関は林道の側壁。このあたりの側壁はコンクリートで固められたうえ高さもあ

果たしたという喜びと、下りの不安が入り乱れてあまりのんびりともできず、複雑な気持ちで時を過ごした。

下りは南に派生する尾根をたどり1016の標高点で西に向かい、駐車場の近くへ出るルートをとることにする。ポツンと空中にいるような場所から方位を定め、下の状態がよく見えないのにくだり始めるのは少々勇気のいるものであるが、思い切って信じた方向へ足を踏み出す。ここでの絶対条件は「谷へはくだらないこと」。くだり始めてわかったことであるが、南斜面は太いチシマザサと

り、ロープがなければ降りられない。側壁の切れ目に出るように、目を凝らして木々の間を探しながら慎重にくだる。やがて明るく開けた部分を見つけてここから大丈夫！ 最後の3分ほどのガケは木の枝をロープ代わりにして舗装した林道に降り立った。思わず叫んだ言葉は「ヤッタネ！」。そこは鳥居の立つ地点よりさらに下流で、駐車場から10分ほど下流の所であった。雨降り前の谷風が、汗ばんだ体に心地よい。ほの暗くガランとした駐車場には、われわれの車だけが寄り添うように駒を並べて帰りを待っていた。

帰り際、やぶの籠をまともたらず山を見上げていると、突然強い風が私の帽子をさらって、暗くなり始めた池ノ又谷上流へと運んでいった。夜叉の神が本日最終の下山者に名残を惜しんだのだろうか、とても印象深い出来事だった。

(平成14年10月6日歩く)

▲コースタイム▼

池ノ又林道駐車場(30分)尾根取付(1時間10分)稜線(2時間10分)高丸(3時間30分)林道(10分)駐車場
△地形図▽2万5千||広瀬・美濃川上

深田久弥終焉の地を歩く

茅ヶ岳

安宅夏夫氏の著した『日本百名山の背景』と題した深田久弥伝が、昨年4月に集英社から出版された。白山を故郷にした同郷出身者への愛に満ち、全章に詩人の感性が散りばめられた書物である。その安宅氏に以前、私はある人に紹介され、20歳代半ばの頃にお会いしたことがある。

当時の私はビートルズ風の長髪で、ヒッピー族のように定職につかず、独身で自由を暮らしていた。リトルマガジン「他人の街」を拠点に大阪在住の詩人として活動していた支路道耕治氏の計らいで、私は安宅氏に出会えた。当時の安宅氏は、前衛短歌の若き旗手として活躍されていた。

木村太郎

甲州

た。

金沢市内で教職に就いていた安宅氏のご自宅を訪ね、関秀詩人の啓子夫人を交えて話を伺った。安宅氏はまだ深田久弥研究に手を染めていなかったし、私も山登りの趣味を持たない時代である。その時の話題は、安宅氏の詩歌の世界についてや、2人ともに私淑していた歌人塚本邦雄の事柄などであった。

その日署名していただいた、安宅氏の歌集「アドニス頌」と詩集「シオンの娘」は、今でも私の愛蔵書になっている。

アドニスに打ちのめされて山小屋より
満身創痍のヴィーナス還る
(安宅夏夫「アドニス頌」より)

のとして、興味の対象からはずれていた。ところが、安宅氏の深田伝を読み、深田が生きてきた姿を知ることができた。副題の「深田久弥・二つの愛」を織り上げ、北畠八穂と木庭志げ子との出会いと別れのあらましも知ることができた。

安宅氏の書いた深田久弥伝に触発された私は、新潮社の『日本百名山』新装版を手に入れて読み始めた。深田の山の文章に接し、その人の存在に親近を感じるようになった。その矢先に偶然、山友の信田さんと二宮さんから茅ヶ岳山行の誘いが入った。深田久弥が急逝した山で知られる茅ヶ岳へは、近年深田を慕って登

る人が増えている。深田が永い山旅の歩みを止めて眠りについた山へ、私も登ろうと思いついた。

わが街千里ニュータウンを未明に出発した。夜が明けたハイウェイの前方に富士山が現れた時、眠気は吹き飛んだ。峠インターを出て、昇仙峡ラインを通り、大明神開拓地の登山口に着く。まだ7時を過ぎたばかりというのに、すでに駐車場には20台を超える車、深田ゆかりの山の人気ぶりがうかがえた。

火山地帯に根づいたカヤトの茂る道を歩き出し、深田記念公園への道標を左手に見送り林道に入る。頭上高くカラマツ

やアカマツの樹木に囲まれ、旅情を呼び覚ますような静かな道がのびている。道は少しずつ高度を上げ、やがて谷間へと続いていき、屏風状の岩壁が立ち、はだかる女岩に行き着いた。この女岩はコース唯一の水場で、岩のすき間から清水が滴り落ちてくる。

気持ちをやつたり構え

産経新聞の書評欄で目にした安宅氏の近影は、青年歌人の顔から白髪の文士に変貌していた。歳月の流れには抗えないが、それでも若き日の気迫に満ちた面影を感じさせ、懐かしいものがあった。

私は50歳を過ぎてから「新ハイキング関西」に入り、山登りを始めたが、深田百名山はまだ私とは遠く離れた別世界にあった。深田の存在は無縁であるべきも

ていられたのはこの場所までで、女岩から尾根に取りつくと稜線への急登が始まる。先行する山友との距離が開いていくが、自分のペースを守って歩かなくてはいけません。呼吸が早くなり息が上がるかと思えた時分に、ようやく稜線に足が届く。登山道の片隅に開けた窪地があり、木の間越しに富士山を見ながら小休止。安宅氏の文にある、深田が山頂を間近にした鞍部で休憩をとった場所はこの地点なのだろう。その時深田は、好物のアンパンを地面に落としたが、拾うと土を払い平然と食したという。「いかにも野人深田らしいエピソードだ」と安宅氏は記している。

私たちは呼吸を整えると、ふたたび山頂を目指して歩き出した。100メートル歩かないあたりの道端に、私は小さな石碑を見つけた。碑前には香炉が供えられており、そこが深田久弥終焉の地であった。ピークハントの目的で気をはやる山友は、先を急いで歩いている。大声で呼ぶと、気がついた2人は碑の立つ場所へ引き返してきた。

私は目を閉じ胸の内を手を合わせ、茅



茅ヶ岳山頂 (信田恵介氏撮影)



深田久弥終焉の地 (二宮元氏撮影)

ヶ岳で通った山の文学者へ黙祷を捧げていた。安宅氏の言葉によるならば、「見事な山の文章で文学の世界を征服し、その劇的な人生を閉じた」と、山に生き山を愛した山男の鎮魂碑が立てられているのだ。

目を開けると眼前に、「秩父山群の王者である」と深田自身が形容した、五丈岩の印象的な突起を誇示しつつ金峰山が

そびえている。深田がまだ一高の生徒だった時代に、昇仙峡から単独行で歩いた山だ。若き日に深田が登り、山への憧憬をなくんだ金峰山は、秋の日に照らされ、百名山生みの親を称えているようであった。

私は何となく無口になりながらも、枯葉色に近い紅葉模様の稜線をたどり、待望の茅ヶ岳(1704m)に着いた。茅ヶ岳からの景観はすばらしいの一語につき。この日この山の稜線に立ち、その山容を目にした時よりも、富士山は裾野を大きく広げている。木花開耶姫が白馬を駆って登ったという、富士山の開山伝説も素直に信じられる、美しい女神の麗姿を見せている。

南から西へと視線を移すと南アルプス山群が、頂部は雲に隠れているが長大な山壁を連ねている。この日は北アルプスや浅間山の噴煙は眺望できなかった。西から北へと目をやると、きらわれ雲に上半身を隠されたハヶ岳の山塊が目に見える。峰頭が多いので「ニセハツ」の俗称がある茅ヶ岳だが、きょうは茅ヶ岳のほうが峰頭を誇っている。ハヶ岳の方を「ニセカヤ」と呼びたいくらいである。

右廻りに目を移していけば、瑞巒山や金峰山、さらには大菩薩嶺など、秩父の山並が隆々と重なり大屋根をのびしている。茅ヶ岳を取り囲んで並び立つ高峰のほとんどは、深田百名山に選ばれた栄光の山々である。それらの誉れの山々に見守られながら倒れ伏した深田は、街路で倒れるよりは山の作家として本望だったのではないか。

この日の昼餉の地と決めていた茅ヶ岳山群の最高峰の金ヶ岳へ目をやる。金ヶ岳を奥にした南峰から荒々しい岩尾根が観音峰へと張り出している。その右方向に、山梨百名山の曲岳や黒富士などの茅ヶ岳の友峰が連なる。気を引き締めてザックを肩に、キレットを越えて金ヶ岳を目指す。

蕪崎市街をへだてて南アルプスを眺めながらの昼食は楽しい。食後には優しき友がブランドー入りの紅茶を沸かしてくれた。温かい飲み物は、山では何よりの贅沢なのだ。夜になると、ブドウやリンゴがたわわに実る果実郷をぬって走る、中央線の列車の光が銀河鉄道のようにきらめくのだろうか。紅茶を飲みながら眼下の光景を想像していた。

岩場のすき間をすり抜け、石門の下をくぐり抜け、金ヶ岳から茅ヶ岳に引き返した。その時突然、南アルプスにかかる雲が流れ出し、鳳凰三山の一角をつくる地蔵岳の槍のオペリスクが現れた。それは東の間の出来事だったが、帰ろうとしていたわれわれへの、いつかまた会おうという山からの合図であり、天使のウイソクだったのかも知れない。



深田記念公園からの茅ヶ岳 (二宮元氏撮影)

下山路は登路とは道を変え、南にくだる防火線の尾根道をとる。左斜面はカラマツとアカマツの混じる針葉樹林帯、右斜面はミズナラとコナラとクスノギの広葉樹林帯で、両極端の林相の尾根歩きは快適なもの。頂部では落葉していたが、くだるにつれて黄葉の彩りを楽しめた。やがてカヤトの道になり櫓に行き当たら。道標に従い尾根を離れると朝歩いた林道に合つ。

くだり来た深田記念公園には、深田久弥自筆の記念碑「百の頂に百の喜びあり」が立っている。山友たちと一つの頂を極めてきた私だが、私の気分は「百名山の人」の生死を考え、喜びよりも悲しみが胸に渦巻いていた。この記念碑の地から茅ヶ岳を見上げると、山肌が映画のスクリーンにも見え、深田の生涯が写し出される気さえしてくる。

深田は、改造社にいた時に知り合った北島八穂と、「オロッコの娘」や「津軽の野づら」などの抒情的小説を共同で書いた。これは北島八穂の才能を見出し世に送り出す結果となった。初恋の人、木庭志げ子とは再会の後に、雨脚山を

共に歩き終生の伴侶となった。北島との別れで小説と決別し、木庭と結ばれたことで山の文学者として復活した。山のおかげで再生した深田が、山中で死を遂げることが必然だったであろう。

モーツァルトの「ピアノ協奏曲第27番変ロ長調」を、深田は自分の葬送の場で鳴らしてくれと遺言していた。モーツァルトが短い生涯を閉じた年につくられ、自己の運命への諦観を支えられ安らぎを与えてくれる曲であった。いうなれば日本百名山を歩いた深田は、何の気負いもなく、諦観を秘めつつ自然体で人生を生きたのだ。モーツァルトの最高の音楽のようにきらびやかに……。

(平成14年11月3日歩く)

▲コースタイム▼
茅ヶ岳登山口(1時間) 女岩(35分) 稜線のコル(30分) 茅ヶ岳(40分) 観音峰分岐(15分) 金ヶ岳(50分) 茅ヶ岳(1時間30分) 深田記念公園(10分) 登山口
△地形図▼2万5千 茅ヶ岳

昭文社『金峰山・甲武信』

新ハイ関西69号
標高△△69mの山

乗鞍岳 (2469m)・北アルプス)
口三方岳 (1269m)・白山系)
赤岩山 (669m)・丹後)
雷倉 (1169m)・奥美濃)

乗鞍岳

9月の三連休を利用して、柵池から白馬大池に登る計画を立てた。白馬大池からは、晴天ならば白馬三山を巡るのがいいし、大雪渓をくだるのもいい。人の多さに辟易するようなら、静けさが魅力の風吹大池を訪れるコースもある。という具合で、現場で決めようという気楽な山行計画で臨んだ。

そういう山行は気合が入っていないので、当日霧深い乗鞍岳に到着したときには、翌日はあっさり運華温泉へくっつけてしまうというルートに変更してしまっ

た。運よく晴れたら乗鞍岳に戻るか、小運華岳へ登って白馬岳方面の絵を描こうかなどとは思ってはいいたが。

結局、霧の深い朝を迎え、テントを窓枠にした白馬大池の景色と、霧の池塘群やナナカマドの赤い実の鮮やかな美しさが印象に残る山行となった。

(平成14年9月14日(15日歩く))

△コースタイム▽
柵池自然園ロープウェイ駅(3時間) 乗鞍岳(30分) 白馬大池(2時間30分) 運華温泉

△地図▽昭文社「白馬岳」

口三方岳

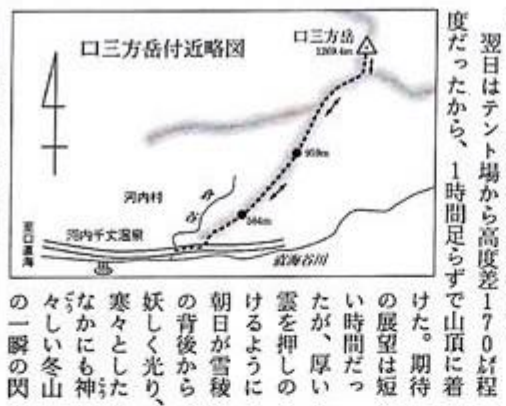
口三方岳は白山の北方の奈良岳から北西にのびる尾根上にある山だ。その位置から考えて、奈良岳や見越山などの主稜線がよく望めそうに思え、行ってみたい山のひとつだった。岩井さんがリーダーの4人のパーティで出かけた。

河内村の中心地の口直海から手取川の支流の直海谷川沿いの道を上流へ進む。奥に金沢セイモアスキー場があるため、奥深い所だがしっかりした道だ。スキー場を右に見て少し奥に入った所が倉谷との出合だった。

京都を朝に出発したから、歩き始めたのは12時前だった。出合の少し上流にはつきりした登山口があり、しばらくの間急登が続く。しっかりとした雪道に変わる頃にはゆるやかな尾根となり、564mの標高点に着いた。

視界はよくなく、うすら寒い雪の尾根だった。959mの標高点も過ぎ、4時間程で1100m付近まで登り、ササ原とわかる程度の安定の悪い雪の上にテントを張った。4人の重みで半ば強引に平面にしたという感じだったが、夕刻も迫っ

ていて、しかたのない判断だった。



口三方岳から見越山と奈良岳を望む

翌日はテント場から高度差170m程度度だったから、1時間足らずで山頂に着けた。期待の展望は短い時間だったが、厚い雲を押し上げるように朝日が雪稜の背後から妖しく光り、寒々としたなかにも神々しい冬山の瞬間の閃

きに遭遇できた。

下山後はスキー場入口の河内千丈温泉に入った。

(平成10年12月12日(13日歩く))

△コースタイム▽
直海谷川倉谷出合上流登山口(4時間) 標高1100m付近(40分) 口三方岳(3時間30分) 車止

△地形図▽2万5千(口直海)

赤岩山

海が近くに見える山というのは、ダイナミックで開放的な気分にはさせる。敦賀半島の蝶々ヶ岳や丹後半島の依達ヶ尾山など、まさにその典型だ。赤岩山も丹後の海を近くに望める山ということで魅力を感じ、田辺さんと2人で訪ねてみた。

車の道程が長いので夜に登山口まで入ると車を置ける所が見つからず、手前の林道横の広場まで戻って駐車した。

以前、依達ヶ尾山に登ったとき、朝食を山頂で海を眺めながら食べると爽やかな気分を再び味わいたくて、何も食べずに出発する。

朝の斜光に花弁の夜露がきらめき、地味な低山の花も美しかった。

山頂付近は山名になった赤味の勝った岩がいくつか点在していて、独特の雰囲気のある所だった。

やっと正午を過ぎたという早い時間にはもう下山していた。西方寺平は静かに時が流れているような、私の日常とは別世界の空気に満ちていた。

(平成13年7月8日歩く)

△コースタイム▽
西方寺平(2時間) 赤岩山(1時間20分) 西方寺平

△地形図▽2万5千(内宮)

雷倉

大垣から奥美濃の山々を望むと、小津権現山と花房山が立派に見える。その花房山の右奥に雷倉があって三角形の美しい形をしている。北東にまっすぐのびる尾根を八谷から往復した。

(平成2年10月10日歩く)

△コースタイム▽
八谷(3時間) 雷倉(2時間30分) 八谷

△地形図▽2万5千(樽見)

新ハイ例会・自然観察山行

雨ヶ岳から毛無山 天子ヶ岳から長者ヶ岳

静岡 岡

鷲見守康

東名高速道のサービスイリアで時間を調整しながら、朝霧高原の猪頭付近に着したのは、未明の4時半過ぎであった。

やがて白々と夜が明けてくると、軒を連ねる民家の上に、黒々とした形のよい低山のシルエットが見えた。しばらくぼんやり眺めていた私は、突然、気がついたのだ。

「あっ！ あれは富士山だ！」
それは意外なほど低く、まるで里山のように見えたのである。

雨ヶ岳から毛無山
国道139号線の根原バス停付近でバ

スを降り、北側の浅間神社への小道に入った。A沢貯水池を左手に見て、さらに進むと端足峠登山口で、峠まではなかなかの急登だった。

バス停から1時間ほどで端足峠に到着。北斜面眼下に見える湖は本栖湖のようだ。峠から左へは雨ヶ岳、右へは竜ヶ岳である。竜ヶ岳方面のササ原の急登にも切り開きがある。ティータイムの後、いよいよ本日の行程一番の登りだ。

明るい雑木林から展望のあるササ原となり、やがて再び雑木林となってブナ林へ入る。急登の連続だ。道沿いに時どき皮が剥がれた樹木が見られる。接近してみると、シカが食べた痕跡だったり、あ

毛無山山頂



さんが「それだけ富士山が高いということよ」と言う。なるほど、富士の高さゆえに、周囲の山は見かけ上低くなってしまふのだろう。こんなとき、K・Yさんの説には周囲をうならせる説得力がある。そういえば、彼女の地図読みはかなりのもので、ヤマカンで歩く私などしばしばいい加減さを正され、うろたえながら納得することになる。

ワイワイガヤガヤのカメラタイムを終え、これから毛無山(1946m)へと続く静岡・山梨県境稜線の縦走だ。やぶは深いのだろうか。

雨ヶ岳・毛無山・長者ヶ岳・天子ヶ岳付近略図



当初、毛無山には、麓山ノ家から不動の滝ルートに登り、山頂から稜線伝いに地蔵峠まで行って麓山ノ家に戻るという周回コースを考えていた。この周回コースとは別に、雨ヶ岳からの縦走という方法がある。けれど、情報を集めてみると、切り開きがあって何とか歩けるという話の一方で、やぶ漕ぎの熟達者向き、あるいは猛烈なササやぶで積雪期向きという情報もあった。そこで、情報などももらえなくてももとのつもりで、富士宮市役所観光担当課に照会してみたのだ。すると、何と「私も毎年ササ刈りをして

ますから、大丈夫ですよ」という返事。半信半疑でこのコースを選択した。かりにやぶ漕ぎとしても、それほどひどいササやぶではなからうと判断したので。

1時間ほどで明るい台地の高デッキに到着。この高デッキは標高1900mを超えて、1700mあたりまでは、モミとツガを混じえた太平洋側ブナ林であったが、ここまで来ると、ウラジロモミ・コメツガ・トウヒなどの亜高山帯針葉樹が出現し、南アルプスの雰囲気を感じ出している。

やぶ漕ぎは免れたものの、夜行で来ている身にはなかなかきつい縦走で、1959m付近から眺める毛無山は、なお遠かった。休憩すると、ベタリと坐りこんでしまうメンバーもいた。泣き言も出た。

毛無山頂手前のピーク付近では、ユリ科の草株が群落をつくっていた。「ウン？」と思い、葉をちぎって臭いを嗅いでみた。「やっぱり、ギョウジャニンニクだ！」これまで見たこともない規模の群落である。雨ヶ岳からのアップダウンのきつい縦走に疲れた身体には、元気の素となった。まさしくニンニクの香りであり、ピ



天子ヶ岳山頂

リカラである。メンバーの皆は口に含んで感激。ギョウジャンニクの群落は毛無山頂まで所どころに続いてた。
11時30分、毛無山山頂に立った。空には全面に雲が広がり、すでに見晴らしはきかない。日差しもなくなって肌寒いのが、ここで昼食休憩とする。二百名山に選定されているせいで、毛無山まで来るとハイカーが多い。

「じゃないですか？」とやんわり再考を促してくれたのだった。彼女は3月の伊豆山稜線歩道縦走山行にも参加しており、その山行中ずっと、私がシコクスミレを探していたことを知っていたからだ。ところが、彼女に尋ねられた私は、ふいふい突かれたような感じでとまどうばかりだった。

実は、当日、私の頭の中からシコクスミレは全く消えてしまっていたのだ。そもそも、私がシコクスミレを見たのは過去に一回切りで、花のイメージも不確かなものだった。だからこそ、いったんヒメミヤマスミレと思い込んだらもはや訂正がきかなくなっていた。私によくある失敗のパターンである。

天子ヶ岳(1330m)の山頂は狭い所だが、手前にブナが点在する雰囲気の良い大きな広場がある。山頂からはなかなか尾根道を進み、1時間ほどで長者ヶ岳(1335・8m)の山頂に着いた。東方向の見晴らしがきき、改めて富士山と向き合う。田貫湖から長者に登るコースは人気があるようで、ハイカーも多く富士山の展望を楽しみながらにぎやかに休憩中だ。私たちも大休止のテイタイ

下山は、地蔵峠に廻り、沢沿いにくだる。かなり段差の大きい急坂である。この急坂が終わった頃、油断したのか、私は左膝をひねってしまった。

天子ヶ岳から長者ヶ岳

当初、田貫湖から長者ヶ岳に登り、天子ヶ岳から白糸の滝へくだる計画であった。けれど、急坂の天子をくだるのは膝を故障した私にはつらい。メンバーの皆さんにお断りして、下りは長者のゆるやかな道を選び、急斜面の天子を登ることにした。

観光を兼ね、白糸の滝でいったんバスを降りる。再びバスで登山口に接近し、林道の出合手前から歩き出した。やがてサクラ並木の道のをんびり進むようになる。

昨日の毛無山も、そして長者も天子も野鳥はかなり多く、少なくとも20種類以上のさえずりが聞こえていた。

日本三鳴鳥と呼ばれるウグイス・オオルリ・コマドリ。オオルリは長者の下りで姿も見せてくれた。夏鳥として渡ってくるのはクロツグミ・キビタキ・イカル・クロジ・ツツドリ。クロツグミは「森の

ムとした。

長者の下りでは、ピンクのツツジの花が目立つようになった。昨日の雨ヶ岳と毛無山で、私はこのピンクのツツジをトウゴクミツバツツジと説明していた。何か花の終わった株を確認していたのだが、R・Nさんから「おしべが5本だから、(ただの)ミツバツツジじゃないですか」という疑問が出されていた。考えてみれば、私は花を確認していない。「ぶつうのミツバツツジがあってもおかしくはないのですが……」とモゴモゴと言葉を濁してはいたけれど、内心気にかかっていた。

さて、ツツジに近づいてまずビククリ。花の時期にすでに葉が展開しているではないか。ミツバツツジ属は花期には葉がないはずである。あちこちの株を観察して、いよいよ私は迷迷の度を深めた。葉形はミツバツツジではない。むしろヤマツツジに近いのだ。そして、おしべの数も個体により五本もあれば、一〇本ものもある。初めて出会ったツツジだとわかり、遠目で適当にトウゴクミツバツツジと片付けていたわが身の不明を恥じた。

歌手」と形容される豊かな声量、キビタ

キは転がるような声で、イカルは「お菊二十四(キイコキイ)」とのどかに、クロジは独特の節回りで、そしてツツドリは遠くで「ポポッ、ポポッ」と歌っていた。春を迎えて高山から降りてきたのは、ミソサザイ・ルリビタキ・センダイムシクイ。留鳥として年中いるのはカラ類のシジュウカラ・ヤマガラ・ヒガラ・コガラ・ゴジュウカラ。一番小さなキツツキのコゲラ。もっとも身近なヒヨドリ、悪声なのに目の覚めるような姿のカケス、さらにキジバト。さながら野鳥たちの歌の饗宴であった。

天子の登りで、私はスミレ属の花をめぐり大きな勘違いをしてみました。斜面に点々と咲く白色のスミレをヒメミヤマスミレと説明したのだが、これが実は太平洋側ブナ林の林床に生きるシコクスミレであった。

ヒメミヤマスミレと取り違えた当日の私の頭の思考回路を説明すると切りがな、言い訳がましくなるのでやめるが、この白花を最初に見つけたのは私のすぐ後を歩いていた花好きのA・Sさんと、彼女は「ひょっとすると、シコクスミレ

これが愛蔵連峰から天子山塊付近にだけ分布するアシタカツツジとの出会いだった。

今が盛りのアシタカツツジの花を愛でながら、正午きっかり、私たちは田貫湖へ下山した。

(平成14年4月26日〜28日歩く)

△コースタイム▽

- [26日 晴れ] JR岐阜駅23・10(バス)
 - [27日 晴れのちくもり](バス) 朝霧高原民宿4・45(朝食休憩) 6・00(バス) 根原バス停付近6・15 浅間神社6・20 端足峠7・30 雨ヶ岳9・00 高デック10・00 11959(ピーク)10・50 毛無山11・30(昼食) 12・20 地蔵峠13・20 麓山ノ家15・40 50(バス) 朝霧高原民宿16・00(泊)
 - [28日 くもりのち晴れ] 民宿6・00(バス) 白糸ノ滝6・15(滝見物) 6・35(バス) 立石6・40 登山口6・50 林道出合7・20 天子ヶ岳9・15 30 長者ヶ岳10・25 45 田貫湖12・00(バス) 朝霧高原温泉12・30(入浴・昼食) 13・45(バス) 岐阜駅18・30(解散)
- △地図▽昭文社「富士・富士五湖」

ニュージーランド山旅紀行

ルートバントラック

塚元一彦

ニュージーランド

3年連続したスイスの山旅の参加者は延60人に達した。1年間海外山行を休んだのち、「牛乳と蜂蜜の流れる国」「人生観が変わる国」のキャッチフレーズに惹かれて、ニュージーランドの山旅を企画したところ、当初の定員20人を上回る参加者があった。南十字星が輝く島国のトレッキング体験を紹介する。

11月11日 出発そして到着

関西空港に参加者23人が集合した。うち15人はスイス山旅のメンバーである。今回は旅費節約のため、添乗員なしの旅行だが、英語に強い人が数人いることが心強い。

円。びっくりするほど大きなビザが5〜7NZドルと、値段は安い。

もう一度国内便に乗る。機上からはザンアルプスの山並が見えた。氷河に削られた鋭い頂の連なりが、真っ白に雪を被っている。思わず見とれてしまう美しさで、思わず歓声が上がった。1時間のフライトでようやく登山基地のクイーンズタウン着。現地旅行社係員の出迎えを受け、バスでホテルに向かう。この町はニュージーランド最大のリゾート地で、先住民マオリ族が「ひすいの湖」と呼んだワカティブ湖に面し、周囲は2000m級の山々で囲まれている。湖は氷河の跡で緑の水を満々と湛え、水深は300mに達するという。湖畔にはしゃれたホテルや展望レストランが多く、ヨットマリナーもある。

17時、町の中心部にある登山サポート会社の事務所で開催される説明会に全員が出席。日本語のビデオでコースのあらましの紹介と若干の注意事項を聞いたのち、あすからの山小屋で使用するシートが貸与される。ホテルに戻り、あすからの山行に備えて酒は控え目にする。夕食を終わり、各自部屋に引き上げた。

17時40分に出発と同時に、時計を4時間進める。時差は3時間だが、現地はサマータイムのためプラス1時間になる。機内で夕食をとり、ひと眠りして窓の外をのぞくと、太平洋上の黒い雲の間から真赤な太陽が昇ってきた。朝食後の8時25分、北島のオークランド空港着。出発して1時間経っている。ニュージーランドは遠い国だった。

入国手続きは普通だが、検疫が厳重だ。純農業国のため、植物の種や生の食品は持ち込み禁止。山靴を履いている人は靴底を検査され、泥が付着していると、水で洗滌を命じられていた。

現地旅行社の日本人スタッフの出迎え

11月13日 大景観ブラス雪崩を遠望

朝7時、スツーカーをホテルに預けて出発。曇ひとつない絶好の登山日和だが、外気は15度とやや肌寒い。ガイドと共にバスが来た。ダンカン(男)、アンディ・ブリジット(女)の3人でアンディはかなり流暢な日本語ができる。いずれも20歳代の若者で、清潔な感じが好ましい。参加者一人ひとりに胸につけるネームプレートを渡してくれたが、姓ではなくファーストネーム。私の場合はローマ字でKAZUHIKOとなっている。もちろん彼等の胸にも名札がついている。

バスに乗り、ワカティブ湖を南へ半周して、2時間ほど走り、テアナウに着き、モーニングティータムになる。紅茶・コーヒー・ソフトドリンク・ビスケット類が用意されており、テアナウ湖を眺めながら30分休憩。ここは湖畔のリゾート村で、有名なミルフォードトラックはここで道が分かれる。さらに1時間半走るといよいよ出発点のデイバード峠(5300m)に着き、ここで弁当を受け取って歩き始める。ガイドたちは20mを超す大きなザックを背負っているが、足取りが軽いのとは若さとプロフェッショナルゆ

マッケンジー湖から見たオーシャンピーク



を受け、国内線ターミナルへ移動。10時に国内便に乗り継ぎ、約1時間半で南島の中継地クライストチャーチに着いた。この空港では約2時間の待ち時間があり、ちょうど昼どきになったので、カフェテリア方式のレストランで昼食にした。ガラスケースの中にはいろいろな料理が並んでいるが、何と「巻寿司」がある。ビール小瓶が2NZドル(1NZドル=約60

えだらう。

登山道はおおむね2人並んで歩けるほどの広さで、樹林帯のなかをゆるやかに高度を上げてゆく。シルバピーチ(銀ブナ)と呼ばれる木が多いが、幹は一面苔におおわれている。年間降雨量は5000mmを超えるというから、日本の2〜4倍。苔のほかにさまざまなシダ類・地衣類が繁茂している。数多く見られるプリンス・オブ・ウェールズと呼ばれるシダのほとんどは半透明に近い葉がめずらしい。日本の山で見かけるサルオガセに似た寄生植物ゴブリンモスが、樹木の枝にぶら下がって異様な雰囲気をつくり出している。

1時間歩いたところで、キイサミットへの分岐点。ザックをデポして、30分の距離の頂上(9199m)へ向かう。360度の展望があり、残雪を被った山並が団体で姿を現した。息をのむ大景観である。西に見える三つのピークの主峰はクリスティネといい、ひととき秀麗だ。突如、斜面に雪煙が上がった。雪崩だ。昨日降った新雪が表層雪崩を起こしたのだろう。続けて二回も雪崩を望見できて一同大喜びだった。草原状の頂上を一周し

大阪50山

大阪府山岳連盟編 四六判 一九〇〇円
 摂津・河内・和泉の三つの地域から大阪の岳人達が選んだ50山と番外2山を写真と地図と共に紹介。山名の由来や豊かな歴史にふれながら登山コースをていねいに案内する。

鈴鹿の山を歩く

草川啓三著 四六判 予価二六〇〇円
 昭文社の地図「鈴鹿山系」の著者が鈴鹿の全貌を語る。内容は「鈴鹿山系全山(約80山)概説」を始め、「おすすめアドヴァンスコース20」、「フォト&エッセイ32」等。(3月末刊行予定)

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
<http://www.nakanishiya.co.jp/>
 京都市左京区吉田二本松町2
 ☎075-751-1211 〒606-8316

て分岐に戻り、約10分でハウデン湖畔の休憩舎に着き昼食。先行したガイドの1人のお湯を沸かして紅茶をつくってくれた。巨大サンドイッチとパウンドケーキにオレソジ。ほとんどの人が持てあましていた。

ハウデン湖を出発して1時間半経った頃、道には岩が多くなり水音が聞こえてきた。イヤーランド滝である。80mの高みから一気に落ちてくる滝の轟音がすさまじい。滝は水流ではなく、まさに水の塊が重なって落ちてくるような荒々しさだった。

さらに進むと道が平坦になり、きょう一番の展望地オーチャドに達する。振り返ると先程の滝が小さく見え、氷河が削った鋭い頂を持つターラン山脈と谷を隔て

て対峙する。どの山も残雪を被り、青空に向かってスツクと立つ姿が荘厳だ。地図とコンパスで山座同定を試みるが、このあたりは磁北線の偏りが東へ21度という。そのうえ太陽が北にあるものだから、方向感覚が狂ってしまう。ここから少し下り気味の道になり、約1時間でマッケンジー湖に近いロッジに着いた。ザックを置いて、歩いて10分の湖畔まで散歩。水面に映るオーシャンピークやエミリーピークの景観を楽しむ。岩の配置に何となく日本庭園の趣があり、だれかが「ルーバン松島」と呼んでいた。

ロッジは定員24人だからわれわれだけの貸切。シャワー・洗濯機の設備があり、トイレは水洗(浄化槽で処理)。一室4人の二段ベッドになっている。クイーンズ

11月14日 ヘリで峠越え

昨夜降り始めた雨は、朝になっても続いていった。7時にトースト・牛乳・ジュース・ヨーグルト・チーズの朝食。コーヒール茶もある。食後は各自きょうの弁当づくり。食パン・ハム・ソーセージ・レタス・バター・マスタートード・チーズなどの食材を、自分の好みに合わせて、適量のサンドイッチをつくるのだ。これにリンゴ・オレンジなどの果物やチョコレートバーなどのスナックを選ぶことができる。



ナオの森。木の肌が全く見えないほど厚い緑の苔におおわれ、複雑に曲がった枝ぶりの樹々の間から妖怪変化が飛び出してきても不思議ではない。オーシャンピークからのびている尾根に向かって、300mの高差をジグザグの急登で消化してゆく。眼下にしていた山小屋と湖が見えなくなると支稜の端に達し、U字型に廻り込むと全く別の光景に出会う。東側は氷河に削られた岩肌だが、廻り込んだ西側は明るい草原になっている。雨がやんだがガスが濃く、遠望がきかないのが

惜しい。所どころでマウンテンデイズ(ひなぎく)が可憐な花をつけていた。コースは再び山の斜面につけられた道に入っていくが、小石はローラーをかけたように地面に埋められ、段差の大きい岩には必ずステップが刻まれている。斜面をへつる場所にはもちろん鎖の用意があり、崖は梯子で登る。山岳観光地の見本のようなルートづくりである。マウントクックリリーの白い花が現れ、写真撮形が忙しくなる。三十段ほどの長い梯子を登ると雪渓を渡る。この季節に雪を踏みしそくにトレースを歩いていく。出発して約3時間半でハリス峠手前の避難小屋に着き、ランチタイム。きのうと同じくガイドの1人が先行してお湯を沸かしてくれており、コーヒール茶の提供を受け、手づくりのサンドイッチを口にす。この頃から背空が広がり、眺望もよくなってきた。避難小屋の後方にきょう登頂を予定していたゴニカルヒル(1515m)が行立している。しかし間近に見える登山道は雪崩のデブリにおおわれていて通行不能のため、口惜しいが登頂は断念。これ



集合写真

両方を見る場所に停車してくれた。リヤマは南米アンデス地方原産の草食動物で、食肉用に移入繁殖されているという。ラクダ科だがそれほど大きくなく、愛嬌のある顔はカメラ向きだ。

バスが峠を越える頃から雲行きが怪しくなってきた。雪山が近くなり、クスマン氷河を遠望できるようになると、大粒の雨で窓が濡れ始めた。評判どおりニュー

から越えるサドル峠も昨夜の新雪のため歩行が危いため、ヘリコプターを利用することを告げられる。全く予想外の事態に苦情が出ることをおそれたが、ヘリと聞いて全員大歓迎だった。14時に爆音を轟かせてヘリが来た。一回に5人ずつ、計六回のピストン輸送で峠を越える。飛行時間は約5分と短い。ハリス湖を見下ろしながらのフライトは得難い経験だった。

ハリス峠までのコースはフィヨルドランド国立公園に属しているが、峠を越えるとマウントアスパイアリング国立公園に入り、道は下りになる。いくつかわたしを渡るが、沢の上流には滝を見ることが出来る。道は高層湿原に入り、木道も出てくる。とにかく歩いて飽きることのない楽しいルートである。約1時間半で水音が大きくなり、ルートパン流が現れると、滝壺の下に建つフォールズ小屋に着いた。

二棟あり、われわれだけで一棟を貸切った。一室6人の二段ベッドで、その他の設備はマッケンジー小屋と同じ。この小屋には街ビールの用意があり、食堂横の談話室でくつろぐうちに夕食の準備がで

きた。スーパ・ローストビーフ・パンが今夜のメニュー。ワインの飲み放題はきのうと同じ。デザートにホットケーキを焼いてくれたが、ここで趣向があった。2人のガイドが後向きに立ち、フライパンに入ったケーキを頭越しに投げつけてくれるのを、約3分離れた場所から自分の皿に受けるのだ。成功・不成功ともに大きな声援と拍手を受け、楽しいひとときだった。

11月15日 下山そして打ち上げ

けさも雨になった。朝食を終え、きのうと同じ要領で弁当をつくって、9時30分に出発。ルートパン川は渓谷の岩に衝突して白く泡立ったり、緑色の淵をつくったりして、コースに彩りを添える。1時間ほどくたると道が平らになり、川岸に立つフラット小屋でティータム。ここからは遊歩道となり、植生は赤ブナの森に変わる。吊橋二本を渡る頃、川は奥入瀬渓谷に似た様相を呈し、日本の山を歩いているような気分になる。フォルジュフラットと呼ばれる河原において昼食をとる頃には雨があがった。最後の1時間を歩くとトラックエンド着。迎えのバス

ジーランドの天候は変わりやすい。ホテルに着いて荷物を置き、フッカー谷の氷河見物に出発する頃には、雨はミゾレに変わり、途中のキャンプ場まで来ると吹雪になった。休憩舎で雪を避けて少し遅目のランチタイム。きょうはガイドなしのため湯茶のサービスはない。

地図を確かめると、第一吊橋まではそれほど遠い距離ではないため、もう少し歩を進めることにした。雨具を着けず寒さに震えながら下山してくるハイカーたちに出会う。吊橋を渡ると小さな氷河湖が現れた。このあたりからマウントクッククリリーの群落が見られるようになり、降り積む雪に健気に耐えている。カメラ愛好者にとっては絶好の被写体だ。第二吊橋まで来たが、雪はやむ気配はなく、氷河が見える場所まではまだ1時間ほどかかるため、引き返すことにした。

ホテルにチェックインして今回の山歩きは終わった。夕食はホテルの食堂でバイキング方式のディナー。羊の骨付きバラ肉のローストや鹿の生肉など、ニュージーランドならではの食材が珍味だった。

に乗り、30分ほどでワカティブ湖北端のバブに立ち寄り、ここで記念の集合写真。バスは湖畔の道を走って、16時30分クインズタウンのホテルに帰ってきた。

3日間の汗を流し、着替えてサッパリしたところで、歩いて15分のガーデンズパークロイヤルホテルへ行き、レストランで打ち上げパーティ。3人のガイドとともに卓を囲み、楽しかった山行を語り合う。全員に個人名の入った完歩証と集合写真が渡され、3日間の山行を共にしたガイドたちと握手して散会した。

11月16日 マウントクック散歩

4日目の朝は申し分のない晴天で始まった。きょうは午前中が移動で、午後はマウントクックの山麓を歩く日だ。7時に迎えのバスに乗り、北へ走ってゆくのだが、道路の通行量は少なく、渋滞などは全くない。行き交う車の90%は日本車だ。道の両側には延々と牧場が続き、所どころに果樹園は現れるが、野菜や穀類の畑は全く見当たらない。放牧場には圧倒的に羊が多いが、牛・馬・鹿の牧場もある。バスのドライバーに適当な場所でのカメラタイムを頼んだところ、羊とリヤマの

11月17日 オークランド経由

開空へ

7日目の朝はくもり。クライストチャーチへ向かうバスの車窓から一瞬の晴れ間を願ったが、マウントクックは無情にも姿を見せられなかった。羊の群れを左右に見ながらテカポ湖まで来ると「善き羊飼いの教会」。湖畔にボツンと孤立した石造りの小さな教会で、風情がある。クライストチャーチの中心には、イギリス国教会の大聖堂があり、近くのシーフドレストランで昼食。

空港で国内便に乗り、北島のオークランド空港には15時30分に着いた。現地旅行社スタッフの迎えを受け、バスでホテルへ。チェックインした後は自由行動で、それぞれ市内観光やショッピングに散っていった。

最終日はオークランド空港を7時30分に発ち16時30分に関西空港に着いた。帰国便の機内での話題は、もっぱら次の海外山行の候補地だった。

* コースタイムと参加者名は、山行報告(本号108ページ)を参照。

岡山ルートⅠ

柴田昭彦

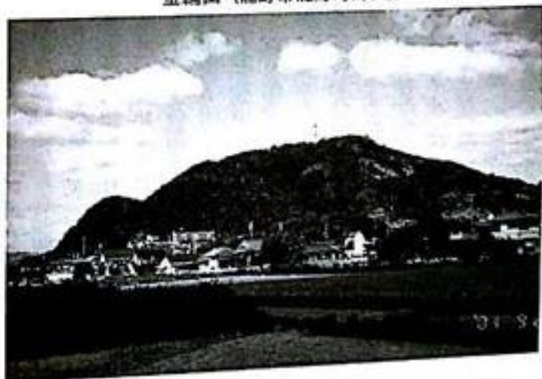
【岡山方面ルートの文献】

★岡山の生んだ「まちの郷土史家」、岡長平氏（明治23年生まれ、昭和45年没）。『岡山県歴史人物事典』山陽新聞社、平成6年、参照）の『岡山太平記』（宗教修文館、昭和5年）には、堂島や兵庫での米相場の伝達ルートは、「堂島―尼ヶ崎―兵庫―須摩―黒金―龍野―赤穂―寒河―熊山―岡山橋本町」とあり、「以上十か所、受次をやつたものであつたが、堂島から十五分ぐらゐで岡山に來たそうであるから、馬鹿にならないものだ」「安政頃からあつたものぞうだ。遠眼鏡のなかつた以前は、夜火繩を振つて、続から続へと信号したものだ」と云ふ話だ」「取引所の後

援の下に立派な職業になつたのは、明治十八年四月十八日からである。その營業者は滝本町の小林文吉と云ふ人だ」「旗相場は、明治三十二年に岡山取引所が天瀬から現在の場所へ移る迄、重宝なる通信機関として存続して居つたものである」と記されている。米穀取引所（組合派と）は岡山駅前へ移転している。安政期は、1854〜60年である。

★『岡山始まり物語』（岡長平著作集第二巻、岡山日日新聞社、昭和52年）の三〇四〜五頁に「旗フリ」についての記述がある。「県下では、三石の大平鉦山のテッペンを相場山と呼んでるが、そこが旗フリの中継所だったからだ。熊山にも「旗

金輪山（龍野市龍野町片山）



が峯」という所がある。やはりそれなんだ。岡山には換山水源地の北に「旗フリ台」という所があった。その受発を日差山（都窪郡）がうけて天文台のある遷照山に送り皿山（笠岡市城見）へ流したと伝えられておる」とある。また、旗振りの始まりは文政（1818〜30年）ごろその本には書かれておるとあり、「岡山へんでは明治十二ごろから滝本

町の小林文七という者が始めた」と新聞でとる」とあって、『岡山太平記』の内容とは、年代も人名も食い違ふ（どちらが正しいかは不明）。この中で示された出典である「もの本」と「新聞」を具体的に知りたいためである。ご存じの方があればご教示いただければ幸いである（連絡先は本誌57号参照）。

★萩野秀（本名は桑島一男）『岡山の電信電話』（日本文教出版、岡山大文庫61、昭和50年）には「旗振り通信と競争」の一文があり、岡長平氏の研究による先述の通信ルートの紹介に続けて「（一）説には、堂島―千里山―六甲山―書写山―三石大平山―熊山―採山）で受け継ぎ、堂島から岡山までわずか一五分（二説には四十分）で米相場が到着したというから、当時としては電報よりよほど早かつたものとみえる。現在、岡山市奥市の護国神社横の小高い丘の古墳のあたりが、旗振り台という地名で市の史蹟に指定されているが、これが旗振り通信の発受所で、はるか熊山の旗が峯（二説には西大寺の芥子山ともいう）から送られてくる旗振りの信号を遠眼鏡（望遠鏡）で見きわめ、それを逐一旭川畔（旧船着町三〇八番屋敷（現在、京橋町）

にあった米商會所へ伝える仕組みになっていた」とある。ただし、堂島から岡山まで一説には四十分とあるが、これは広島までに要した時間であろう（樋口「こめと日本人」、本誌62号参照）。なお、一説にいう書写山と芥子山については旗振り伝承が確認できていない。

★桑島一男「倉敷の電信電話」（日本電信電話公社倉敷電報電話局内事業史編集委員会、昭和55年）には、岡氏の示した通信ルートに続けて「岡山（換山上の旗振り台から市内船着町の米取引所）―日差山―竹林寺山―皿山（笠岡城見）―福山・尾道・下関へと伝達」とある。小林文吉という人が旗相場の許可を得たのは明治十九年四月十八日付とあり、やはり、年代が異なっている（十二年か十八年かは不明だが、十八年の可能性大）。明治6年に岡山で電報の取扱いが始まったが、料金も高く、雨の日に旗振り通信が中止になったときを除いて、あまり利用されなかったという。

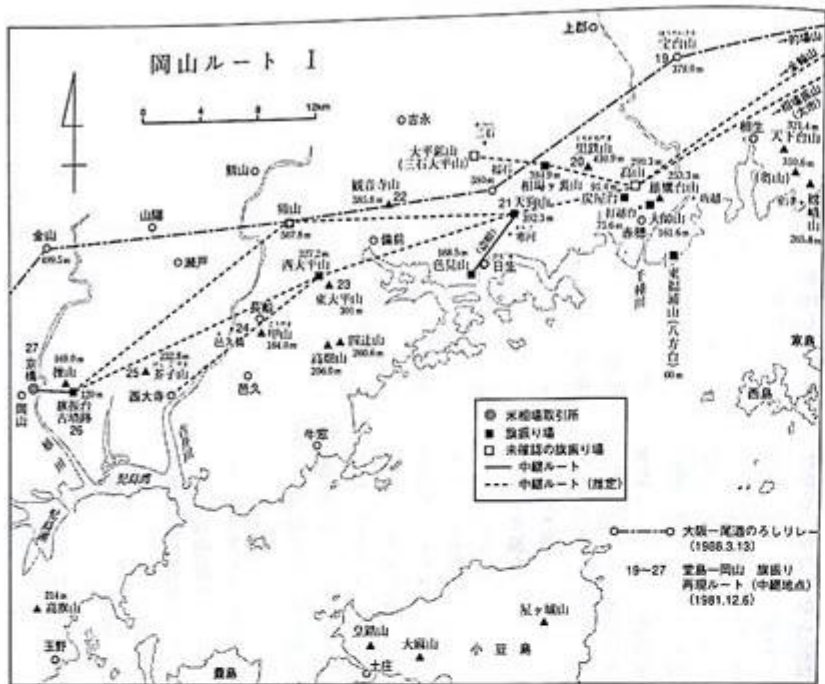
【姫路から岡山へのルート】

●龍野市内の旗振り場は、吉井正彦氏の再現ルートの資料に「龍野、片山（史実）

にかえて」とあり、片山の集落の北方に位置する標高227・8の金輪山である。再現時には、どういう理由かわからないが、的場山（394・3）が利用されている。昭和56年7月12日付、神戸新聞の記事に「竜野では、通信を盗み見た人が捕まる『盗眼事件』の記録が残っているという」とある（吉井氏の資料に基づいたもの）。『龍野市史第一巻』（昭和53年）の地図には、片山東山遺跡がある。『揖保郡誌』（昭和6年）には「金輪山は小宅村片山の北にある山で山腹に小宅寺あり又山上は千疊敷と唱ふ広平地がある」とある。

★筆者は平成13年9月22日に金輪山を訪れた。金輪山小宅寺は片山公民館の西にあり、車道をたどると頂上で、227・8ののっぺりした毎日放送中継局の屋上中央部にあるという。現地の標識に従い、金輪山展望台に出ると広々としておる。ここが旗振りの行われた千疊敷であろう。

★龍野市立歴史文化資料館からは「旗振り通信に係る調査につきましては、当時の状況を知る者もいなく、伝承も残っておりません」という返答しかなく、聞き取り調査の予定もないという。一方、吉



大師山と連絡する旗振り台があった」とある。この旗振り台は、4段で、赤穂西中学校の北赤穂高山の南西1200段に位置している。赤穂市教育委員会市史編さん担当の矢野圭吾氏によると、炭屋台および大師山で米相場の旗振り場として伝承されている。筆者は平成14年2月23日に大師山、赤穂高山、炭屋台を縦走して、相互に通信できる立地にあることを確かめた。岡氏がいう赤穂のポイントが高山であるとすると、太市相場振山や龍野金輪山と直接、連絡でき、天狗山に送信することもできる。東福浦山(八方台)と連絡したことも考えられる。年代により、次のような異なっ

井氏は古老からの聞き取りで山頂での旗振りの事実を確認している。岡氏は「龍野、赤穂、寒河」というルートを示している。龍野の旗振り地点としては、相場振山(姫路市太市地区、247.9段)の可能性も考えられる。太市相場振山については本誌65号と「歴史と神戸」234号(神戸史学会、平成14年10月)で述べたが、金輪山のすぐ東隣の山で相互に見通せる立地にある。

★麻生山と金輪山を結ぶ場合、姫路市広畑区蒲田の東の200・3段峰(吉井氏は鶴ヶ峰と呼び、「姫路の山々」では蟹山とある)が通っており、直接の連絡ができる立地である。200・3段峰での旗振り伝承は不明である。麻生山の西には麻生山より3段高い仁寿山が並ぶので、西方への通信は考えにくい。しかし、麻生山から相場振山への見通しはきく。いずれにせよ、麻生山は姫路近郊(平地)への中継に用いられたものと思う。太市相場振山と金輪山では、北山奥山や北宿大平山、姫路の取引所から受信できる立地にある。さらに赤穂方面へ送信したのもと思われる。

★宝台山(379・0段)は相生市若狭野

町にあり、岡山ルートの再現時に利用されている。龍野市と日生町寒河との間の距離が長いので、旗振り場としての可能性がないかどうかを相生市教育委員会に問い合わせた調査をもらった結果、宝台山で旗振りが行われた事実はないことが示された。また、上郡町での調査でも伝承はないとのことであった。相生市教育委員会編集・発行「相生ふるさと散歩」(平成4年)には「宝台山 若狭野町での最高峰で、海拔三八二・七米である。往古は「三宅ヶ台」と呼んでいた。現在はN・T・Tの無線中継所が立っている」とある。「播磨 山の地名を歩く」(神戸新聞総合出版センター、2001年)によると、明治頃までは「熊倉山」の呼び名もあったという。

●赤穂市については、服部英雄「景観にさぐる中世」(1995年)に、赤穂市塩業資料館・広山発道氏(日本製塩技術史の研究)など、塩業に関する著作がある)が、50年前に米問屋をしていたおやじの話として「堂島米相場を伝える『のろし』がある」と、御崎の弘山に登ってそれを確認した」という。筆者は、地図に「弘山」が見当たらないので、広山氏に問い合わせ

せてみたところ、「のろしをあげた山は東福浦山の頂だったと聞いております。この山頂を戦後『八方台』と呼ぶようになりまし。それまではこの山頂を呼ぶ名称はなかったようです」「弘山」という名称は何処にもありません。何かの間違いでないでしょうか」との返信であった。東福浦山は御崎灯台の北東300段、八方台庄のある山である(標高約60段)。赤穂市総務部市史編さん室編集「赤穂の地名」(赤穂市・赤穂市教育委員会発行、昭和60年)で、小字「東福浦山」が確認できる(46頁)。

★筆者は平成13年12月22日に丸山(尾崎の209・8段峰)と御崎の八方台を訪れた。丸山頂上から東の展望が良く、姫路・加古川の間々が見通せた。会社の施設である八方台荘付近からの展望はすっきりしないが、東御崎バス停の南にある東御崎展望台からの見晴らしは良い。八方台からは、東に室津、北山奥山・大平山付近の山々、西には天狗山を見ることができ立地である。ただ、通信方向については裏付けがとれていない。

●「赤穂の地名」(20頁)で、塩屋の小字に「炭屋台」があり、「炭屋倉があった。

たルートが用いられたのではないだろう
か。間隔は長くても五里(20km)前後で
妥当なルートだと思われる。

・北山奥山―太市相場坂山―赤穂高山―
天狗山(明治前期ごろ)
・北宿大平山―龍野金輪山―赤穂高山―
天狗山(明治後期ごろ)

★「赤穂の地名」(20頁)で、塩屋の小屋
に「畑ノ元」があり、「古代に秦氏が開
発した。見張台で旗を振った麓にあると
ころからともいう」とある。「畑ノ元」
は、赤穂高山の南1600mに位置する。
「畑ノ元」の北東にある「西山」(75・
6頁、赤穂中学校の北西)の山頂は「打越
台」で、そこに見張り台があったという。
打越とは峠を指す。矢野氏に尋ねてみた
が、米相場の旗振り場所かどうかはわか
りませんとのことだった。

★岡山ルートの再現に取りくんだ吉井氏
は、赤穂市の黒鉄山(430・9頁)を再
現時の中継点のひとつに用いた。矢野氏
によると、旗振り伝承があるかどうかは
わかりませんとのことだった。本誌21号
(慶佐次氏)と67号(山形氏)に黒鉄山の
ガイド記事がある。筆者は平成14年5月
12日に黒鉄山へ登ったが、利用したタク

シーの運転手が相場ヶ裏山(後述)に登っ
た時と同じ人であったのには偶然とはい
え、驚かされた。

★赤穂市教育委員会生涯学習課によると、
赤穂市域について「旗振り場は不明であ
りますが、坂越が港町であったためか、
米相場の情報はいち早く、隣町の室津
(御津町)から入手したようです」とのこ
とであった。

★御津町教育委員会町史編集室によると、
室津における旗振り伝承については、史
料に見当たらず、不明とのことであった。
天狗山の古老によると、室津から信号を
受けたということである(出典はあとの天
狗山の項を参照)が、裏付けはとれていな
い。

●相場ヶ裏山(394・9頁)は、兵庫県
赤穂市と岡山県備前市との境界(帆坂峠
の北)にある。「三石町史」(昭和34年)
に「大字三石字福石にあり、海拔三九〇
米あつて往時米相場の連絡所として常に
白旗を繙した処で此の名がある」(193
頁)とある。また、五石川の解説(19
5頁)に「兵庫県界相場裏及び梅が此に
発源し」とあり、県境の山であることが
わかる。この山が「三石町史」に紹介さ

れていることは、岡山大学山岳会会長の
武田昌策氏(岡山県の山)の「操山」の執
筆者に教示いただいた。前後の中継地
点は不明であるが、赤穂高山と連絡でき
る立地であり、三石大平山への送信もで
きる。

★筆者は平成13年12月24日に相場ヶ裏山
を訪れた。播州赤穂駅前からタクシーに
乗り、帆坂峠を越えて最初の橋で降りし
てもらったが、運転手に米相場の旗振り
山の調査であることを知らせると「相場
を岡山から九州まで伝えた」ことなどを
ご存じとのことと感心させられた。車窓
から見える黒鉄山を指して、あの山は旗
振り山では、と言われるので驚いたが、
旗振りの伝承を聞いていたわけではない
とのことであった(岡山ルートの再現実験
については、九州までの伝達のこと、黒鉄山が
再現に利用する中継所であることが載ってい
る)。所要15分で着いた橋のそばに夜泣
き地蔵様がまつてある。オノ谷川の左
側に北へ向かう踏み跡が続いている。三
角点の北西の鞍部までほとんど谷通しの
道で、赤テープが道案内をしてくれる。
ナメ滝があつて通りにくい所には捲き道



天狗山頂上からの日生諸島

撮影用の対空
標識三枚が三
角点(点名
「帆坂」)の標
石を囲んでい
る。南西の天
狗山と東の黒
鉄山の方向が
若干、展望で
きる程度で、
頂上は狭い。

三角点の東や鞍部の北に踏み跡はあるが、
どの道も不明瞭であり、運転手が岡山県
内は禁猟区で大丈夫だが、兵庫県域は猟
が行われている所があると言っていたの
で、元の道を戻り、福石の余気寺から三
石駅へ向かった。地蔵から山頂まで往復
3時間、地蔵から駅まで1時間半であつ
た。実地踏査から、点の記「帆坂」に記
載された順路の中の距離表示は間違つて
おり、地図の破線ルートはかなり遠回り
していて不正確のように思われた。

●天狗山(392・3頁)は岡山県日生町
寒河の北方にある山で、吉井氏等の調査
により、寒河の岡里美さんの曾祖父にあ
たる、岡竹治さんが毎日、山頂で旗振り
をしていたことがわかっている。岡里美
さんの家には旗振りに用いた望遠鏡二本
が保存されている。長さはそれぞれ12
2cm(木製)と75cm(真鍮製)である。
里美さんは祖父から「曾祖父は県庁に月
に一度給料をもらいに行っていた」と聞
いている(昭和56年12月4日付、オカニチ)
竹治さんの孫娘にあたる小林一恵さん
(小林大三氏の夫人)の話によると「西の
山から受けて東へ手旗で送っていた」と
いう(昭和56年12月5日、岡山RSK、イブ

ニングニュースでの談話)。相場は堂島を
中心に各地に伝達されたが、相場につい
ての連絡では、注文などで、逆方向の送
信も当然行われたわけである。

★日生町での旗振り通信に関心を持ち、
吉井氏の岡山ルート再現に関連して、信
号を盗んで儲けた人のことを話された
(昭和56年12月5日、岡山RSK、同前)石
橋澄氏(84歳)からの手紙(平成12年11月)
によると、送信ルートは「東は竜野、西
は熊山―操山―京橋と聞いてます」とい
い、「当時、近所の人は岡竹治さんのこ
とを相場師さんと呼んでいたそうです」
「笑話かも知れないが、天狗山での旗振
りを日生町の色見山(鳥山、1888・5頁)
の頂上で盗んで大変な金もうけをした人
がいたそうだ」「竹治さんは山の上で送
信時間外には山の頂上に煙作りをしてス
イカ、ウリ、キウリを作っていた」とい
った逸話があるという。石橋氏からの手紙
(平成13年1月)によると、若い頃、天狗
山近くの植林事業やった際に、従業員
の中に岡直治さんがいて、直治さんの父が
この山で旗振り通信をしていたこと、関
係のメガネがあることを聞いたという。
★中島篤巳「岡山百名山」(草書房、20

2003年4月▶ 山歩き&ウォーキング **完成**
2004年3月 **新総合カタログ**

お電話・FAX にご請求ください! **送料無料**
お手紙にて



◀山歩き&ウォーキング(年間・総合カタログ)
国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー!写真も満載!

ツアーのポイント!

- 安全・安心登山宣言。全コース日本山岳ガイド連盟認定のガイドや、登山経験豊富なツアーリーダーが同行。
- 始めての方、中高年の方、お一人での参加も大歓迎。
- 日帰りの低山から、僅れの日本百名山、世界の名峰を歩きます。
- 登頂された方には、全員にオリジナルの登頂証明書をプレゼント!



大阪支店に **高山病対策&高所登山はこれで解決!!**
低酸素室設置しました

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高所登山を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



● 利用料 (1組/1時間)
メンバーズ会員 ¥1,000
非会員 ¥3,000

① まず酸素室に約30分間入ります。
② 次に低酸素の状態でも、心拍数と血中の酸素飽和状態を見ながら、自転車トレーニング。
これで終了です。できれば徐々に標高を上げていって30分間トレーニングをおすすめです。

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社
アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
06-6456-3366 ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtosa@amuse-travel.co.jp
FAX 06-6456-3377

00年11月)の天狗山の登山ガイドには、次のような興味深い記述がある。
「かつて児島高德が岩を築き、その後は江戸時代から明治中期頃にかけて山頂は旗振の信号所となっていた。すなわち当時は大阪の穀物相場の情報が山から山へと継投されていたが、この天狗山では望遠鏡の助けを借りて兵庫県室津からの信号を受け、そして三置ほどある旗を振って熊山に信号を送ったという。」中島篤巳氏に問い合わせたところ、天狗山での通信方向については、通行中に古老から聞き取った話によったということである。御津町室津での相場通信は確認できていない。天狗山では、おそらく赤穂高山から信号を受けて、熊山と西大平山に送信したものである。
★「岡山百名山」のガイドをもとにして、筆者は平成13年8月30日に、天狗山に登ってみた。シダと次と蜘蛛の巣の多い登山道は夏向きではないが、山頂から開ける広大なパノラマ展望はすばらしい。西方の送信地「熊山と西大平山」はすぐわかかる。北東には相場ヶ裏山から黒鉄山にかけての山々がはっきりと見える。東方には、赤穂御崎(八方台付近)から飯越、御

津町、相生市方面の山々が繁々と重なり合い、手前には赤穂高山付近の山々が見える。龍野市方面はかすんでよく見えない。登山口の八幡宮では、山に向かって左手から登るが、右手の方には、昭和59年に奉納された「南極の石」を見ることができると。
★中庄谷直「関西周辺 低山ワールドを楽しむ」(ナカニシヤ出版、2001年)には天狗山の踏査記録(2000年12月13日)があり、中庄谷氏が八幡宮で出会った登山者は、11月に立たばかりの「岡山百名山」を読んで、さっそく登りに来て、やぶに突入してしまったようだ。正しいコースは道型が明瞭なので、薄い踏み跡には入らないようにご用心。
★大平鉱山(三石大平山、2100m)の頂上を「相場山」と呼ぶかどうかを、備前市教育委員会で調査してもらったところ、地元の人2名に聞いたが「聞いたことがない」との返答であったという。日生町の石橋澄氏も「大平鉱山の(旗振りの)話はきいてません」という。三石地区には相場ヶ裏山があるので、そこから中継したのかも知れないが、それなら「三石町史」に記録されていないのは不思議で

ある。ただ、岡長平氏は明確に「相場山」と述べており、「赤穂高山、相場ヶ裏山、三石大平山」というルートが存在した可能性があるかもしれない。
★観音寺山(385.8m)は和気町・備前市境にある山で、矢吹喜志雄「二人三脚山登り」(自費出版)には「頂上は四方に切り開いてあるが三角点測量のためと記してあったが、自分は旗振台の再現のためではないかと思う」(昭和57年2月11日)とある。この山が吉井氏らによる岡山ルートの再現(昭和56年12月6日)に用いられたのは事実であるが、矢吹氏からの返信によれば「観音寺山については古老のお話は聞いていません」とのこと(平成12年10月)であった。備前市教委では、観音寺山での旗振りについては不明という。和気町文化財保護委員によると、観音寺山は和気町清水の持山で地元では「もっこく山」と呼んでいるが、旗振り伝承の裏付けは地元の人々に尋ねたが不明とのことであった。おそらく、再現実験のみに用いられた地点と思われる。
(つづく)
(平成13年5月12日成稿、12月28日補訂)
(平成14年10月20日追補)

連載

三角点を訪ねて ⑳

藤原岳東端の三角点峰、袴腰へ

鈴鹿

磯部 純

鈴鹿山系には500m以上の三角点峰が65峰ある。3年間鈴鹿の三角点を訪ね、前年末に5峰を残すのみとなった。その後、なかなか残りの三角点を訪ねるチャンスがなかった。ある時、岐阜の彼にまだ踏んでいない三角点峰、袴腰のことを話したら、春になったら連れて行ってくれるとの返事。やっとなら連れて行って「点名袴腰」を訪ねることができたのだ。登ってみてなぜ春だったのか、納得。花の百名山・藤原岳の花の始まりの季節だったからである。メンバーは初めていっしょに歩く新ハイの鈴鹿愛好の人たちで、岐阜・伏見・宇治の男性3人と鈴鹿・大阪の女性2人の計5人。私を除いて、い

ずれも健脚で花の生き字引きみたいな人ばかりだった。京都組3人がJR山科駅に集合し、伏見の彼の車に乗り合わせて三岐鉄道西藤原駅へと向かう。天気予報では晴れだというのに遠くには霞がかかり、琵琶湖の向こうに見えるはずの比良山は全く見えない。彦根を過ぎ、「伊吹山は？」と見ると、スキー場の雪は消えて、山頂はスッポリと雲におおわれている。関ヶ原インターで降り、国道365号線に入ると、右手に雪の残った烏帽子岳・御池岳・藤原岳の姿が現れてくる。集合場所の西藤原駅には定刻の10分前に到着。見覚えのある鈴鹿の彼女の車が目に留まる

袴腰から見る藤原岳方面



が、リーダーの姿はない。4人で歩く準備をしていると、やがて、岐阜の彼が姿を現す。相変わらず例の長靴スタイルだ。この日のメンバー5人が集ったところで、この日登るルートを岐阜の彼に訊く。「まず袴腰三角点へ直登して、下りは一般路をくだります」とのこと。袴腰のピークの方を見ると、見上げるような高さ。

どの尾根を見ても急で、壁のように立ちはだかっている。「登りに強いみんなについて登ることができるだろうか？」との思いが頭をよぎる。西藤原駅を9時に出発。駅前どころかの会が山行受付をしているところを見ると、かなり多くの人が藤原岳へ入っていくようだ。駅舎の横から線路を渡ると、目の前の土手に小さな花が。名を訊くとハタザオだとか。細い道を山へ向かって行くと、人家の裏にはヤマアイが目につき、ミヤマカタバミ・ニリンソウが白い花を付けていた。

袴腰へ直接向かっている尾根の方へ歩き出す。その北にある大谷は砂防堤工事中で入ることができない。やむを得ず、大谷の北にある尾根に取りつく。昔は子どもものスキー場だったという斜面を登り、その上端で大谷の川原へくだる。谷は上流で発生した土石流で石がゴロゴロ転がっていて、凄じい谷の様相だ。谷の向こう側へ渡るのにも苦労するほどである。山際にはフサザクラが蕾を付けていて、ダンコウバイも黄色い花を咲かせている。下を見ると小さな岩にユリワサビもあつた。その地点から急勾配の尾根に取りついた。

ちょっと足を滑らせると転げ落ちてしまふような急斜面をはい上がり、尾根にのる。まだ花には早いかも知れないと思っていたのに、こんな低い斜面にあちらに一本、こちらに一本とフクジュソウが顔を見せてくれていた。思わず上がる歓声！

急勾配の尾根を登って行く。岩ややぶが行く手に立ちほだかり、そのたびごとに乗り越えたり迂回を強いられる。高みに登るにしたがいフクジュソウの数も多くなってくる。もっと見応えのある群落

があるだろうと、カメラをザックの中にしまい込んでいたが、あまりの可愛らしさに写真を撮りながらの登りとなる。「きょうはみなについて登れないかも知れないので、荷物も軽くしてきた」と登る前にしおらしげに話していた鈴鹿の彼女の姿はどうも見えなくなっている。下を見るとフクジュソウの間に、青々としたバイケイソウが芽吹いていた。突然「洞窟がある！」と伏見の彼の声。行ってみると急な斜面に、一人一人が入れそうな横穴が空いている。奥を覗くとかなり深そう。興味津々の身体の小さな女性2人が中へ潜り込む。穴の内部は人の手で掘られた様相をしていて、20人ぐらいは入れそうな広さとか。こんな所に何のために掘られたのだろうか？

このあたりの地層は石灰岩が主なので、石英脈に含まれている金や他の貴金属を掘ったとは考えられない。強いて推測すれば、石灰石に粘土を加え高温処理をすることでセメントの原料であるクリンカーが出来るので、そのために石灰石を掘ったのかも知れないなどと自分勝手に解釈する。この近くにもう二つ同じような横穴が空いていたが、「後で調べてみる」と





点名袴腰の三角点

の岐阜の彼の一言で、その詮索はさておき、再び斜面を登り始めた。

後日、岐阜の彼から「このあたりの歴史に詳しい人に尋ねたところ、あの穴はマンガン鉱を掘った穴だった」との連絡があった。今そこに鉱山がないところを見ると、試し掘りをしただけで鉱石は出なかったのだろう。

標高700mを超えると、クサギのやぶのなかに枯れたような木が目につき出す。それらの木を見て「あの木はアブラ



フクジュソウ

そんな葉は見えない。しかし、よく見ると、日当たりのよい所に一面にフクジュソウの芽が出ているではないか。やはり群生地は本当だった。その先から道はなくなり、急斜面の尾根の南端を登って行く。やがて、背丈程のササをかき分けての登りになる。1人だったら心細くなるような広いササ原歩きである。ササ原を登り切るとそのはずれで初めて人に出会う。これから袴腰へ向かうという新ハイ会員である。三重の住人で一口話の上手なあの人だった。山で久しぶりに顔見知りに出会うとなぜか嬉しくなる。

チャンで、この木はシロモジで……」と物知り顔に言ってくれる岐阜の彼。言われてみても葉のない木では、どれも同じ枯れ木に見え区別がつかない。そんなやぶ斜面を登り、やぶの少なくなった場所ですら休憩する。足元にはセツブンソウが咲いていた。見渡すと、スハマソウ・フクジュソウも花を開いており、カタクリも葉を覗かせている。ただ、カタクリの葉は一枚しかなく、花は咲いていない。

11時30分、メギの林を抜けると採石場道路へと出た。この道路は関係者以外は通行禁止なので、無断で通ったことになる。歩いて見ているのを見つからないように山側を歩き、この道路を上へ上へとたどる。空は暗く曇り、風もきつくなり、腹も空いてきたので寒さがいちだんとこたえる。何回かUターンを繰り返して、登りつめた所にボーリングの櫓が立っていて、その右手の高みが点名袴腰の三角点だった。ボーリングと聞いて、「温泉でも掘っているの?」と鈴鹿の彼女。こんな山のてっぺんで温泉など出るはずもないのに……。

12時5分、待望の三角点に到着。標石は北西向きで、北から50度西へ振っ

雪の斜面を登り展望丘へ。ここまで全く人に会わなかったのに、一般路に出たとたん、人、また、人の連なり。展望丘の登り口から山頂まで人の列が続いている。展望丘の山頂は人で溢れ返っていたが、避難小屋よりは人が少ないだろうと思ひ、山頂でコーヒータムとする。どんよりとした空の下、遠くに土倉岳と御池岳東端峰が影絵のように見えていた。

15分程山頂で過ごしてから下山。展望丘から雪の斜面を登ってくる人たちが見守るなか、4人がピニールを敷き滑る。用意万端整え、嬉しそうに滑る彼女たちの顔、顔。雪の山行の楽しみはヒップスケーターと言わんばかりだった。

避難小屋へ登る手前の鞍部から、地形図に載っている破線(旧道)をくだる。現在の九合目から上の登山道は地形図に載っていない。右手の斜面には雪が残っていたが、雪解けの斜面にはフクジュソウが咲いていた。谷にはまだ雪がびっしり残っていて、またまたの滑り。さすがにこのルートをくだる人はだれもいない、われわれだけの山となる。九合目からフクジュソウの咲いている冬道の尾根をくだり、聖宝寺への分岐の八合目で休憩す

る。標石の北の角が欠けていたのが気にかかる。だれかが「この標石大きくないか?」と言ったので測ってみると、一辺が15cmきっかりで正規の大きさ。標石のすぐ上にはトンボが置かれ、それには「平成12年11月末日まで壊さないで下さい 中日本航空」と書かれていた。ここから西方を見ると、雪を被った藤原岳展望丘が寒々とした姿で立っていた。

ここで昼食。風が冷たく、持ってきたものを全部着込んでも暖かくなかない。とにかく食べることに専念する。「荷を軽くしてきた」と言っていた鈴鹿の彼女は着まで置いてきていたが、自作の果実酒は持ってきてくれた。ただただ「感謝!」の一言。その甘さが何とも言えぬほど喉にしみる。まだこれから食べるというのに、岐阜の彼は「寒くてどうしようもない」と早やザックを背負い立っている。大きな人が側に立っているのでは落ち着いて食べてはいられない。急かされるように食べ、わずか30分の休憩で出発となる。上のボーリング櫓まで広い道のびいていて、楽に歩くことができた。道には所どころに雪が残っている。このあたりはフクジュソウの群生地と聞いていたが、

る。そこには小さな可愛らしいセリバオウレンが一面に咲いていた。多くの人が休んでいたが、その花には目もくれず、ほとんどの人が知らん顔だった。

八合目から大貝戸道の横の尾根を六合目へくだる。人が連なる一般路を歩くより、道がなくともくだるのは楽。六合目からは一般路をくだったが、グイラと呼ばれる場所ですら休憩する。ここで飲んだビールは最高の味。あの寒い山頂で震えながら飲まなくてよかった!

いい気分です。アセビやマンサクの花を眺め、鶯の鳴く声聞きながら大貝戸道へくだり、神武神社へ着いたのは15時35分。そこから裏道を通って、山麓の花を眺めながら西藤原駅へと戻った。

車でひと息入れ、この日登った尾根を見上げると、今さらながらその急斜面に圧倒された。(平成13年3月24日歩)

△コースタイム▽

三岐鉄道西藤原駅(2時間30分) 採石場道路(35分) 点名袴腰(45分) 藤原岳展望丘(45分) 八合目(1時間15分) 西藤原道(20分) 三岐鉄道西藤原駅
△地形図▽2万5千 竜ヶ岳・藤立

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第36回)

平成八年夏の北海道の山旅

坂井久光

平成8年4月7日、朝食後琴平温泉を出発。以前お世話になった温泉の元副所長、及川氏(現マート経営)を訪ね、久闊のあいさつ後、お互の経過を話してお茶をいただいてから、さらに北進。

幌延町の間寒別で知駒峠道を右に見て、北緯45度線(標識あり)を越えて牧場の中の林道を通り、イソサンヌプリ山(581m)を目指して奥へ走った。

山麓から約1km先で積雪のため駐車し、9時30分に出発。途中ネマガリダケの群叢に出遭い、崖をトラバースしてやぶ漕ぎをしたり、ラッセルして残雪の尾根に出た。山頂直下のコルからは雪が消え、やぶも低いチシマザサになって山頂三角

点へ着いた。展望は360度で、西に利尻岳が白い巨体を見せ、快晴でオホーツク海の白波。東は珠文岳・函岳などの既登の山々が望見できた。2人で万歳三唱。小憩後往路を下山。次いで知駒岳(5等・533m)を登ってから、敏音知温泉へ行き、入浴後近くで車泊。

8日、札幌市の真駒内ハイッで一泊。

9日、藻岩山(2等・531m)へ登り、小樽発22時のフェリーで帰途についた。

11日、敦賀港に到着後、佐々里峠へ直行し、JAC京都支部の城丹国境縦走例会に途中から参加した。その夜は大悲山の友人、永谷氏宅で宿泊し、翌日帰宅した。

その後、国体で知り合った安土氏を蘭越町役場に訪問。久闊のあいさつ後、その後の経過を手短に話して辞した。峠を越え千走川河口の空地で車泊。

19日、大平山(1等)を目指したが、林道工事のため断念して狩場山(1等)へ山崎氏を案内した。晴れていて登山口から往復。その後、北檜山温泉で入浴後、太櫛町の太櫛荘前で車泊。

20日、農道を通り牧場に向かい、分岐で右折し、良瑠石林道を走り終点で9時に駐車。点の記を頼りに太櫛山の登路を探した。5年前に会員の山形氏が2時間で登ったと聞いたが、茂りがひどく登山口が全くわからない。谷沿いの歩道をたどり、良瑠石川を通行した。二股で左をとり、ネマガリダケのやぶを漕いで稜線上の鞍部に到着。切り開きを探したが、はっきりしない。ネマガリダケのやぶ漕ぎ約4時間後、13時50分にやっと山頂に達した。標石を探していたら標柱を見つけ、叢の中に大きな1等三角点(805m)を発見した。2人で感激の万歳三唱。2時間の予定が6時間かかり、いかにひどいやぶかがわかる。小憩後展望を楽しみ、往路を17時20分には下山。さすがの山

崎氏もぐったり、よくも私のために付き合ってくれたと衷心より感謝した。それから北檜山温泉に行き、汗を流して付近で車泊。

21日、弁天岬で魚や貝をとったりして休養。その夜も北檜山温泉で入浴後付近で車泊。

22日、ユーラップ岳(1等)へ山崎氏を案内した。下山後、見市温泉に入浴後、八雲への国道から雄針荘の温泉に行き、入浴後近くの野営場で車泊。

23日、雄針岳(2等・999m)を目指す。登山口から雨天にもかかわらず雨具を着けて出発。尾根の岩稜は山腹を捲いて、ゴルジュに近い小谷の急坂はザイルを頼りに登り切った。尾根筋に出てなおも小さな登り下りのすえ、やっと山頂の三角点へ。小広い山頂は大きな標識が立つ草原で、昼食休憩後往路を下山した。江差に行き、展望のよい海岸の公園で車泊。

24日、八幡岳(665m)へ。江差から国道を南下し、上ノ国町の北村で左折。目名川沿いの林道に入り、ダム工事現場を通り、峠の約1km手前の崩壊地で駐車。先年の大雨で林道がずたずたになってい

太櫛山にて



同年7月16日、山崎大造氏と愛車バジエロで舞鶴からフェリーで小樽へ。最後の残り8座の完登を目指して出発した。18日、小樽港に着き、余市から岩内經由新見峠で駐車。目国内岳(3等・1220m)をピストンして下山後、新見温泉へ行って汗を流し、蘭越へ行き昼食。

た。峠から尾根筋のやぶ道約800mをかき分けて登り、山頂三角点へ着いた。天候は曇り時々小雨で展望はよくなかった。2人で万歳三唱後昼食。休憩後、谷筋をくだって峠から500m程西側へ降りて駐車地へ。江差に戻って町を観光し、湯の華温泉で入浴後、鴨島の駐車場で車泊。

25日、江差から再び南下し、上ノ国町からさらに海岸沿いに国道を南下した。大安在で左折し、大安在川林道を南下。木無山の647m独標と三角山(649m)との峠で駐車。やぶを漕いで尾根筋を登って三角山山頂へ。東から切り開きの跡があったが、約40分のアルバイトだった。2人で万歳三唱。曇りで展望はあまりよくなかった。小憩後往路を下山して、また江差へ戻った。江差追分会館に行き、十七代名人の名調子、正調江差追分節を聞いて、色紙に記念のサインをしてもらった。テープや土産品を買って、再び湯の華温泉で入浴後、駐車場まで車泊。

26日、大千軒岳(1等・1072m)を目指す。江差から上ノ国町を通り、さらに南下して石崎から石崎川沿いの林道を通った。峠を越え、悪路を走って大千軒

岳の肩の林道分岐へ。左折して登山口の林道終点へ。一台先客あり。この山には昭和60年、JACC会員の横田春男氏の案内で東側の林道終点からキリシタン処刑地を経て登頂したことがある。

今回は天候快晴で、お花畑の高山植物も私たちが歓迎するのこく満開であった。約2時間を1時間で登頂した。途中登山者と会った。よい道だったが、天候が悪くなり、ガスで展望はなかった。山頂には北海道測量部(国土地理院)の「測量百周年」の記念碑が建っていたのが目についた。小憩後往路を下り、分岐から江良港へ向かったが、途中間違えて枝道に入ってしまった、ぬかるみにはまり、車が立ち往生。山崎氏のテクニクでウインチを使ってなんとか脱出に成功した。川を渡って泥を落としたのに、また悪路で水溜まりがあり、元の木阿弥だった。富田弘平氏(現一等三角点会長、当時は理事)一行と合流する江良の伊川荘へ16時頃到着。夕刻、渡島小島を探訪した一行が帰往し、合流できた。

先月末、当会員の田中三郎氏のエイヂレス賞受賞祝賀会に招待されて東上した翌日、富田弘平氏を訪ねた際、「明日、

国土地理院の測量と地図の博物館へ行かないか」と誘われ一泊して探訪した。地理院の長岡部長等と再会し、昼食を付近の料亭で御馳走になった。その時、富田氏から「米月26・28日渡道して、渡島大島の江良岳に調査に行くことを許可された。渡島に必要な漁船のチャーターも漁業組合に連絡して確保している。2人位なら乗船できるのでいっしょに行きませんか」とお誘いをうけた。山崎氏とも相談して好意に甘えた次第である。

渡島小島・大島は北海道本島から50数km西方にあり、無人島である。大島は三重式の活火山島で、南北4km東西3km。安山岩・玄武岩より成る。周囲16km・面積9.3平方km。寛保元年(1741)大爆発して、死者1475人。噴火口は寛保岳・清部岳(722m)にある。この島はオオミスナギドリ繁殖地として自然保護のため、一般人は渡島禁止になっている。江良岳は1等三角点があり、昭和52年版の5万分の1図では、標高737mになっており、独標点マークになっている。しかし、その後の改測の結果、現在714mとなっている。江良はアイヌ語の「エラマンテ」からきており、漁

業地を意味している。付近はホッケ・イカ・ウニ・ホタテ・ホヤ等の好漁業地である。また鮭の一本釣り漁でも有名である。島内には大型獣は存在せず、いるのは兎や野鼠くらいで、植生はエゾフウロ・ミヤマオダマキ・イタドリ・チシマザサ等である。

伊川荘での夜は山海の珍味・美酒で大宴会。歓談後、久しぶりに畳の上で就寝できた。

27日、雨と高波で出港不能で1日待機。28日、快晴で4時起床。4時半出港した。約3時間の航海のすえ、大島の東南のトリカラスノ浜の屏風岩(99m)近くの新建設地に上陸した。弁天洞窟へは高波のため接岸困難のためとか。船名は竜神丸で、船長其田父子のほか漁師3人、われ等一行7名が同乗した。付近にプレハブながら、北海道開発局の避難港を築造中で、東亜建設株式会社の建物があった。自家発電設備があり、冷蔵庫もあって、冷茶を一同御馳走になった。漁師はわれ等の登山中、潜水漁業をするつもりだとか。あと残り6座。

(次号へつづく)
(文中の太字は今同登った1等三角点の山を示す。)

宝塚から東六甲縦走路を

六甲最高峰、有馬へ下山

コースタイム 阪急宝塚駅(45分)→塩尾寺(1時間40分)→岩倉山(50分)→船越峠(1時間10分)→軒茶屋・休憩(15分)→六甲最高峰(1時間10分)→有馬(バス35分)宝塚駅(徒歩16・5・6時間・企画先達 生田良夫氏)

中村敏文

① 宝塚駅から塩尾寺(宝塚市伊志) 宝塚駅南口から阪急の線路沿いに歩き、踏切前で右折する。次の角で左折して旅館街を抜け切ると、武庫川の宝来橋を渡る。広い旧伊志村は一変して住宅地に開発され、伊志一丁四丁目・湯本町など三〇の町となる。紅葉谷の川沿い道を行き、大きく右折、左折して甲子園大学の裏手をたどる。旧伊志村の西部は広い山地で、雑木林の山中のゆるい山坂道を上ると、宝塚駅から約1時間で塩谷川上流の山中にある浄土宗塩尾寺へ着く。

落ち着いた小さな山寺だが、正月9日の伊志志祭は有名で、深夜から村人が松明をかざし列をなして観音信仰をする。

江戸期の「摂陽群談」に「山腹より塩水が沸き浴すれば病ごとく癒える。有馬温泉の余水なり」と記載してある。明治末に村内諸社を合祀した氏神の伊和志豆神社を武庫郡の式内の名神大社に比定してあるが、貞観元年の神位昇叙で、従五位上と低く式内小社説もある。

② 岩倉山から大平山(宝塚市小林) 塩尾寺から東六甲縦走路は東南へ勾配のきつい山坂道が300m近く続き、上がり切ると三差路で縦走路は左側。真ん中の道は磯島弁財天(砂防権現)を経由するが先で合流する。縦走路はゆるやかに真南へ続き、数分で東南へ曲がると10

塩尾寺本殿



分で岩倉山へ着く。489m弱の三角点は縦走路より北へ上がった山頂にある。南方間近500mには415mの行者山、西方500mには526mのゆるやかな鎌葉山が招くように見える。岩倉山から少し行くと北側の赤子谷と南側エデンの園へくだる道が交差する。縦走路は鎌葉山の北側山腹を伝い軽い起伏を繰り返す。岩倉山(573m)の南側を伝う。ここで東南へと鋭角に方向を変えて10分ほど歩き、反対の西南方向へくだると510mの大谷乗越である。

棚越新道を少し南へ歩き、ロープ張りの大平山への急坂を数分で上がると、縦走路は開けた草原を抜け、雑木林を歩く。船坂無線中継所巡視道路へ出る。正面



の階段を上がり山道を行くとレジャー下へ着く。淡路や飯神間を見渡せる682坪弱の大平山山頂は、団体の休憩に適した広場だ。堀尾寺から1時間余り歩き続けたので、展望を楽しみながら昼食とする。

③ 船坂峠を経て水無山(西宮市)
無線中継所巡視道路の終点付近から山道を少し下がって登り返すと、縦走路はクマザサのなかへ続く。展望がなくなると山頂から2.5分で船坂峠へ着く。船坂への分岐路と狭い尾根道のみで休憩はできない。

*本コースは山道6時間の難路ゆえ、5名は2時間短縮コースを選ぶ。宝塚駅9時15分発の有馬行きバスは20分3200円で船坂バス停へ着く。バス停北側の山王神社の鳥居を左に見て少し戻り、右側の道標を見て右折する。JA農協前を過ぎると二車線道路に入り、大平山頂のアンテナ塔を眺めて数分歩くと、西宮北有料道路下を滑る。集落を行くと西宮水道局がある。少し先の右手の住宅前の船坂峠への案内板を見て、そのまま直進して住

宅街を外れると、船坂峠への清水谷に入る。

舗装路が土道に変わりゴロゴロ石の坂道となり三差路へ着く。左への道をササをかき分けて上がるとまた三差路となる。峠まで一筋という左への道へ入ると右へ左へと鋭角に折れる。峠まで数回もジグザグを繰り返すと表六甲縦走路へ入る。船坂バス停より50分、くだれば40分の初級コースで、谷筋の石コロ道は慎重に歩けばよい。

峠から南西に見える804坪の水無山へ向かう700坪前後の尾根道は、急坂混じりの上がり下がり道を数回繰り返して、半時間ほどで高所へたどり着く。さらに西南へ向かうと船坂谷への道と交差し、山頂を越えて半時間で鳥居茶屋跡へ着く。

真南にある西宮神社の末社、石の宝殿は10数分で往復できるので参照する。ここは船坂川・芦屋川・仁川・住吉川などの分水嶺で、六甲の守護神として白山権現を勧請し祭祀したという。茶屋跡から鉢巻山と蛇谷北山へはそれぞれ半時間程で往復できるというが、後鉢巻山を横切

る縦走路を西へ一軒茶屋へ向かう。東六甲ドライブウェイの歩道を伝っても後鉢巻山北側を廻っても茶屋へ着く。お手洗いやなど諸設備があるのでゆっくり休憩し、六甲最高峰へ登る。

④ 六甲最高峰(神戸市北区六甲山)
終戦後長らくアメリカ軍に占領されていた最高峰も返還され、一軒茶屋手前の駐車場から片道10分程度で往復できる。現在でも米軍のバラボラアンテナが残さ



六甲最高峰

れ、931・3坪の標高を示すケルンを形どった大きな記念碑が立っている。

⑤ 住吉道を有馬へ(北区有馬町)
六甲山最高峰の東側鞍部を越えた近世から近代初期の六甲越は、海産物や生活必需品を有馬へ運んだ住吉道と魚屋道である。この二道は一軒茶屋の南約2.5kmの地点で合流して六甲山越えをするが、裏六甲では目的地名をいれた有馬道・住吉道の呼称が妥当である。

住吉道は住吉川沿いに白鶴美術館・五助塚を経て七曲りを一軒茶屋へ上がる道筋で、最近では御影駅から魚屋道へ入り六甲越で有馬へもくだったっている。

魚屋道は阪神深江駅の東にある魚屋道起点の標識からドブ返し池へ上がり、風吹岩を経て雨ヶ峠から住吉谷へくだり、一軒茶屋へ上がった道筋である。

六甲最高峰から一軒茶屋へ引き返し、少し北東へ戻り住吉道(魚屋道)へ入る。有馬温泉への道標に従って左へ分岐するのが近世初期からの古道で、東北へ3分もくだると吉高神社があって白石谷への山道が西へ分岐する。大安相滝と白龍滝・白石滝を経て紅葉谷道まで1.5kmと短

いが、登山経験者でも1時間の難路ゆえ素人混じりの団体は避けたいほうがよい。分岐から住吉道は急坂を交え東北へと曲折し続け、射場山の西山麓を巡る。さらに鋭角に曲折を繰り返して虫地獄・鳥地獄を経て湧出場へくだる。宝塚駅へのバス時間の都合で愛宕山中腹の式内社比定の温泉神社へ廻る。旧地は下方の温泉寺の境内で明治十六年に現在地へ遷座し、大泉の守護神としての式内大社である。

神社のすぐ下に黄檗宗寺院で薬師如来を本尊とする有馬山温泉寺がある。奈良時代に行基が創建し、平安中期の承徳年間(1097-99年)の有馬の大洪水で荒廃する。平安末に吉野高原寺の仁西が再興したが、室町末期に火災で焼失する。

豊臣秀吉正室の北政所の寄進で復興したといわれ、江戸時代には温泉寺と音菩提・關若・施業の三院があった。
明治の廃仏毀釈で衰微し、奥の院の黄檗宗の清涼院が寺名を継承し現在に至る。有馬駅前バス停へ歩き、宝塚駅行きバスは550円、40分余りで阪急宝塚駅へ着く。

神峯山寺からポンポン山へ

松永恵一

神峯山寺

修験道の開祖役小角が葛城山で修行している時、北の方角に五色の雲がかかり黄金に光輝いているのを見た。役小角はこの地を訪れ一人の童子に会う。童子の持ってきた霊木で毘沙門天像を刻んだ。天武元年(683)に創建された神峯山寺は、光仁天皇の皇子開成皇子によって宝亀五年(774)に再興された。皇室の崇敬も篤く、歴代天皇の勅願所となり、堂内の飾りや什器類には皇室の御紋章である十六弁菊が付けられている。朱印も菊の紋章がつかわれている。足利三代将軍義満や豊臣秀頼の生母淀殿らの寄進も多く、大いに栄えたという。秀頼も講堂を造営したと伝えられている。

江戸時代中期の明和二年(1756)に焼失し、現在は、宝塔院(本坊)と寂定院・龍光院の三院となっている。朱塗りの仁王門が訪れる人を迎える。仁王門前の橋の手前左の山際に「開山役行者・笠掛石」と書かれた石碑が立つ。笈は修験者が背負った箱。仁王門をくぐる。運慶作と伝えられる仁王像が睨みをきかせている。春は桜、秋は紅葉。俗化されていない境内は美しく彩られる。参道がまっすぐ北に延びる。石段を上った所に「本堂」が建つ。東伏見宮さまの真筆といわれる「日本最初毘沙門天王」の扁額が掲げられている。本尊は毘沙門天像。寄木造りの阿弥陀如来座像、二体の聖観音立像は一本造り、平安時代の御



神峯山寺本堂

仏で重要文化財に指定されている。本堂の右手の石段の上の開山堂には、一本歯ゲタをはいた役小角等身大の像がまつられ、左手の聖天堂には、十一面観音・観喜天・弁財天などの像がまつられている。聖天堂北側の小さな広場には十三重の石塔がそびえる。開成皇子の父・光仁天皇の分骨塔と伝える。十三重石塔北側の山の斜面に五重石塔が立つ。開成皇子の埋髮塔という。

本山寺

本山寺は、北山と号して天台宗に属し、毘沙門天を本尊としている。寺伝によると役小角が開山し、宝亀年間に開成皇子が創建したという。天正年間(1580頃)に兵火で焼失したが、慶長八年(1603)に豊臣秀頼が再建。中の門は、伏見桃山城からその時に移築されたと伝えられる。江戸時代の宝永年間(1704頃)には、徳川五代将軍綱吉の生母桂昌院が大改修を行っている。

本尊の毘沙門天立像は、木造寄木造り。毘沙門天は四天王のひとり、北方を守護する四天王中最強の武神。多聞天ともいい、財宝をつかさどる神として信仰されている。聖観音立像と共に平安時代後期の作とみられ、重要文化財に指定されている。

三好長慶や高山飛騨守・右近父子らの寺領安堵状や禁制等十一通からなる本山寺文書は、戦国時代や近世初頭の歴史を伝える重要な資料として、高槻市の有形文化財に指定されている。足利八代将軍義政が愛用したと伝える葡萄日月硯は、織細で巧みな彫刻がほどこされている。

善峯寺

善峯寺は、横川(比叡山)の恵心僧都の高弟源算上人が、この地で十一面千手観音の像を刻みまつられたのに始まる。山は険しく、堂の建立は困難を極めた。ある夜、上人の夢枕に一人の老翁が立った。翌晩、猪の大群が現れ、牙で大岩をうがち、地ならしをしてくれたという。長元七年(1034)に後一条天皇から「良峯寺」の寺号を賜り、後朱雀天皇は、東山の鷺尾寺の本尊であった千手観音像を当寺に移された。歴代天皇の崇敬篤く、中世には「西山宮」と称する門跡寺院となり、五十余りの堂塔を有する大伽藍を誇ったが、応仁の乱の兵火にかかり焦土と化した。

衰微した善峯寺の堂塔を再建し、復興されたのは、徳川五代将軍綱吉の生母桂昌院であった。桂昌院は京都の八百屋仁右衛門の娘お玉で、幼いころお参りされていた。五葉松は、遊龍の松と呼ばれ天然記念物に指定されている。樹齢約六百年で日本一の松といわれ、地面を這うようにのびる。桂昌院の献歌。

たちねの願いをこめし寺なれば
われも忘れじ南無薬師仏

高槻の鹿

神峯山寺の北側には樺・桐に赤樺が混ざった温帯針葉樹林がある。山地の大部分に杉・檜などの植林が進み、野生動物の生息地が狭まれつつあるが、ポンポン山北部は良好な自然がまだ残されている。この自然がニホンジカ(Cervus nippon coreanicus)の生息に大きな役割を担っている。この地域には鹿だけでなく、狼・猪・狸・狐・穴熊・貂・鼬・栗鼠・ムササビなどが生息していると報告されている。

大阪府下では、熊勢剣尾山から箕面、高槻北部山間部にかけて野生のニホンジカが生息している。大都市近郊で、自然のままに大型野生動物が生息する所は世界的にもあまり例がない。

鹿の足跡・糞・食痕などのフィールドサインを見つけると、稜線近くのシカ道に、樹木の表皮に角トギが見られる。傷跡は比較的よく残り、その色からよく目立つので発見しやすい。秋には「フィヨ」と、求愛の美しい歌を聞くことができる。

豊かな自然を守り、野生動物植物といつまでも共に生きていきたいものである。



ボンボン山山頂

コース概観

京都西山は古刹寺が多く点在する地。修験道の役小角ゆかりの神峰山寺・本山寺。來生を西方極楽浄土に往生しようと願った善峰寺・三站寺。加茂勢山は頂上に近づくとつれて足音がボンボンと響くことから通称ボンボン山とユニークな名前前で呼ばれる。よく整備された東海自然歩道をたどり、歴史と自然に親しむファミリーハイキングに出かけた。



ボンボン山付近略図

浅くなり、周囲がアセビ・ツツジなどの雑木になると、ボンボン山の山頂を往復する丸木の階段が見える。加茂勢山(ボンボン山)は標高678・9M。三角点標がある。頂上は樹木におおわれ360度の展望とはいかないが、東に比叡山、京都市街が広がる。天候に恵まれれば琵琶湖から三上山(近江富士)が見える。南は眼下に高槻市街、淀川の滔々とした流れ。遠くに生駒山・金剛山が煙っている。階段を戻り左、善峰寺方面へくだる。しばらく進むと三叉路になる。杉谷・善峰寺方面は直進。右にとると釈迦岳(631・0M)。見晴らしはよくない。もとの三叉路に戻り、右にくだる。景色のよい所を通り過ぎると急勾配の下り坂になる。手すり、階段で道はよく整備されて

いるが気をつけてくだる。急な下り坂をくだりきると、沢沿いの道をくだる。急に田園風景が開けると杉谷の集落。三叉路に突き当たる。右、善峰寺方面に進む。左にとると金藏寺・大原野神社経由で南春日町バス停に出る。善峰寺に向かってしばらく歩くと三站寺への分岐がある。善峰寺への道は鋭角に右に曲がる。三站寺は善峰寺の開祖、源算上人のゆかりの寺である。背後の山が仏具の三站に似ていることから三站寺といわれる。眼下の眺めはすばらしい。京都市街が一望でき、その背後に東山連峰が見える。東山に名月が昇るさまは絶景といわれている。三站寺から大原野の南春日町バス停に出ることもできる。善峰寺に立ち寄る場合は有料駐車場か

JR高槻駅下車。阪急高槻市駅で下車した場合は、10分程西に歩くこととなる。JR高槻駅北側にある高槻市バス停留所「JR高槻駅北」③番のりばから「上の口」行きに乗り、終点で下車。②番のりばから「原大橋」「田能」「中畑」「二料」「杉生」行きのいずれかに乗れば「神峰山口」停で下車。10分の時間短縮。「上の口」下車。進行方向に進むと右手に神峰山寺方面の道標がある。15分程歩くと鳥居が見えてくる。右手に牛地蔵がまつられている。牛地蔵は京坂越えに使った荷役牛を供養したもの。鳥居をくぐり竹のトンネルを歩く。槍尾川を右に見て参道を行く。しばらくすると勸請掛門柱の横木に、縄を結んだ12本の縄をかけ、神仏を迎えている。堂島の米商人らは縄の高低長短によって、毎月の米価を占ったという。

神峰山寺第2駐車場から右に谷をくだって神峰山寺に向かう。しばらく山歩きの間を感じ楽しむ。汗かいたところで神峰山寺の仁王門前に着く。新西国第十四番霊場神峰山寺は濃い緑にすばりと包まれている。十数棟の伽藍が並ぶ境内でしばらくの時間を過ごす。野鳥のさえずりが

時折、静寂を破る。御詠歌。神峰の山すずしき音のかよひ来て

このころの底に響く流つせ
野草らん園、神峰山の森を右に見、本山寺へ向かう。周囲はよく整備されている。だからだとした林道を登る。南側に大阪市街、六甲山を見る。梅田スカイビルの空中庭園展望台が白く浮かんでいる。高任鉄塔を過ぎると本山寺駐車場。砂利道に変わり、本山寺まで後三丁の丁石を過ぎるまで急な上り坂。今回のコースで一番しんどい所。頑張って歩く。役行者衣懸けの松の案内板がある。ここから先を小豆坂という。寶篋印塔を過ぎるとなかなか坂になる。勸請掛を左にとると本山寺を経由してボンボン山。右は本山寺を迂回してボンボン山へ向かう。距離はあまり変わらない。

本山寺に向かう。厳肅な雰囲気を感じる。急な石段を登り本堂にお参りする。しばらく憩う。本山寺が最終のトイレ。本堂の右手から山道となる。整備された道は歩きやすくすぐに尾根道になる。周囲は杉・檜が植林されている。道の右脇に高槻の古木天狗杉。樹齡三百三十年。天狗が羽根休めをする木という。右側の谷が

ら入る。下の参道から入ると、また上りになる。入山料400円。西国二十番札所。寺全体が山の傾斜を生かした回遊式の庭園になっていて、ゆっくり散策すると、たっぶり1時間はかかる。京都方面の眺望が美しい。御詠歌。

野をもすぎ山路に向う雨の空
よしみねよりもはる夕立
今年の3月から阪急バスが善峰寺まで乗り入れることになった。ただし、冬季12月〜2月は、小塩バス停発着。

▲コースタイム▼

JR高槻駅北口(バス14分)上の口バス停(40分)神峰山寺(1時間10分)本山寺(1時間10分)ボンボン山(1時間20分)善峰寺バス停(バス21分)阪急東向日駅

▲地形図▼

高槻駅北口(上の口)バス停	210円
小塩バス停(阪急東向日駅)	300円
▲問い合わせ先▼	
神峰山寺	0726(88)0788
本山寺	0726(87)2681
善峰寺	075(331)0020

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑧

「道と峠」

西尾 寿一

「道(みち)」は古代ではみち神のものにつく語、ちり方向を示す語で、合わせて道(みち)と古語辞典は言う。チマタ・ヤマチ・イツチなどに使われる。

例えば「ミコシチ(み越路)ミサカ(み坂)ミサキ(み崎)峠」(岩波古語辞典)のように使われることから、道(みち)とは神が関与する向方性とでも理解するとすれば、実に容易ならぬ意味が込められていることに驚かされる。

後年「道を外す」や「人の道に非ず」などととなるとさらに怖しげな事態となる。

道という字を中国では「敵の首をもつて前進する意」とするから、相手方の国へ侵略して行く意にもとれる。チベットその他への侵攻併合は開放と強弁するが、古代中国では言語の上でそれを容認しており、大中華思想は今でも生きている。

が〇〇川谷と同じで、峠は後に付加された余分なものだ。

他に峠の語に、越・越路・越場・乗越・タルミ・タル・境・標・辻・塞・堺などがあるが、国道のほとんどがトンネルとなり、峠の名も失われる日も近いのだから。

登山の場合、右記のほかによくつかの用語がある。外来のコルやザツテルのほかに鞍部があり、窓がある。剣の「三ノ窓」と言ったりするが、窓は他の山でも使われている。

北海道の百松沢山にシルバザツテルがあり、他にもヘルベチアヒュッテがあった、いかに当地の岳人が夢多き徒であったかがわかる。

先にあげた峠の種類のうち「標」については若干の説明が必要となる。柳田國男(地名の研究)はこの部分を詳細に語ってくれる。柳田は例のように多くのデータを集める。そのなかから峠を意味する語を拾いあげてみると、峠道・峠ノ崎・峠ノ腰・毛無嶺・境嶺・境依・狐嶺・中嶺などが収集されるなかで、驚くことにはいづれの場合も異語同音であることである。峠をヒョウと表現するのも不思議

道の字はその後現実の道から思想や理想主義へと発展し、わが国では精神的支柱として根性という言葉と共に〇〇道として定着する。例えば、武士道・華道・茶道、その他あらゆる分野で浸透し、戦前は国家が戦後は体育会系のスポーツがこれを引き継いでいる。

これとは別に、ルートという外来語と共に道を探るとか道を求めるとか目的に到達するための道筋を求めるとか作業や、人生の道のように大きな意味に使われることもまれではない。

登山の際の道とは、登山道はむろん、岩壁を登るためのルートや道のない山で登山ルートを決定する場合にも、実際の道はないが「道」と表現される。自らが道を拓くという意味の道である。むろん後者のほうが高度に洗練された状態である。未踏の高峰に道を拓く作業ほど崇高にして強い憧憬をさそうものはない。

道を辿ればやがて峠に至る。次はその「峠」についてふれてみたい。峠の源意は定かではないと言ったほうが正確である。峠の由来としては現代有力視されているものが二説あって共存している。

であるが、柳田はこれを次のように推理するのである。

「自分は標は標であろうと考えてみたのである。峠という漢字は和製であろうが、それにヒョウという音の生ずる理由はなかった。ただ丘陵の峰通りの、道路で横断する地点を村の境としていたために、標とは峠のことと誤解して、しかも普通の標と区別すべく、いつとはなく山偏の字を使用したものかと思う」と述べている。また「嶺や依は一種無頓着な万葉仮名であろう」とも述べている。

地名とは実に厄介な代物ではあるが、謎解きのおもしろさは未踏峰に登るに似て格別のものである。

さて先にあげた峠由来の二説論であるが、これを符来も永遠に二説並記させておくわけにはいかなないのである。両者の間をさらに「坂越・塞」などとともに分析を強化し、もう一考察してみたい。

先にあげた峠の機能をもつ道の形態は実は同じではなく、それぞれ異なる地形と意味を含んでいることに気づくべきである。

例えば「タワ・タオ・トウ」などは「峠・嶺・岫・迪・藤」という字を当て

その一は、峠ノ岫、たわんだ場所説、その二は、峠ノ手向けで峠の神にタムケル行為の説があり、どちらもゆずらない。峠の大きなものは国の境であり、小さなものは村の境であった。共に境界であり、境界を守る神、つまり塞ノ神(界神・岐神)がまつられた。旅人はこの神に手向けすることで境界(関所と見立てる)を無事に越えて行けることを可能とし、この神を祭祀する麓の両村では悪鬼の侵入をふせぐ意味が込められたという。この意味では手向け説は合理性はあるものの、それなら境界のない峠や一般の山への手向けはどうなのか説明がいる。

もう一方は特に西日本で有力視されるもので現実には、タワ・タオの地名が近畿・中国に多い。特に吉野地方には岫(タオ・タワ)が現在も生きている。

その昔高山脈の一角で地元、吉野の獵師に出会った折には、すでに魔道になった数ヶ所を指して〇〇タオであると教えてくれたことがある。魔道と共にタワ・タオも失なわれてゆくものと思える。峠に至るには坂を登らねばならない。この坂こそ古い峠の名で坂の頂上が峠と言え。〇〇坂峠が堂々と通用している

ているが、地形のたわみ・山の鞍部状の意であるから、人間だけでなく野生動物や渡り鳥なども越えた場所なので自然の峠だったわけである。従って峠が山頂にある場合はこれに該当しない。「タルミ・タル」なども同類である。

「越・乗越」は高い尾根の顕著なタルミで人間が越える所であるが、これも地形語でタワ・タオの同類に入る。窓や外来のコルは一般人でなく登山者などが使う特殊な存在だ。

「境・標・塞・堺・辻」などは境界であり尾根を境として他界が接している状態である。峠の「手向け」論の根拠となる境界神が祭祀される所で、地形上のタルミと同一ではない。

坂は峠の古い語意とされるが、これも峠の意よりは、峠に至る道中の形態を表現している。四十曲峠・九十九曲峠・四十坂・十七坂など峠に至る道中の曲点を数えたもののほかに、ツツラ坂・イロハ坂などあるが、直接峠を表現しておらず道中の厳しさを表しているのである。ここでは坂と峠を比べて坂が峠の古名であるとは断言できない状況なのだ。

次に峠の「手向け」説なのだが、峠と

いう国字が現れたのは室町時代以後だとすると、トウゲの最も新しい表現となる。このあたりにトウゲの発生源説の秘密があると思う。

先にあげた何種類かの峠は大別して①地形からくるもの②境界表示③信仰④峠の形態などに分かれる。このうち④は①に吸収されるし、③は②の発展形であり同化してもよいから、要は①の地形起源か、②の塞の神信仰起源説に集約されると思う。これによって最初にあげた峠発生の有力二説が残る。無駄な分析をしたと思われるかも知れないが、そうではない。二説が残ったことの意味は大きいのだ。

では、なぜ「峠」という国字がつけられねばならなかったのか、その要因を考えてみよう。

まず時代と共に人の往来が飛躍的に増加し、隣村との交流だけでなく長距離の旅が一般化するなかで、以前は峠全体を表現する言葉がなく、不自由があった。そこで、タワ・トウ・坂・曲・境・塞・標などですませることができなくなっていくに山の上と下という実に説明的な「峠」が発明されたのではないか。その

国字をどう読ませるかには以前から有力な「峠」表現のうちから採用されることは当然のことだ。いきなり峠(トウゲ)という国字と音調同時創作はできないのである。

峠(トウゲ)の字が最初に現れるのは、平安末期の和歌に始まるが、都人の創作なら西日本の表現法が使われたとするのが自然である。とすればタワ・タオ・トウは除外することができない。

峠という国字創作は、おそらく諸々のトウゲ表現の統一化をねらったものとする。ならば、当時の口語形を生かすはずであり、タワ・タオ・トウは「手向け」より直接的である。むしろ「手向け」説は、タワ(以下略)から峠への国字化を察知させるために、既存の塞の神への信仰形態の類似性を組み入れたのではなかろうか。

なぜなら「手向け」説は地形としての峠の形式をもっておらず、峠以外の平地に存在する路傍の神仏への「手向け」との区別が不可能だからである。以上は小生の仮説にすぎないが、両説ともさらに考察を深める必要もありそうである。

〈山のレポート〉

山岳観光のあり方

塚元 一彦

昨年11月に実施したニュージーランドのルートパントラックの紀行レポートは、別掲のとおり(本号36ページ)。ここでは山歩きを、観光産業の対象とした場合の方策についての考察を試みる。

ニュージーランドは景観に恵まれた島であり、どこへ行っても美しい国である。山岳観光の対象としては、世界一美しい散歩道といわれる「ミルフォードトラック」や、また四季を通じて冠雪があり、氷河を間近に見ることが出来る「マウントクック」がある。これに「ルートパントラック」を加えた三コースは、一企業が一括して運営に当たっている。つまり、ガイドの派遣・山小屋の経営・登山道の整備・避難小屋の維持などが、一つの企業の業務となっているのだ。いずれのコースも国立公園の中にあるため、政府観光当局との間に、キチンとした取り決めを定めたうえでの仕事と思われる。

まず山小屋には定員があり、収容能力を超える員数は受け付けない。従って日本の山のハイシーズンの、芋の子を洗うような超過密状態はない。寝具は手入れが行き届いて清潔であり、しかも受け入れたハイカーに対して出発前に専用のシートを貸与するため、安心して就寝することが出来る。シャワー・水洗トイレ・洗濯機の設備があり、汚水は調理場の雑排水と共に浄化槽で処理されている。日本の山で大きな問題となっているトイレによる環境汚染は考えられない。

小屋番は1人しかいないが、客に提供する食事の調製には、ガイドも参加するためサービスは確保でき、無駄な人件費が節減できる。

避難小屋は休憩舎を兼ねており、必ず水場とトイレがある。そして簡単な調理設備があり、ティータムサービスの場所となっている。ガイドは山行中、先頭・中間・最後尾に入って客の安全を確保するため、落後者が出ることはない。コースの詳細を熟知しており、景色のいい場所や花のある場所ではカメラタイムをとってくれる。樹木や岩石や鳥についても正確な知識を

私達におまかせ下さい。待っています!

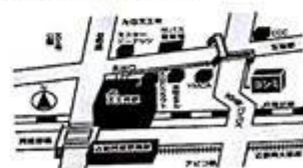


●詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店

とスキーのヨシモ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口
より東へ徒歩5分

持っていて、質問には的確に答えてくれる。職業としてのガイド訓練を受けていて、何よりもホスピタリティがしっかりしている。

登山道の整備が企業の仕事であることは画期的だ。日本では登山道の維持管理についての法令がなく、山小屋経営者のボランティア作業によって、かろうじて保たれているにすぎない。ルートパントラックでは、ハイカーが安全に歩くことができるよう、落石を排除し、大きな段差には必ず岩にステップが刻まれている。登山道が商品の一部として管理されていることを感じた。

料金だが、山小屋・ガイド食事込み2泊3日で9500N Zドルから10500N Zドル(邦貨換算58900円~65100円、金額は季節によって変動する)。つまりわれわれが日本の旅行社に支払った旅費の中には、この料金が含まれているのだが、高いか安いかは実際にこのコースを歩いて判断してほしい。

要は、山岳という観光資源を産業として利用し、海外からのツーリストを誘致するためには、このような民間企業の力を活用する方法があるということだ。

サクラの名所を歩く

船岡山

一般コース(★★★)
慶佐次 盛一

吉野山といえは約三万本の桜の花が咲き競う、日本一の桜の名所である。ただし花の頃の吉野は人混みだから、花には少し早い3月上旬の静かな吉野を歩いてみた。船岡山はやぶっぱいので二つ星にしたが、船岡山をはずせばだれでも歩けるコースである。

また吉野山は古くは神武東征に出てくる山である。壬申の乱にも登場し、役行者が開いた大峰修験道の山でもある。南北朝の時代には後醍醐天皇の宮があり、源義経と静御前や楠木正行など、伝説とゆかりのある場所が随所に残っており、古代史が凝縮された山を山緒を訪ねながら巡り歩くのもいいだろう。

近鉄吉野駅前を南へ進み、広い観光車道を左に見送って狭い温泉谷コースに入る。入口は町営団地で、川沿いに桜が植樹された静かな道である。

20分ほど歩くと左の道端に「仏舍利塔」「日本山妙法寺」と刻まれた石碑があり、すぐ先の泉湯橋を渡る。前方の吉野温泉元湯へは向かわず、左折して川沿いに少し逆行すると右側に妙法寺の裏参道の山道が現れる。

ここは道標がないから注意してほしい。ジグザグの山道を過せば、あとは植林帯のゆるやかな山道が続く。妙法寺に着く。地形図には卍の記号はないが、白亜の仏舍利塔が見事で、背後には船岡山も見えている。お寺を出て舗装された車参道の坂道を少し登ると、先に見送った観光車道と合流する。

左折して広い車道を進む。右の船岡山の山麓は深く削られているので、西尾根から取りつくほうが無難であろう。

西尾根が近づくと左に花見塚公園があり、展望がいいのでぜひ立ち寄りた。文禄三年(1594)秀吉が武將や公家五千人を引き連れて花見をした所で、ベンチやテーブルがある高台からは蔵王堂

が見下ろせ、花の頃には一目千本どころか、数千本の眺望が広がるだろう。竜門岳から高取山へと続く稜線や、青根ヶ峰・堂欄山なども見える。

船岡山の2等三角点



展望を楽しんで観光車道に戻ると、船岡山西尾根の取りつきはすぐである。カミブミラーの手前に、立入禁止の赤い標識がある所が西尾根の取りつきである。

立入禁止はマツタケの時期だけらしく、細い踏み跡を進む。途中からイバラと倒木を越えて稜線に出て、若い植林帯の縁に沿って西尾根を登る。山頂近くで踏み跡は稜線を捲き出し、ネットが現れると船岡山の鞍部に着く。

鞍部から折り返し、船岡山へと倒木を越えながら稜線を進んで山頂に着く。雑木のなかに2等三角点(点名吉野山)が埋まっているが展望はなく、登頂標が数枚残っていた。

くつろげる山頂でもなく、元の踏み跡をたどって観光車道にくだり、中千本の

方へと進む。妙法寺からの合流点まで戻り、後醍醐天皇が歌をお詠みになったときの御料水や、秀吉が花見のときに茶の湯につかわれたという小判井戸の名水や、右の如意輪寺への参道を過して行くと、左側に近畿自然歩道の「宮滝・水分神社」への道標があり、遊歩道に入る。

このあたりが中千本で、明るい山の斜面一帯に桜が植樹され、早くも数本の桜が花をつけていた。

ここは展望がいいので、遊歩道を離れて斜面の上まで登り、展望を楽しみながら昼食とした。春風に乗って法螺の音も聞えてくる。如意輪寺や蔵王堂を見下ろし、先ほど登った船岡山の奥に竜門岳が見え、高取山のかなたに金剛葛城山脈が

春霞に煙っていた。

遊歩道に戻り先へ進む。車道の上の山腹に続く道で傾斜はゆるく、展望もよい。スマイレやネコノメソウが咲き、山菜摘みを楽しむ姿も見られる。

道標が現れた所で近畿自然歩道の広い道から離れ、回遊道に入る。この道も山腹の捲き道で、途中の「上千本桜展示園」の道標に従い、大峰山参道を横断して桜展示園を通り、展望台に着く。

展望図もあり、「火之見櫓」の石碑と4等三角点(点名中千本)も埋まり、憩うにはいい場所である。これをくぐると再び大峰山参道に出て、竹林院、喜蔵院などを過して国宝金峯山寺蔵王堂に着く。



船岡山付近略図

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

- △コースタイム▽
近鉄吉野駅(20分) 泉湯橋(15分) 妙法寺(10分) 花見塚(25分) 船岡山(35分) 中千本(25分) 展望台(20分) 蔵王堂(30分) 近鉄吉野駅
△地形図▽2万5千円吉野山

蔵王堂は大峯奥駈道、熊野古道とともに世界遺産に申請中である。選定されることを願いつつ山門を出て、銅の鳥居や総門を過してロープウェイ駅にくだり、その先の七曲坂をくだって吉野駅へと戻った。

(里山シリーズ13 北近江)
シヤクナゲとブナ林
滝谷山

一般コース(★★★)
長宗 清司

滝谷山へは、JR近江今津駅から家族旅行村「ピラデスト今津」までバスに乗り、あとは徒歩で行くのが普通である。今回は少しせいたくに距離をのばし、シヤクナゲの群生地を三ヶ所訪ねるコースにした。

近江今津駅前から総合運動公園行きのバスは町内を巡るので、少し時間はかかるがワンコインバス(100円)。しかも箱館山山麓駅まで運んでくれるので便利だ。

箱館山は野坂山地最南端の山で、雪質がよく、昭和10年にスキー場として開発された。ゴンドラで山上に向かう。山上駅(見

晴台駅)からは、三つあるハイキングコースのうち、一番西側のCコースを選んで歩く。このコースは、上りが少なく木陰が多い。静かなのはほとんどの人がゲレンデを横切るためだ。一人一人歩ける程度の細い道だがしっかりした山道は、やがて右に処女湖の水面が見えかくれる。少し急な下り道の両側にはシヤクナゲが群生している。

小さな鞍部から次のコブを越えて、処女湖堰堤に出たあと、林道酒波谷・河内谷線に降り立つ。処女湖は大正2年(1913)から10年がかりでつくられた灌漑用の人造湖である。

道はこのあと、林道を西の石田川ダムの方へ水の流れを右に見ながら歩く。右の谷との出合に東屋があり休憩できる。滝谷山への登り道は、このコクダリ谷の上流へ少し行き、左の急斜面につくられた天狗岩遊歩道に入り尾根に向かう。

この木段道は想像以上に急なので、ゆっくり登る。主尾根の手前で右に入る標があり、かすかだが新しい踏み跡をたどると、尾根上に古い袖道がくっきりと残っている。右の高みへ向かう尾根道は小さな起伏の連続だがきびしくはない。三角

コクダリ谷からの登り口



点の標石は、本道から少し入り込む杉林の切り開かれた中にある。

やがて、河内谷にくだる道との分岐に注意しながら刈り込まれたヤセ尾根をぬったあと、足下にはイワカガミが群生し、あたり一面ブナ林の明るい台地に出る。赤い布切れなどの目印を注意深く追って林のなかを抜けると、シヤクナゲの群生地に出くわす。最後は、大きな湿地帯・

スタ場などがあり、ひと息上がると近江坂のコースに行き当たる。

近江坂は、福井県三方町の能登野から滋賀県今津町の赤坂山山麓の酒波寺まで20数ヶの尾根を結ぶコースである。

昔、倉見の里にある成願寺の園見神社にあった大般若経の経巻五九九巻を酒波寺に納めたといわれており、その時以来毎年この道を通って、相互が拝みに行く慣習ができたといわれている。

滝谷山から近江坂コースに出たあたりもシヤクナゲの群生地、シーズンには花のトンネルとなる。3月から6月にかけてのこのコースは、ほかにもカタクリ・イワカガミ・イワウチワ・コアジサイと、月を追うことに咲く花の種類が変化して、



訪ねる者を楽しませてくれる。

平池に出ると、杉林の向こうにはカキツバタの開花期で、湿原一帯は鮮やかな青紫の世界が広がる。

コースの最終地点は、バス停のある「ピラデスト今津」。町が自然体験交流施設として箱館山の隣、標高500m以上に家族旅行村をつくった。ファミリーロッジ・オートキャンプ場・一般キャンプ場・多目的運動広場がある。

緑に囲まれた快適な山のプチホテルもある。一泊されることをおすすめする。日帰りの人は「森の交流館」の大浴場での入浴が可能だ。眼下に琵琶湖の景観がワイドに展開する別天地である。

木もれ日の道にある小池には「琵琶湖周航の歌」の原曲にちなんだスイレン科のヒツジグサの小さな淡いクリーム色の花も咲く。様々な動物・植物とのふれ合いを通じて生き生きとした自然を体感できるのが「ピラデスト今津」だ。

平池、処女湖への散策遊歩道があり、箱館山へのコースと併せれば、ウォーキングで森林浴を十分に楽しめる。

(平成14年5月12日・6月16日歩く)

▲コースタイム▼

JR近江今津駅(バス21分)箱館山山麓駅(ゴンドラ5分)見晴台駅(1時間)処女湖畔(10分)林道酒波谷・河内谷線(15分)落合(10分)天狗岩遊歩道登り口(40分)滝谷山三角点(10分)河内谷との分岐(1時間)近江坂コース(1時間)平池(5分)ピラデスト今津(バス40分)近江今津駅

△地形図V2万5千=熊川・海津

△問い合わせ先▼

ピラデスト今津 0740(22)6868
*オフシーズン(11月26日~3月31日)は財団法人ひばり 0740(22)5555
近江鉄道ゴンドラ 0749(22)3312
近江鉄道バス御大津圏 0775(43)6677
近江鉄道今津旅行センター 0740(22)8103

2等三角点のある山

大長山と赤兎山

山形 歳之

大長山(2等 点名大長山)

一般コース(★★)

今回は白山前衛の山々を求めて越前大野を訪ね、併せて周辺の名所も巡った。福井県には関西の岳人にも馴染みの深い山々が多いが、加越国境に連なる山稜の、三ノ峰(福井県の最高峰、厳密には少し南の方)からのびる赤兎山・大長山・取立山(水芭蕉で有名)・護摩堂山。さらに越前大日山・火燈山・刈安山の山々から選んでみた。

白山は福井県の山ではないが、これらの山から一番に迫ってくるのは白山で、福井の山とは切り離せない存在である。北陸自動車道を福井インターで降り、



大長山

国道185号線を越前大野へ走る。大野から国道157号線に入り、越前大仏、法恩寺山道路と過ぎて、大きなカーブ地点から小原林道に入る。道は狭く集落を過ぎると舗装も切れ、砂利道となる。林道は長々と続き、高度を上げて登山口の広場に到着した(小原口から約35分)。運動場くらいの広い駐車場に古い電話ボックス(登山届け入れ)が寂しげに立っていた。ところが道路端の溝に蓋がなく、車を入れづらい。さらに林道を進むと水場が現れ、少して地蔵尊の立つ登山口に到着した。林道はあと50分程で終点で、道端に4〜5台の駐車スペースがあった。私はその一隅で車泊したが、もちろんトイレも電灯も何の設備もない。地元の人たちは泊まることもないのだろう。登山口には「大長山 赤兎山登山口」の標柱が立ち、小原峠まで沢沿いのゆるい登りが続く。沢を三度渡るため、水は道中で得られる。林のなかの小原峠には「左大長山 右赤兎山」の柱が立つ。大長山のほうがコースタイムが長いので、先に大長山に向かう。ロープで2つばかりくんだり、昔の峠道を乗り越し稜線伝いに登って行く。一

登りすると刈安山だが、三角点も何の標示もないので、同定できないうちに通り過ぎる。刈安山を過ぎると道は水平状の稜線伝いになり、行く手に大長山の山頂が盛り上がりが見える。やがて急斜面の登りで前山に登り着く。下から見えていたのは山頂の肩の部分で、山頂(1671.4m)はおだやかな高原のお花畑になっていた。

展望は360度に広がり、縦走路はさらに取立山へとびている。しかし、眼前の白山は薄雲に包まれて定かではなかった。振り返ると午後には予定している赤兎山が意外に高くそびえていた。いまリンドウの花が真っ盛り。鮮やかな紺色が目にしみる。無傷の三角点は大きな保護石に囲まれ、だれもいない静かな山であった。(平成14年9月12日歩く)

Aコースタイム

小原林道終点登山口(40分) 小原峠(1時間30分) 大長山(1時間20分) 小原峠

ではなく赤兎山となっている。誤植ではない。地理院の成果表にはそのように記載されている。しかしよく見ると、兎と鬼の文字は全くよく似ていて、点名の記載時に写し間違えたと思えなくはない。三角点の点名にはなぜだろうと思うことが多くある。設定時に地元で尋ねた山名の発音を聞き違えたり、違う文字を当てた結果だそうだが、一度決定すると、訂正は絶対しないそうである。地理院でも現状と合わないことは承知で、点名は記号として考えてほしいとのことである。

小原峠から赤兎山に向かう。すぐ急登の連続で、一山登った後は足が重い。そのうえ大長山から高くに眺めていたので、さらに足が重い。コースタイムは短いと知っているので、時計を見ながらがんばる。



縦走路に登り着くと視界が開け、傾斜もゆるくなる。ササの被った道を15分程で山頂(1628.7m)到着である。突出した三角点。四角形の方位盤が二つ、

東西の山々を示している。なだらかな山頂には、ここにもたくさんさんのリンドウが咲いていた。折から黒雲の一团が迫り、地上に白い霧が降り注ぐ。ぼつりぼつりと雨が降ってきた。山頂の先の避難小屋や湿田に行くのは割愛して、急いで下山にかかった。小原峠にくだり着く頃には雨も通り過ぎた。峠の先には小さな社に石仏が安置され、白山押定道の標柱が立つ。しかし、市ノ瀬への道にはロープが張られていた。

平日で天候も不良なのに、二組の登山者に出会った。赤兎山は地元でも人気があるようだ。山頂から鳩ヶ湯にくだることもできるが、鳩ヶ湯は午前10時から午後2時までしか入浴できない(500円)。バス便も朝夕二便である。もちろん宿泊はできる。勝山市には水芭蕉温泉(500円)がある。(平成14年9月12日歩く)

Aコースタイム

小原林道終点登山口(40分) 小原峠(25分) 稜線縦走路(15分) 赤兎山(30分) 小原峠

△地形図▽2万5千1:1 願教寺山

ブナの自然林を歩く

東山

中級コース (★★★)

金谷 昭

琵琶湖の北岸に突き出た大崎半島の中央にそびえる東山。その山稜からの眺望はきつとすばらしいものだろうと思いつつも、登頂機会のないままとなっていた。一昨年春の残雪期に初登頂したが、積雪のため三角点標石を確認できなかった。昨年春の新緑期に再登頂し、三角点を確認して長年の課題を果たした。

この山についての登山案内書はほとんどないだけに、登山者の気配はいっさいない。一部に植林開発があるものの、カモシカの生息地ともなっている自然林のすばらしさは、期待した山頂稜線からの琵琶湖の眺望は木の間越しに見える程度であったのを差し引いても、余りあるも

のであった。山名の由来は京都の東山に呼応するよう、湖西の海洋やマキノの村々からは取り囲む山々の主峰は西にあって、それより低い高さで東に位置するからだということである。またこの尾根の北にある万字越は古い登山文献では、慢頭越とあり、また国土地理院の2万5千の地形図では万路越となっているが、この坂の北にある石に昔、弘法大師が卍字を書いたと伝えられた由来によるもので、万字越が正しいようである(高島郡誌)。古くから湖西と湖北を結んで人馬の往來の激しかった由緒ある峠道は、現在廢道に近いが、一部が送電線巡視路となり細々と脈絡を保っている。この万字越より稜線を南に向かって東山へと縦走した。

北国街道・国道161号線を海洋より追坂峠を越えた小荒路の信号を右に折れ、集落を抜けると左側に寺と墓地が出てくる。そこを過ぎると、大きな堰堤がある。林道はその左を捲いていて、なおも進むと約300m程で終わっている。その横の沢には集落の簡易水道の中間タンクのドラム缶が置かれていた。導水管はさらに上流にのびており、そ

東山、右は伊吹山(知内浜より)



の管理のためか一応道らしきものが沢伝いについていた。導水管は300m程でなくなると、やや広くなった谷間で沢は二股となった。

ここで右股のやはり右岸に沿って行くと、間もなく左に巡視路が分かれるにつれて、道は沢より離れるようになり、道幅がかなり広くなって歩きやすくなる。人馬の往來を便させる昔の峠道であろう

か、沢の水が濡れて5分も歩けば万字越であった。

峠道は反対側の西浅井町の方にくだっているが、そう明瞭なものではない。峠の南北の尾根には巡視路がついていて、峠の南側にはシデの枯れた巨木とその前に小さな御堂が置かれ、その中に地藏尊がまつられている。今も村人のお参りが絶えないのか御堂内はきれいに清められていた。

峠より稜線を南に向かって行くと、すぐ送電鉄塔が出てきて、道はその右側を捲く。やがて稜線を離れ、左の山腹を捲

いてくだって行く。ここでよく見るとかすかな踏み跡が稜線に沿ってついていたので、これをたどって行く。西側(マキノ町側)は檜植林、東側(西浅井町側)は雑木林となっている。稜線は樹木によって見通しがきかず、また円頂のピークや分岐の多い幅の広い尾根のため、ルートファインディングが難しい。所どころ出てくる町境界のプラスチックの赤杭が参考にはなるが、磁石と読図力も必要であった。

峠より四ヶ所のアップダウンを繰り返すと、4等三角点峰(532m)に到達



した。周囲は開かれた疎林であるが眺望はきかない。この4等三角点峰を過ぎると尾根は明確となり、ここから主峰東山にかけてがこの山稜の見どころであった。稜線西側の檜植林は熊の樹皮剥ぎ防止の青テープが巻かれているが、東側は好ましい雑木林となり、木の間越しに琵琶湖が眺められた。その植林境界の踏み跡と例の赤杭をたどって行く。左きみにいったんくたって登り返した小ピークで右に折れると、稜線の両側は雑木林となった。それも少し行くと再び西側に熊剥ぎ防止テープの檜植林が出てきて尾根分岐となった。西に向かって大きな尾根が杉植林をともなう分岐しているが、この尾根は一昨年、下山に使ったルートで、古い植林作業道が部分的に残っていて、これをたどると国道とJRの峰山トンネルとの交差点付近に降りた。今回は、この分岐で左(南)に入る。ここからはブナを混じえすすばらしい自然林となった。地表はササでおおわれているが、そう濃いものではない。踏み跡はなくなるがどこでも歩くことができた。いったんくたって登り返した566m

峰の高原台地では自然林のすばらしさが最高となる。ヌク場もあり、獣の匂いのする所で、カモシカの親子とばかり遭遇した。シカと違って逃げ出す気配は全くなく、じっとこちらを見つめていたが、突然「キヤァ」という親の声とともにやぶのなかに消え、元の静寂にかえった。

この峰の最上部のやや西寄りに電波放射板が置かれていたが、この放射板の管理用道路が必ずあるはずで、周囲のやぶのなかを調べてみたが、宇宙衛星の利用が多い最近の通信のためかすでに使用されなくなっており、管理用道路は廃道化したのであろうか、見つけられなかった。放射板の峰より少しくだつて登り返した東山の北のピークからやや左にとり、再びくだつて登り返すと主峰東山(5994.8m)であった。なお手前の鞍部は大崎の宅地造成地の道路終点の谷の源頭であり、谷は非常に急峻であるが登路に使われているようである。

頂上は雑木の疎林となっており、期待した展望はなかった。2等三角点標石と古いテープが一つ所巻かれている以外に人工物はいっさいなく、訪れる登山者も極めて少ないと思え、静寂そのものであった。

た。

頂上からさらに南(海津大崎)への稜線は好ましい雑木林がなおも続いているので、そのまま縦走する。今まで出ていた稜線の町境界の赤杭が左の山腹にくだつて行くのを見送って、先を行くと、稜線のやや西寄りに古い作業道の折り返し地点に出た。なおも続く雑木林の稜線をたどってもよかつたが、半島突端の海津大崎の崖と急斜面を考えて縦走を切り上げ、この道を降りることにした。

道は右に折れ、山腹を抱いて降りて行く。シャガの群落が出てきて、その前には木の間越しに湖西方面の展望が広がった。捲き道は支尾根の所で倒木により消えてしまったが、ここにコンクリート杭があり、これより下の急な杉植林の支尾根には赤杭が続いていたので、これを追って行く。

尾根というより急傾斜の山腹に近く、幸いやぶもない杉林のなかをどんどんくだつて行くと、谷に降りてしまった。水は無く、しばらく行くと杉林のなかにかすかな踏み跡が出てきて、大崎の宅地造成地の舗装道路に降り立った。

ここには県造林公社の看板が設置され

ており、この道を10分も歩くと湖岸道路の名高い榎並木に出た。

(平成13年3月17日)

平成14年5月14日歩く)

Aコースタイム

小荒路(15分) 林道終点(35分) 万字越(1時間) 4等三角点峰(1時間30分) 放射板峰(30分) 東山(25分) 旧作業道折り返し地点(45分) 宅地造成地車道(10分) 湖岸道路

△地形図V2万5千II海津

(注)

・この逆コースや大崎宅地造成地の舗装道路終点からの谷コースを登りに利用の場合、急傾斜のため、かなりのアルバイトを強いられる。

・道標およびテープなし。読図力が必要。

・車利用の場合、万字越林道終点駐車可(三丁四台)

・バス利用の場合、JRマキノ駅発圏境行き8・43 10・28乗車(JRに連絡)し、小荒路下車。

△問い合わせ先

湖国バス

0749(22) 1210

特選コースガイド⑤

鈴鹿

一繞・近江側から登る鈴鹿の山々⑤

藤切谷から

ダイジヨウ・銚子・イブネへ

健脚コース(★★★)

磯部 純

岩野さんの例会「鈴鹿を歩く」シリーズに初めて参加申し込みをしたのは、平成10年5月の例会「ダイジヨウ・銚子・イブネ」だ。このときの例会は雨で流れてしまったので、初めて岩野さんの例会へ参加したのはその後の「サクラグチ」からだ。それ以来、鈴鹿の魅力に取りつかれてしまった。

それから2年後、雨で流れた例会と同じルートを歩く計画があったので、ぜひにと思い参加した。鈴鹿に注目するようになったきっかけのルートなので、ひとしお感慨深いものがあった。今回は平成12年5月以来、例会で歩かれていない岩野さんならではの、めったに人が入らな

い山城を歩くこのルートを紹介する。歩く時期は4月から6月の頃がよい。

甲津畑西から甲津畑の迂回路を通り東へ抜ける。藤切谷旧林道入口へ車を置き、旧林道を上流へと歩くと、うねうねと続く道はいやになるほど長い。40分も歩くと、右手に桜地蔵尊の祠が立っている。何のご利益があるのか、今でも参詣する人が絶えない。桜地蔵を過ぎると右岸へ渡る橋がある。谷を渡ってすぐ千草越の古道と分かれ、左に曲がって杉林のなかへ入る。ここがアケビダンへの入口である。袖道を北へ登って行くとやがて谷に出る。ここは標高約650mの地点。平坦な林道歩きといっても1時間も歩けば息もはずむ。このあたりで涼をとりながら休憩するのは最高だ。

ひと息入れ、谷を渡って左岸を登って行く。比較的広い谷は杉林から雑木の林に変わり、足下にはフモトスミレ・チゴユリ等が咲いている。左に谷を見て、右奥に谷分岐を見た地点から中央の尾根に取りつく。この尾根を突き上げれば標高点911mに登り着く。やぶはほとんどない尾根だが、急なところだけが嫌味。それでも京都や湖北の尾根に比べれば、や

向山麓山付近のミズナラの古木



ぶはましなのかも知れない。登っている目の前に名を知らない花を見るが、それをゆっくりに鑑賞する余裕もなく、ひたすら登りに専念しなければならぬ尾根である。

斜面の上方に空が見えるあたりから、右斜面をトラバース気味に登って行く。シロモジの混じった美しい雑木の疎林斜面である。その斜面を登り切った所が標



イブネ山頂から鎌ヶ岳・御在所岳を見る

原の高原とも見えるクラシ・イブネの姿がゆるい傾斜をなして横たわっている。
ここからは、クラシを通る縦走路を歩かず、佐目小谷源流を歩いてイブネへ向かう岩野さん独特のルートに行く。銚子から尾根を南へ少し戻り、左の谷へくだる。谷源流付近にはササが茂り、せせらぎさえ流れていて、とても10000呎を超える高地だとは思えない。

このあたり一帯は「熊ノ戸平」と呼ばれている。その名の語源は「昔に熊が棲んでいたから」とも、「クマは限の意味で谷の奥まった地であるから」とも言われているが、どれが正しいかは定かでない。いくつもの谷の源流を渡り返し右手へ向かい、ゆるい尾根を左へ登るとイブネへ着く。
イブネは高原を思わす広いササにおおわれた台地で、どこが山頂かわからない平坦なピークである。南方が開けていて、目の前には雨乞岳が立ちほだかり、その左に鋭峰鎌ヶ岳や国見岳の顔を覗き見することができ、ここへ来るまで展望はなく、その山々を眺めて、初めて高い所まで登ってきたという実感がわいてくる。そこから南西へ尾根をくだって佐目峠へくだる。イブネまでは来る人が多いのか、踏み跡もしっかりついていた。鞍部へくだれば佐目峠。この峠の目的ははっきりしていないが、佐目の鉢山関係の人たちに利用されていたようで、佐目からこの峠を乗り越して神崎川上流や杉峠へ出たことには間違いないだろう。峠からゆるい斜面を西へ向かえばアゲンギョの美しい林がある。ここから南へ向かうと、

あつて、人の歩いた痕跡は全くない。谷右岸を登って行くと斜面に白い花が見えてくる。ヤマシヤクヤクの群生だ。その花に混じってトリカブトの若葉も一面にトリカブトの花を見たい人は秋に来ればよいが、このアップダウンを考えると、どこでもあるトリカブトの花を見に、わざわざここまで来る気にはなれないだろう。平坦な斜面の中央には、花に囲まれてトチの太木がそびえ立っていた。このあたりは、鈴鹿に詳しい人たちの間ではダイラと呼んでいるというが、昔の鉢山関係の人が小屋を建てていたのだろうか、こんな所に石垣が残っている。
斜面をクチクマ谷へ廻り込み、左手の急斜面へ取りつく。見上げるような急勾配で、登って行く間は、落石に気をつけなくていい。下には続く人に当たらないとも限らない。やっと平坦な細尾根まで登ると、そこはシヤクナゲの林。見上げる尾根のすぐ向こうが銚子の頂上だ。南を見ると、東雨乞岳・雨乞岳がシヤクナゲの花の向こうにそびえ立っている。
その尾根を登り切ると銚子山頂。山頂は広い草原状の広場で、目の前にはササ

(平成12年5月21日歩く)

△コースタイム▽

藤切谷旧林道入口 (45分) 橋 (1時間10分) 標高9111呎東鞍部 (35分) ダイジョウ (1時間) 佐目小谷 (1時間) 銚子 (25分) イブネ (25分) アゲンギョ (20分) 杉峠 (2時間) 藤切谷旧林道入口

△地形図▽

2万5千11日野東部・御在所山



ダイジョウ・銚子・イブネ付近略図

つがレ場である。慎重に縁を歩いて越えて先へ進み、やっと尾根も広くなるといろいろな花が目につく。フモトスミレ・ツクバネソウや、上を見るとシヤクナゲも咲いている。尾根を登って行くと、大岩が目の前に立ちほだかり、その左を捲いて岩の多い斜面を横切って尾根に登ると、ダイジョウ山頂まではもうひと息。山頂では赤やピンクのシヤクナゲの花が歓迎してくれる。
アゲンギョ(杉峠の頭一帯)へ向かう東の尾根をくだり、最初のピークから北東にのびる細い尾根を佐目小谷へとくだる。ロクシ谷とロトビ谷の中間尾根である。地形図で見ると広い尾根であまり急勾配だとは読めないが、いざくだって行くと予想外に狭く急斜面の続く尾根である。くだり始めにはシヤクナゲの歓迎を受け、尾根途中では思いがけず遅咲きの桜の花も目にできた。

佐目小谷へくだり、右岸へ渡ると疎林の広い谷。人がほとんど入っていない谷だというだけ

高9111呎の東の鞍部。細い尾根で、北には佐目小谷を挟んで、フナコボあたりの連なりが木の間に見えている。この鞍部から急な尾根を東へ登る。ここに来て初めてイワカガミを見るが、花に見とれている余裕はない。細い尾根の左にガレ場が現れる。滑り落ちると、どこまで落ちてしまうかわからないような切り立

つがレ場である。慎重に縁を歩いて越えて先へ進み、やっと尾根も広くなるといろいろな花が目につく。フモトスミレ・ツクバネソウや、上を見るとシヤクナゲも咲いている。尾根を登って行くと、大岩が目の前に立ちほだかり、その左を捲いて岩の多い斜面を横切って尾根に登ると、ダイジョウ山頂まではもうひと息。山頂では赤やピンクのシヤクナゲの花が歓迎してくれる。

あつて、人の歩いた痕跡は全くない。谷右岸を登って行くと斜面に白い花が見えてくる。ヤマシヤクヤクの群生だ。その花に混じってトリカブトの若葉も一面にトリカブトの花を見たい人は秋に来ればよいが、このアップダウンを考えると、どこでもあるトリカブトの花を見に、わざわざここまで来る気にはなれないだろう。平坦な斜面の中央には、花に囲まれてトチの太木がそびえ立っていた。このあたりは、鈴鹿に詳しい人たちの間ではダイラと呼んでいるというが、昔の鉢山関係の人が小屋を建てていたのだろうか、こんな所に石垣が残っている。

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄・京阪ジョイントハイク
「京田辺・普賢寺からくろん池と池私市」 3月2日(雨)雨天中止
▽集合 近鉄観音駅前9時30分、10時(コース) 興戸駅・清見神社・観音寺(普賢寺)・朱神神社・くろん池・月輪の池・上阪私市駅(約15分)参加自由、無料、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
▽南河内観光キャンベーン「巡礼・大坂街道から梅林の道明寺天満宮を歩く」 3月2日(雨)小雨決行
▽集合 富田林駅南出口改札前9時30分、10時30分(コース) 富田林駅・富田林寺内町(受付)・富田林久留御魂神社・清見天満宮・仲喜天皇陵・辛国神社・葛井寺・志神天皇陵・古釜山古墳・道明寺・道明寺天満宮・道明寺(約14分)参加自由・無料(拝観料等は別途、南河内観光キャンベーン協議会事務局07221(53) 11111
▽近鉄万歩ハイキング「天理南都周辺の史跡」 3月9日(雨)雨天決行 集合 桜井駅前9時20分(コース) 桜井駅(バス)上長岡・黒塚古墳・黒塚子母屋展示館・葛原天皇陵

阪急

▽奈良天皇陵・トレイルセンター・長丘寺・中山大塚古墳・西山塚古墳・波多子塚古墳・天理観光公園・西山古墳・天理参考館・天理駅(約12分)参加自由・無料(バス代、拝観料等は別途) 講師 天理市生涯学習課文化財係青木勘時氏、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
▽近鉄万歩ハイキング「上板原から広穂梅の里」 3月15日(雨)雨天中止(集合) 下市口駅前9時40分、10時10分(コース) 下市口駅(バス)上板原・波比売神社・上板原・梅の木峠・梨十堂・八幡神社・天守の森・広穂峰・広穂梅林・下市温泉・明水館(秋野川)・千ヶ瀬・下市口駅(約16分)参加自由・無料(バス代は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
▽読売ふれあいハイキング「春本番 柳生街道(滝坂の道)」 3月21日(雨)雨天中止(集合) 奈良駅東改札前9時30分、10時(コース) 奈良駅(バス)双峰山(円成寺)・峠の茶屋(滝坂の道)・新薬師寺・春日大社・奈良駅(約12分)参加自由・無料(バス代、拝観料等は別途)、営業推進本部

神戶電鉄

▽神鉄ハイキング「東ノ峰ミステリーハイク」 3月2日(雨)雨天中止(集合) 箕谷駅10時15分(コース) 箕谷駅・大滝口・柏尾谷・殿ノ手池・天下辻・大滝駅(約10分)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
▽駅長ハイク「北神戸田園スポーツ公園ハイク」 3月15日(雨)天

京阪

中止(集合) 神鉄道場駅10時05分(コース) 道場駅・大橋・昭和橋・北神戸田園スポーツ公園(1) 二郎駅・田尻寺駅(約7分)家族同参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
▽木曜ハイク「丹生山縦走部分ハイク(後半)」 3月20日(雨)雨天中止(集合) 箕谷駅10時10分(コース) 箕谷駅・時曲り・花折山・屏風谷(集合) 関出駅(約15分)健康回参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
▽神鉄ハイキング「千苺水源地・大若岳ハイク」 3月21日(雨)雨天中止(集合) 神鉄道場駅9時40分(コース) 道場駅・生野橋・太福寺・千苺水源地・大若岳・JR道場駅(約12分)一般回参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321
▽神鉄ハイキング「丹生山系縦走27*ハイク」 4月6日(雨)雨天中止(4月13日(雨)順延) (集合) 藍那駅8時30分、9時30分(コース) 藍那駅・藍那平道・神戸市バス丹生神社前・丹生神社(丹生山)・落釈山・推岩山・花折山(腰越)・金剛山(腰越)・黒甲

南海

東道・大蔵山(腰越) 八多・藤原台・関出駅(約27分)超健康回*ガイドなし)参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321
▽木曜ハイク「天下辻・柏尾谷ハイク」 4月10日(雨)雨天中止(集合) 大滝駅10時(コース) 大滝駅・天下辻・柏尾谷(箕谷駅(約10分)一般回参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
▽神鉄ハイキング「小野アルプス縦走ハイク」 4月20日(雨)雨天中止(集合) 粟生駅9時20分(コース) 粟生駅・鴨取道・宮山・岩山・紅山・小野富士・藤山・助峰・安場山・大住橋・小野駅(約15分)健康回参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321
▽木曜ハイク「百文若ハイク」 4月24日(雨)雨天中止(集合) 田尾寺駅10時(コース) 田尾寺駅・百文宮・三田本町駅(約10分)一般回参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
▽駅長ハイク「逢山坂・有馬ハイク」 4月27日(雨)雨天中止(集合)

山陽電車

有馬口駅10時05分(コース) 有馬口駅・逢山坂・茶園谷・湯澤谷・紅葉谷道・有馬温泉駅(約8分)健康回参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
▽山陽ハイキング「観音山観梅を楽しむハイク」 3月9日(雨)雨天中止(16日(雨)順延) (集合) 山陽千早下車(西約0.3) 掛保川河川敷右岸 10時(コース) 掛保川河川敷右岸・龍門寺・高嶋神社・新舞子・観音山梅林・藤井の清水・大覚寺・観音寺(約12分)家族同参加自由・無料、須磨浦道園ハイキング係078(73) 2520
▽山陽ハイキング「日笠山縦走ハイク」 3月23日(雨)雨天中止(集合) 山陽曾根駅下車(曾根天満宮松林公園) 10時(コース) 曾根天満宮・松林川右岸・天川東公園・生谷展望台・馬坂峠・日笠山・大滝駅(約8分)一般回参加自由・無料、須磨浦道園ハイキング係078(73) 2520
▽山陽ハイキング「淡路島公園・鳥ノ山ハイク」 4月13日(雨)天

京福

中止(20日(雨)順延) (集合) 山陽明石駅下車(岩屋ポルトビル前広場) 10時(コース) 岩屋ポルトビル・石屋神社・ハイウェイオアシス・淡路島公園交流センター・鳥ノ山・岩屋ポルトビル・山陽明石駅(約10分)家族同参加自由・無料、須磨浦道園ハイキング係078(73) 2520
▽山陽ハイキング「桂尾山・横尾道を歩くハイク」 4月27日(雨)雨天中止(集合) 東須磨駅下車(妙法寺川公園) 10時(コース) 妙法寺川公園・勝福寺・桂尾山・横谷公園・横尾道・おらが山・旗塚山・鉢伏山・須磨浦公園駅(約9分)一般回参加自由・無料、須磨浦道園ハイキング係078(73) 2520

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

あせらび

題字・小林玻璃三

11月17日、三重の三子山へ。いつものように喘ぎながら登っている。「南峰や！ 南峰や！」の先頭の声。三子山とは三峰が見事に並んでいるから、その名前が付いたらしい。(エッそんな知らなかった。山は「コでエエネン」。内心そう思ったが、先頭はもうすでに折り返して来て、次の中峰を目指して歩き始めている。

息を整える間もなく後をついて行く。急な下りを枝をつかみながらおると前方に紅葉山が立ちはだかっていた。急なアップダウンを繰り返して檜林のなかを過ぎるとヤブ漕ぎあり雑木林があり、やっと北峰にたどり着いた。

リーダーさん曰く、これだけではもの足りんやらから(充分足りてる)、引き返すより四方草山へ縦走しよう。ピークが五つあるだけや。(エッ!) 三コ十五コは……

もう勘定もできないほど、頭はパニック。とにかく残りのほうが多いことは何となくわかった。

心の準備もできていないまま先頭は出発した。前の人のザックだけを覗み、道い登りまたすべりおろるを繰り返す。キレットではロープにつかまり、岩を抱えてと鬼の形相で後三つ、後二つと残りのピークの数だけが頭の中で駆け巡っていた。紅葉も黄葉もゆっくりに眺めるゆとり

もなかったが、時折振り返って見る雑木山はやはり美しくかった。やっぱり安楽越の林道に出たもののバス停まではかなりの距離があり、電車の時刻も気になるので皆が一瞬思案にくれているとき、運よく通りかかった軽トラのおじさんが荷台に乗せてくださった。総勢12人と12個のザックはギューキュー詰めのでんこ盛りで、その様子はさながら旅芸人の一座のようだ。

11月末、滋賀県北部の山々に

登り、晩秋の低山歩きのよさを満喫した。厚く堆積した落ち葉をサクサクと踏みながらのウォーク。樹間を透かして夏場には見られない展望など、この季節ならではの醍醐味を味わった。

コースは、JR余呉駅から「余呉湖・賤ヶ岳山本歩道」を歩いて大岩山・賤ヶ岳へ登り、下山した余呉湖南岸からは西岸を廻って余呉駅へ戻った。

大岩山には天正十一年(1583)の賤ヶ岳合戦で壮烈な戦死をとげた中川清秀の墓がある。それに詣でた後、賤ヶ岳で合戦図を見ながら当時を想んだ。

そして賤ヶ岳山頂(422.2m)からの展望。北方には余呉湖のななな横山岳や七頭ヶ岳が眺められ、西南に目を転ずれば奥琵琶湖が開けていて、琵琶湖八景の一つ「賤ヶ岳の大観」を実感する。

竹生島の左には前日に登った山本山も顔を覗かせているし、さらに左には鈴鹿の山々も遠望できる。東南には「賤ヶ岳七本槍古戦場」の木柱のかたな冠雪した伊吹山が眺められ、十分満足させられたのであった。

また、余呉湖西岸では、目玉

石を見て「菊石絶物語」を、衣掛松の下では「天女の羽衣」伝説に魅せられたりした。何しろ羽衣伝説としては三保松原よりこちらのほうが元祖と言われているし、生まれた子は菅原道真であって、少し離れた所の青山寺で育ったと伝えられているのである。

伝説といえば、前山の山本山には「天孫御降臨御聖城」碑があり、そこには「近江高天原」の伝説が存在することも知ったのだった。

ともあれ古戦場の昔を偲び、晩秋ならではの展望に恵まれ、湖畔の神秘的な伝説に感銘を受けた。ながらの、素敵な山歩きが体験できた。(枚方市 東谷 宏)

60分峰だろ。

12月には袋尻の加茂神社から傳藏山城跡(129m)に登った。ここまでは整備された道であったが、ここから北山の三角点(201m)まではやぶ漕ぎ。ここからは御津山脈の縦走路が権現山(140m)を経て中島まで続いている。いったん車道を歩き、栄町から水道の配水場から雑山(御津の小富士・92m)に登る。頂上には露岩がある。西へ送電の巡視路を歩き万灯山の三角点を越し、西側の車道へと降り立つ。どちらも低山ながらも出会う人もなく、良い山を味わえた。(大東市 阪上義次)

前夜、北陸地方の降水確率が高かったので急ぎよ、鈴鹿の鬼ヶ牙・臼杵山に先行を変えた。このコースは昨年歩いて長坂頭でテーパーを見失い、鬼ヶ牙を一周して尻尾を巻いて帰ってきたのだ。テーパーを探すのと臼杵山に行くのとがこの一年間、心にずっと重い宿題となっていた。

今回は前回の下山口の船石林道駐車場から取りつく。コシダ

○新ハイランドサービスチェーン

<p>名峰・二岐温泉 小島山 大島山 甲子山 乙子山 丙子山 丁子山 戊子山 己子山 庚子山 辛子山 壬子山 癸子山 甲子山 乙子山 丙子山 丁子山 戊子山 己子山 庚子山 辛子山 壬子山 癸子山</p> <p>福島・二岐温泉 日観連 大和館</p> <p>〒56210621 福島県福島市天栄村二岐温泉 0248184122051 F 0248184122051</p> <p>富士登山・富士五湖 東海酒店自然歩道 (石巻山・ハリモミ峠) 三河山の麓</p> <p>〒40110502 山梨県南都留郡山中湖村平野 055518515</p> <p>大宮駅西口から徒歩10分 大宮駅西口から徒歩10分 大宮駅西口から徒歩10分</p> <p>山小屋 福ちゃん荘</p> <p>〒40410022 山梨県山梨市上原町332 山(自宅) 05533133146339 (山小屋) 03030141792215</p> <p>尾瀬 平ヶ岳登山と釣りの山小屋 尾瀬三山只員登山公園内</p> <p>清四郎山小屋</p> <p>ほんもの手打そばと売店は 樹海</p> <p>〒91610000 新潟県北魚沼郡湯沢町各村(奥の湯) 025581558 025581558 025581558</p>	<p>ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ</p> <p>百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュッテ</p> <p>〒94912100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉 025518612261</p> <p>休養食入浴も歓迎 10名以上マイクバスで送迎</p> <p>箱根仙石原温泉 福 島 館</p> <p>〒250106931 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 04601419041</p> <p>四季織りなす乗鞍高原のハイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りと味の宿・日観連 温泉旅館 けやき山荘</p> <p>〒39011500 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 0263193122655</p> <p>さわやか信州 露天風呂 山吹の湯 湯田中温泉 (穂波) 日野 屋 旅館</p> <p>〒3810400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉 026913313578</p>
---	---

や瀧木の間をぬって尾根にのると岩場とアカマツが出てくる。ピークを右に捲いて倒木と第二峰の分岐に着いて今、右に捲いたのが、488峰、鬼ヶ牙第三峰とわかった。ロープを頼りに第二峰(北峰)に登ると展望よく、野登山・仙ヶ岳や第一峰(南峰)の八面岩や第三峰のゆるゆるのオッパイ岩がよくわかったが、東峰はわからない。現在「鬼ヶ牙」はこのあたりの岩峰の総称で、飯に第何峰とか北峰南峰と使われているように思われる。

・488峰オッパイ岩に戻る。「こ利益があるかも」と言うメンバーの言葉に思わず反応し、乳頭をうやうやしく愛でておく。・488峰では本日の尾根通しのコースがよく見え、しっかり頭にたたみ込んでおく。今回はきっちりテープに従って尾根を突き上げV字の溝を登る。急で滑りやすく登りづらいが、木の枝で体を確保しながら20分位でクランとした所に出る。

長坂頭到着、御所平方面がきれいに見える。真西に降りた所からチープ発見!の音がする。

小ピークを3〜4つ行く。・756峰で食事の後、県境尾根を南に進むと・630峰曰白杵山だ。

展望の良い所で、きょうの低山ながら激しいアップダウンの尾根を見ながら最後の休憩をし、急坂をくだればドンピシャ駐車場に出る。

ドロロンコになった顔と手足を安楽川の清流で洗い清め、疲れを癒した。達成感と宿題からの解放感に浸り、心の中で一人喝采を叫びながら帰路についた。(向日市 湯浅康夫)

行く秋を惜しみて詠める
通かなるツツロの坂を越え行けば
燃え立つ紅葉最少なし
喧嘩の鞍掛越えて来てみれば
湖東の山は静かに立てり
行く秋に別れを告げる百舌の声
人影寂し保月の里
小春日と思えど深まる山の冬の
社の陰に雪ぞ残れる
陽だまりの茅戸の下の竜騎菊
葉にも花にも紅差しにけり
金蛇の眼りを覚ます足四本
ただ四本のみ坂を過ぎ行く
見上げれば蒼天の中たわわなる

赤き真弓の何時まで在るか
鍋尻の鍋の上なるカルストに
秋風吹いて尾花騒がす
苦むした白石 梢愛でながら
握り飯食む至福のひと時
もう行けじと雪の閉せる山語り
見知らぬ人と別れた山上
(松阪市 藪木伸人)

山行短歌
10月24日 紀北生石ヶ峰
銀色金色ススキ波立つ彼方より
還郷越えて亡父帰来よ
10月28日 大峰笠槍山
富士が見える時は本当だろうか
トンネル際を登れば黄葉舞う

11月3日 甲斐茅ヶ岳
百一座目の山に悲しき石碑立つ
山男よ眠れ山に抱かれて
11月3日 甲斐金ヶ岳
彼女との牽轡はさらに深まるや
真向うオベリスク雲に消ゆ
11月7日 飛鳥多武峰
多武峰よ燈台のようにゆらめき
燃える樹々まるで光の岬
11月12日 紀泉一徳防山
いつか滅び去る樹林のかがやき
砂浜の民のわが旅なのかも
11月18日 室生住塚山
荒々しき屏風岩を渡り行く風の

狙撃者かも知れぬ気をつけろ
11月26日 室生学能堂山
草原にわが身探ることあきらめ
雨に暮れゆく街の灯に帰る
11月29日 若狭百里ヶ岳
鯖街道はるけき時空越え来たる
雪の旅びと静止画となりぬ
12月5日 紀泉岩湯山
やがて宙は星座会議を開くころ
われらが山へ別れメール打つ
12月12日 河内ほしだ園地
長に串いられ星のブランコ渡る
未来あかるし二〇〇二年冬
12月15日 奥三河明神山
惜しみなく憧憬そそぐ馬の背の
岩尾根は凍り空中へ架かる
(吹田市 木村太郎)

今年は兵庫県の北部、但馬山地へ出かける機会に恵まれ、多くの人と出会うことができた。地元の行政機関では貴重なお話を伺い、山麓では古老の体験談に耳を傾けた。われわれ、瀬戸内に生活する者とのギャップの大きいのに気づき、教えられること大であったと思っている。その中の一つ、自然(山野)に対する造いの大きいこと。自然環境の厳しい但馬と瀬戸内の

温暖な気候との決定的な違いが歴史のなかで培われ、そうさせたのであろう。家から一歩出たすぐ先の田畑と山の風景で、気候の変化を敏感に感じとり、四季折々の行事をこなしておられる姿は優雅にさえ見える。

振り返れば、戦前までは瀬戸内でもこんな風景が見られた。都市化のため生活スタイルが変わり、サラリーマン化が進んだので忘れられ、消えていったのである。消えた自然や田舎を懐かしみ、健康のために郊外へ出かける人で休日の駅前は朝早くから混雑し、山地も場所によっては都会並に混雑する。

今後このスタイルは廃れることはない。溢れるほどある但馬の自然を、都市部の人たちに提供する手だてはないものかと思う最近である。

(姫路市 須藤 耕)

山行短歌
11月10日 御池岳・奥の平
白い尾根雪にもみじが散り染めて
一期一会か落着き酔って
樹木吹き奥の平の初雪も
龍はもみじ小春日和が

御池岳雪ともみじとブナの森
夢幻の秋に心ときめき
11月19日 小太郎谷
静寂のもみじの谷に鹿の笛
ガラガラザラとV字のガレを
11月24日 鏡ヶ口・黒尾山
あこがれの秘境の樹林山の旅
晩秋の尾根落ち葉踏みしめ
澄み渡る冬枯れの尾根心地よく
鹿・カモシカ道の頼りに
長大な秘境の旅も庭戸山
紅葉の谷石樽峠
12月8日 三池岳
笹の尾根淡雪と霧吹き上げて
霧水の花の夢幻のなかを
冬枯れ樹海淡雪舞って
三池岳地肌頭霧水映き
八風谷焚火囲んでいも焼いて
ビールとコーヒー笑顔笑顔で
12月22日 水木野・不老堂
水木野と不老堂を攻め忘年会
友はここに焚火囲んで
パチパチと燃える炎を取り囲み
飲み食い笑い踊り歌って
(近江八幡市 若野 明)

平成14年4月20日に、明星ヶ岳に登ってきた。この山の登山道が、山と高原地図(御在所・鏡ヶ岳)に記入されて知られる

標高2000m 雲上の温泉
湯の丸高嶺自然休養林
ハイキングにXCスキー
高 峰 温 泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
02667-2512000

ハイキングにノースキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線平床下車
電 02699-3412421
東京本社・東京都新宿区新宿3
12015 (新光第2ビル)
03-3341-0211
電 03-3341-0211

甲斐高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全通して送迎します
スノーシュー&歩くスキー開催
大人たちのペンション
白馬・ヴィヴアルディ
〒399-0930
長野県北安曇郡白馬村長湯温泉
電話 02661-7217255
FAX 02661-7217255
E-mail: info@vivardai.com

塩の道 千園街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬プランシエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0266-172-4452

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館個室
木の香匂う新館温泉水湯宮
オーレン小屋
一泊2食付き 16000円
〒391-0213
4月11日月末開設
長野市豊平2720 小車専用
電 0266-7211279

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
J索道野駅、北八ヶ岳登山口まで
送迎します
豊科高原
プチホテル カナール
〒391-0301
長野市北山豊科高原世丸草55
13の1
電 0266-6712258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高梨山・黒坂山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水温泉
電 0266-2542081

日本唯一の女人禁制の山「大
峰山」(百名山)の登山口
橋本ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋 甚八
一泊2食付き 7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡天川村河川
電 07476-410309

ようになったのは、1994年版からである。山名の由来は弘法大師が修行中、明星が瑞光を放ち飛んだことによると伝えられている。

筆者が参考にしたガイドは『名古屋周辺 山旅徹底ガイド 台高/鈴鹿/奥美濃』（中日新聞本社、1995年）と西内正弘『鈴鹿の山ハイキング』（2000年、問合せ059-245-3730）であったが、先に古書店から入手していた、福井正身『津周辺の山』（伊勢山岳会、1991年、絶版）を調べてみたら、この本にも紹介されていることを後になって知った。さらに、『名古屋からの100山』（名古屋歩く会、昭和63年）にも明星ヶ岳の紹介が載っていた。

JR星田駅から木津駅経由で亀山駅に着き、タクシードで簡易舗装の狭い道に入って、ひやひやしながら上白木側の駐車場に着いた。広い地道を上ると、明星山園分寺に到着した。しかし、バスを利用するのでもなければ、亀山駅ではなく、関駅からのほうが便利であることに後に

なってきた気がついた。白木一色側の駐車場は広いので、利用するには便利である。

鐘樓の左のジグザグに上がる登山道が頂上へ続く尾根道への取りつきである。途中には近年の台風による倒木が目立ち、通り抜けにくい所もある。ピークから左へいったんくだって、次に大変な急坂となる。ひたすら登り一方であり、こんな道の下りは帰りに使いたくないなあと思いつつ進むと、道はゆるやかになってきた。展望のあまりない明星ヶ岳の東峰（549・43三角点）に着いた。尾根道に沿う樹林の新緑が美しい。それに誘い込まれるようにたどると西峰（560）に到着した。

パノラマ展望が開けるはずの頂上では、ガスのため、周辺の山々は全く見えないのが残念であったが、満開のツツジが出迎えてくれたので、満ち足りた気分であった。

西峰から戻り、東峰との鞍部にある分岐を右にとると、谷むように道は続き、やがて、谷沿いの作業道となって、道なり

にくだると簡易舗装の道に出る。途中で、市場区と記した標識があって、左に導いているが、無視してまっすぐにくだるとよい。理由はわからないが、コースガイドでこの谷道を紹介したものが見当たらない。

簡易舗装となつて、左手に園分寺への坂道が北に続く地点に出る。南へくだると駐車場がある。そのまま進んでT字路で右、左、右と順にとつて、後はまっすぐに南下すると関駅に着いた。

（寝屋川市 柴田昭彦）

11月は美濃の高丸を予定していたが、下見の結果中止とし、三周ヶ岳にを変更した。しかし当日、思いのほか早い雪で三周ヶ岳へも入れなかつた。代りに1等三角点「タンポ」へ入ったが、花房山の雪と青空、白倉谷の紅葉がとても美しかった。

三周ヶ岳へは7月に、高丸も予定を変更して往復コースとし、10月にでも再行したい。昨年9月の例会から集合時間を1時間早めて歩いている。

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県鹿嶋市屋久町安房
電話 0997-416-3021

御在所登山に
愛知川溪谷沢歩きに
山好き仲間が集う宿
朝明溪谷 朝明茶屋
山小屋
〒510-1251
三重県三重郡菟野町千草
電話 0593-931-1789

那岐山山麓の奇岩・巨岩の大山
二百名山の水ノ山・上野山などあり。
三百名山 那岐山のふもと
岡山県 那岐山荘
〒708-1307
岡山県岡田郡赤松町高円
電話 08668-1361-4154

屋まで余裕があり、ゆったりと歩いているが、遠方からの参加は無理となり、参加者は2分の1に減ってしまった。中級から一般向けの山行も増やしていきたいと考えている。
（南濃町 山田明男）

山行計画

(3・4月)

※ハイキングクラブ専用

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加費・代りなどの他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はご連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は係まで）

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書	
山行名 (正確に記入すること)	
期日	
住所 〒	
氏名	
会員番号	(会員でない方は会員外と記入)
電話番号	
生年月日	
緊急時の連絡先 TEL	(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

近畿百名山に登る(第51回)

北摂・剣尾山(一般向き)

期日 3月2日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バスのりば8時00分

コース 京都駅(バス)行者口一

跡一剣尾山一構尾山一鉄

塔一能勢の里・かんぼの

湯(入浴後・バス)京都

駅(解散17時30分頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千11号見山・増生

申込み 村田智俊 ○奥比呂美

〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで

不動明王の降魔の剣が降ってきた

たという名の剣尾山。露岩の山頂

からは360度の展望が期待でき

ます。小雨決行

台高・三峰山(一般向き)

期日 3月2日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下6時

25分/②近鉄榛原駅9時

10分

コース 榛原駅(バス)奥寺陀青

少年路行村一林道終点一

新道峠一三歌峠一八丁車

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

(初心者同) やさしいコース
(初級同) やさめたでも歩けます
(一般同) ハイキングの標準コース
(中級同) かなり経験者のコース
(やや健脚同) ・(健脚同) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

①三峰山―三峯峠―造林
小屋―不動滝―神末川出
合―奥宇陀青少年旅行村
(バス) 橋原駅(解散)
費用 約6400円(名古屋か
ら)

地図 昭文社『赤目・俱利伽羅
高原』
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千川原河
係 ◎木村太郎 ◎中村友昭

新ハイキング関西まで
富士山をつくとって登る湖
の土をモッコに入れて歩いたとい
う、巨人伝説から名前のついた草
原の山です。雨天中止
六甲・打越山から西のお多福山
(一般向き)
期日 3月16日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分/②JR摂津
本山駅北出口9時35分
コース 摂津本山駅―岡本八幡神
社―八幡谷―打越山―打
越峠―住吉河原―西のお多
福山―橋原茶屋―紅葉谷
―神鉄有馬温泉駅(解散
16時頃)
費用 約2800円(青春18き
つ使用・名古屋から)
地図 昭文社『六甲・摩訶
有馬』
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新緑が美しいといわれる西のお多
福山から紅葉谷を歩きます。
雨天中止

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員23名(会員に限る)
雨天で流れた矢筈岳への再山行。
登山口まで林道歩きが長い。帰路
中津温泉に立ち寄る。雨天中止
自然観察山行112
スノーハイク
美濃・小島山(中級向き)
期日 3月8日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス) 櫻村―小
島山―櫻村(バス) 大垣
駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅か
らバス・資料代等)
地図 2万5千池野
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで
清見平野を眺望し、スノーハイ
クとアニマルウォッキングを楽し
みます。小雨(雪) 決行

三重の山66
尾鷲九鬼・頂山(一般向き)
期日 3月8日(日) 日帰り

播州西郡・植松山(一般向き)
期日 3月16日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅西口7時40
分
コース 西明石駅(バス) 植松山
登山口―小河内の滝―植
松山―植松山登山口(バ
ス) 西明石駅(解散18時
頃)
費用 約4500円(西明石駅
からバス代等)
地図 2万5千西河内・千種
係 ◎古賀慶二 ◎岡田昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山の上684
の33-17A403
古賀慶二まで
*定員24名
残雪(積雪70cm程度)の植松山
を目指します。サンクラス・アイ
ゼン必須。雨天中止
平日ふれあいハイク37
北山・天ヶ森(一般向き)
期日 3月18日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄国際会館駅京
都バスのりば8時10分
コース 国際会館駅(バス) 小出
石―三谷口―P812―三谷
屋根―P812―三谷

集合 ①滝原駐車場(国道42
号線沿い) 8時00分/②
海山町(道の駅海山) 9
時20分
コース 道の駅海山(車) 尾鷲
(車) 八鬼山トンネル
(車) 九鬼山―頂山―九
鬼駅(車) 八鬼山トンネ
ル(車) 尾鷲(車) 道の
駅海山(解散16時頃)
費用 1500円(交通費各自)
地図 2万5千尾鷲・九鬼
係 ◎尾崎英五 ◎稲垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
*マイカー山行
熊野灘に面した九鬼の里山です。
雨天決行

鈴鹿を歩く163
残雪の雨乞岳(健脚向き)
期日 3月9日(日) 日帰り
集合 大河原「かもしか荘」広
場8時30分
コース かもしか荘(車) 清水平
谷広場―清水の頭―南南
乞岳―雨乞岳―南尾根―
シャクナゲ尾根―林道広

峠―天ヶ森―小出石(バ
ス) 国際会館駅(解散17
時12分)
費用 約1400円(京都から)
地図 昭文社『京都北山1』
係 ◎寺井恒夫 ◎川上久登
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
三谷の東側尾根から三谷峠
を過って天ヶ森へ。所どころ東側
の展望があります。雨天中止
自然観察山行113
スノーシューイング
中徳・八子ヶ峰と車山
(中級向き)
期日 3月20日(日) 22日(日)
前夜発泊2日
集合 (20日) JR岐阜駅23時
00分
コース (20日) 岐阜駅(バス)
(21日) (バス) 白樺湖
(バス) 女神茶屋―八子
ヶ峰―ロイヤルスキー場
―白樺湖ベンション(日)
(22日) ベンション(バ
ス) 車山スキー場―車山
―車山肩―霧ヶ峰(バス)
岐阜駅(解散) *帰路に

場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・鎌ヶ
岳』
係 ◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の雨乞岳山行で
す(62号78ページ参照)
小雨(雪) 決行
静岡・ダイヤボウ(初級向き)
期日 3月9日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口
7時10分
コース 名古屋駅(電車) 焼津駅
(バス) 玉取―折峠―
ダイヤボウ―富原車庫―
薬科学校前(バス) 静岡
駅(電車) 名古屋駅(解
散18時08分)
費用 約3600円(青春18き
つ使用・名古屋から)
地図 2万5千静岡西部・牛
妻
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

浴食予定
費用 約29000円(岐阜駅
からバス・宿泊・レンタ
ル代等)
地図 昭文社『英ヶ原・霧ヶ
峰』
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで
*定員22名(2月24日ま
で)
雪積の八ヶ岳を歩きスノーシュー
を使用してハイキング。1日目は
八子ヶ峰へ。2日目は車山。スノー
シューはレンタルでだけでも使え
ます。個人で持参する場合は葉書
に明記のこと。雨天決行

鈴鹿百山40
高室山・鍋尻山(中級向き)
期日 3月23日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(車) 杉林道分
岐―高室山―尾根―地蔵
峠―鍋尻山―地蔵峠―林
道分岐(車) 彦根駅(解
散)
費用 交通費各自(車代100
0円)

新ハイキング関西まで
富士山をつくとって登る湖
の土をモッコに入れて歩いたとい
う、巨人伝説から名前のついた草
原の山です。雨天中止
六甲・打越山から西のお多福山
(一般向き)
期日 3月16日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分/②JR摂津
本山駅北出口9時35分
コース 摂津本山駅―岡本八幡神
社―八幡谷―打越山―打
越峠―住吉河原―西のお多
福山―橋原茶屋―紅葉谷
―神鉄有馬温泉駅(解散
16時頃)
費用 約2800円(青春18き
つ使用・名古屋から)
地図 昭文社『六甲・摩訶
有馬』
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新緑が美しいといわれる西のお多
福山から紅葉谷を歩きます。
雨天中止

播州西郡・植松山(一般向き)
期日 3月16日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅西口7時40
分
コース 西明石駅(バス) 植松山
登山口―小河内の滝―植
松山―植松山登山口(バ
ス) 西明石駅(解散18時
頃)
費用 約4500円(西明石駅
からバス代等)
地図 2万5千西河内・千種
係 ◎古賀慶二 ◎岡田昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山の上684
の33-17A403
古賀慶二まで
*定員24名
残雪(積雪70cm程度)の植松山
を目指します。サンクラス・アイ
ゼン必須。雨天中止
平日ふれあいハイク37
北山・天ヶ森(一般向き)
期日 3月18日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄国際会館駅京
都バスのりば8時10分
コース 国際会館駅(バス) 小出
石―三谷口―P812―三谷
屋根―P812―三谷

地図 2万5千＝高宮・雲仙山
係 ◎山田明男 ○高原芳彦
申込み 〒50310535
山田明男宅
*定員20名
*マイカーの方はその旨
記載ください
春の花が多いこの地域、何が咲
いているのか楽しみです。
雨天中止

北摂・るり溪から深山
(一般向き)
期日 3月23日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分/②JR園部
駅9時53分
コース 園部駅(バス)るり溪―
登り口P780号―深
山―天王峠―奥るり溪
(バス) 園部駅(解散16
時21分)
費用 約4000円(青春18き
つ
ぶ使用・名古屋から)
地図 昭文社「北摂の山々」
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

＊集合駅を明記ください
小滝が連続のるり溪からササと
スキの高原の山を歩きます。
雨天中止
比良を歩く20
大津ワングル道から
ヤケオ山・横谷道(中級向き)
期日 3月23日(日) 日帰り
集合 JR比良駅8時45分
コース 比良駅(バス)イン谷口
―大津ワングル道―シャ
カ岳―ヤケオ山―大石―
横谷道―梨ノ木林道―寒
風橋―鹿ヶ瀬道(バス)
近江高島駅(解散16時40
分頃)
費用 約2100円(京都から)
地図 2万5千＝比良山・北小
松
昭文社「比良山系」
係 ◎桑 康夫
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ヤケオ山の北面と横谷道は、か
なり雪が残っているかも知れませ
ん。軽アイゼン・ロングスパッツ
必須(本誌57号参照)。雨天中止
コース 名古屋駅(電車)鳥田駅
(タクシー)北中前―赤
松地蔵堂―柏原―ドクダ
ン原―藤原右―千葉山―
智満寺―尾山―仏造道―
鳥石―農道(タクシー)
鳥田駅(電車)名古屋駅
(解散17時37分頃)
費用 約3300円(青春18き
つ
ぶ使用・名古屋から)
地図 2万5千＝向谷
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 鈴鹿を歩く164
琵琶湖の御池岳・奥の平
(健脚向き)
期日 3月23日(日) 日帰り
集合 御池林道小又谷分岐広場
8時30分
コース 分岐広場―小又谷林道―
ノタン坂―土倉岳―奥の
平―ポタンブチ―南峰―
丁字尾根―ブナ権現―御
池林道―広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の御池岳山行
(24号49ページ参照)。
小雨(急)決行
北山ちよつと歩き43
廣村田尻から松尾峠・高雄
(一般向き)
期日 3月26日(日) 日帰り
集合 JR京都駅中央口JRバ
スのりば8時00分(8時
10分発車)

費用 約8000円(岐阜駅か
らバス代等)
地図 2万5千＝願教寺・二ノ
峰
コース 京都駅(バス)雲石道―
廣村田尻―松尾峠―高雄
―萬葉谷池―京貝峠―大
覺寺(解散)
費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎奥山繁三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
早春の北山の尾根道を歩きます。
やぶ漕ぎもあり、ややロングコー
スです。萬葉谷池から大覚寺へは
希望者で歩きます。小雨決行
週末ハイイク47
六甲・旗塚山から再度山
(一般向き)
期日 3月29日(日) 日帰り
集合 山陽電鉄須磨浦公園駅9
時00分
コース 須磨浦公園駅―旗塚山―
柳尾山―高取山―菊水山
―大龍寺―新神戸駅(解
散17時30分頃)
費用 約10000円(大阪梅田
駅から)
地図 昭文社「六甲・摩耶」
係 ◎狩野東彦
申込み 〒61010121

申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名(3月3日ま
で)
白山山系の残雪期に登る山。ア
イゼンとカンキキまたはスノーシュー
必須。雨天決行
静岡・安倍大滝と十枚山
(やや健脚向き)
期日 4月5日(土)6日(日)
1泊2日
集合 (5日)JR大津駅8時
30分
コース (6日)大津駅(バス)
静岡インター(バス)梅
ヶ島―安倍大滝―孫佐橋
民宿(泊・温泉あり)
(6日)民宿(バス)中
の段―十枚峠―十枚山―
直登コース―中の段(バ
ス)大津駅19・30(解散)
費用 約25000円(バス・
宿泊代等)
地図 2万5千＝藤井山・湯の
森
係 ◎妻鹿弘子
申込み 〒61010121

費用 約3000円(青春18き
つ
ぶ使用・名古屋から)
地図 2万5千＝向谷
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
コースはすばらしい。山頂の奥
ノ院には樹齢1200年といわれ
る杉が10本あると言われています。
雨天中止
鈴鹿山41
雲仙山(やや健脚向き)
期日 3月30日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(車)今帰―笹峠
―近江原野―雲仙山―
角点―最高点―修験山―
お虎ヶ池―汗ふき峠―今
畑(車)彦根駅(解散)
費用 交通費各自(車代1000

費用 約3000円(青春18き
つ
ぶ使用・名古屋から)
地図 2万5千＝向谷
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
コースはすばらしい。山頂の奥
ノ院には樹齢1200年といわれ
る杉が10本あると言われています。
雨天中止
鈴鹿山41
雲仙山(やや健脚向き)
期日 3月30日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(車)今帰―笹峠
―近江原野―雲仙山―
角点―最高点―修験山―
お虎ヶ池―汗ふき峠―今
畑(車)彦根駅(解散)
費用 交通費各自(車代1000

費用 約3000円(青春18き
つ
ぶ使用・名古屋から)
地図 2万5千＝向谷
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
コースはすばらしい。山頂の奥
ノ院には樹齢1200年といわれ
る杉が10本あると言われています。
雨天中止
鈴鹿山41
雲仙山(やや健脚向き)
期日 3月30日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(車)今帰―笹峠
―近江原野―雲仙山―
角点―最高点―修験山―
お虎ヶ池―汗ふき峠―今
畑(車)彦根駅(解散)
費用 交通費各自(車代1000

費用 約3000円(青春18き
つ
ぶ使用・名古屋から)
地図 2万5千＝向谷
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
コースはすばらしい。山頂の奥
ノ院には樹齢1200年といわれ
る杉が10本あると言われています。
雨天中止
鈴鹿山41
雲仙山(やや健脚向き)
期日 3月30日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(車)今帰―笹峠
―近江原野―雲仙山―
角点―最高点―修験山―
お虎ヶ池―汗ふき峠―今
畑(車)彦根駅(解散)
費用 交通費各自(車代1000

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員28名

静岡第一の安治大滝と、富士と南アルプスの眺望がすばらしい十枚山を歩きます。安治大滝の八景コースです。雨天決行

鈴鹿を歩く165

花の雲仙山西南尾根(健徳向き)

期日 4月6日(日) 日帰り

集合 河内線津田川登り口広場

コース 8時00分
広場(車) 今畑一笹峠一
近江展覧台一南宮吊一雲
仙山一最高峰一岩ノ峰一
西南尾根林道一行者岩一
権現谷一アケン原(観音)
費用 交通費各自

地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」

係 藤原

申込み ◎岩野 明 ○山田景三
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

毎年恒例の花の雲仙山西南尾根と権現谷の早春の花を探訪する山行(63号7頁参照)。雨天中止

兵庫丹波・高見城山から石戸山
(一般向き)

期日 4月6日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR大阪駅福知山線のホーム9時20分

コース 大阪駅(電車) 柏原駅(タクシー) 三宅寺一高見城山一石戸山一岩屋山一石倉龍寺(タクシー)

費用 約3,900円(食費春18さぶ使用・名古屋から)

地図 ②万5千 柏原・谷川

申込み ◎小出良春
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

二つの山域にはさまれた石戸山は一等三角点の山です。石倉龍寺は足利一族とのかわりの深い名刹として知られています。雨天中止

地図 関西山行55
京都西山・唐櫃越(一般向き)

期日 4月6日(日) 日帰り

集合 阪急嵐山線上桂駅9時00分

コース 上桂駅一桜谷基地一松尾谷分岐一赤掛山一王ヶ辻一みずさ山一赤泉寺一JR馬場駅(解散)

費用 約1,500円(大阪から)

地図 2万5千 京都西南・京都西北・鳥飼

申込み ◎中村 登 ○塚元一彦
〒536-0022

大阪市城東区永田3の1の2の103 中村 登まで

新ハイキング関西支部分合同山行春の唐櫃越をゆっくり歩いて、地形図とコンパスの使い方を勉強します。初心者歓迎。シルバースタイルコンパスを持参ください。雨天中止

近畿百名山に登る(第52回) 室生・額井岳(一般向き)

期日 4月6日(日) 日帰り

集合 近鉄線駅8時30分

コース 榛原駅(バス) 天満台東一二十日一十八神社一林道出合一額井岳一戒壇峠一

戒壇山一戒長寺一山部赤人塚一△512号一天満台東一二十日一榛原駅(解散16時頃)

費用 約3,000円(大阪から)

地図 ②万5千 初瀬

申込み ◎村田智俊
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

「大和草土」と呼ばれる秀麗な山容を自慢します。戒壇峠から戒壇山にも登ります。雨天中止

北山ちよつと歩き44
西山・小塩山からポンポン山(一般向き)

期日 4月9日(日) 日帰り

集合 JR高槻駅北口8時30分(阪急高槻市駅からすぐ)

コース 高槻駅(バス) 中畑回谷場一小塩山一カタクリ谷一森林公園森の案内所一車道自然歩道手前 東尾根コース越一鎌ヶ谷一ポンポン山一木山寺一自然歩道西側谷一原大橋(バス) 高槻駅(解散17時30分頃)

費用 約1,000円(高槻駅か

地図 昭文社「京都西山」

係 ◎興山繁三 ○吉條孝次

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

昨年中止になった春の花コースを歩きます(63号95ページ参照)。小雨決行

フアミリーハイク23・歌枕山行
京滋・音羽山から醍醐山(一般向き)

期日 4月10日(日) 日帰り

集合 京阪京津線大谷駅9時00分

コース 大谷駅一蟬丸神社一音羽山一牛尾観音一高塚山一醍醐山一開山堂一三ツ玉院一地下鉄醍醐駅(解散)

費用 約1,800円(大阪から)

地図 ②万5千 京都東南部

申込み ◎木村太郎 ○中村友昭
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

小倉百人一首に詠まれた逢坂の関から、展望のよい音羽山、桜の名所醍醐へ歩く。途中歌枕の説明を行います。雨天中止

比良・鳥越山(一般向き)

期日 4月12日(日) 日帰り

集合 JR近江高島駅9時00分

コース 近江高島駅一万葉公園一観音堂跡一岳山一オーム岩一鳥越山一鳥越山一近江高島駅(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「比良山系」

申込み ◎高島伸浩
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

リトル比良コースから鳥越山を廻ります。雨天決行

但馬・須留ヶ峰(一般向き)

期日 4月13日(日) 日帰り

集合 JR姫路駅南口9時10分

コース 姫路駅(バス) 建屋山一神社一大杉山一須留ヶ峰一姫路駅(解散18時頃)

費用 約5,000円(バス代)

地図 ②万5千 大塚市場

申込み ◎須藤 昭
〒671-1126

姫路市余部区上余部50の2の11 須藤 昭 様まで

新緑の吊尾根を歩きます。但馬で誇る山域の一つです。小雨決行

比良を歩く21
近江舞子からシヤカ岳・ヤケオ山(中級向き)

期日 4月13日(日) 日帰り

集合 JR近江舞子駅8時50分

コース 近江舞子駅一八幡神社一雄松山荘道一津ワングケル道出合一シヤカ岳一ヤケオ山一ヤケオ山東尾根一太宰川(梅ノ木谷)堰一堰一近江舞子駅(解散16時30分頃)

費用 約1,300円(京都から)

地図 ②万5千 比良山・北小松

申込み ◎桑 康夫
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

登山者の通ることの少ないヤケオ山の東尾根をくだります(本誌50号参照)。雨天中止

美濃・大船山(一般向き)

期日 4月13日(日) 日帰り

集合 JR名古屋駅中央改札口

7時55分
名古屋駅(電車) 恵那駅(電車) 明神鉄道岩村駅(バス) 中島一白山青面金剛堂一の鼻一中電黒田ダム取入口一大船神社登り口一大船山一往路社一中島(タクシー又はバス)

費用 約4,000円(青春フリーパス使用・名古屋から)

地図 ②万5千 横道

申込み ◎小出良春
〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

近畿百名山に登る(第53回) 鈴鹿・雨乞岳と御在所岳

期日 4月13日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体パスのりば7時35分

コース 京都駅(バス) 477号線イナガ谷橋一イナガ谷一雨乞岳一杉峠一上木品谷出合一関貝峠一御在所

岳一武平峰(バス) 京都
駅(解散19時頃)
費用 約3500円(バス代)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

係 ◎村田智俊 ○安倉正勝
○奥比格英

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

費用 約3500円(バス代等)
*定員40名

東吉野・鳥見堂時(一般向き)
期日 4月17日(日) 日帰り
集合 近鉄榛原駅南口バスのり
ば9時15分

コース 榛原駅(バス) 賢家一近
畿自然歩道一鳥見堂時一
林道一展望台一公園一小
村大橋(バス) 榛原駅
(解散16時45分)

費用 約3400円(上本町駅
から)

地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ◎西上利和 ○中村英雄

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

山頂からの展望はありませんが、
近くの公園に展望台があり、台高
の山々がよく見えます。雨天中止

自然観察山行115
美濃・舟伏山(一般向き)

期日 4月19日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス) あいの森
駐車場一さくら峠一あいの森
わ平一舟伏山一舟伏一
あいの森駐車場(バス)
大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅か
ら貸切バス代等)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで

京都北山歩き107
枚敷ヶ岳から城丹園境尾根
(一般向き)

期日 4月20日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅前8

線を登り、芽吹き出した赤坂谷か
ら八風谷へくだります。雨天中止

自然観察山行116
南信・守屋山と戸倉山
(一般向き)

期日 4月25日(日) 27日(日)
前後発1泊2日
集合 (25日) JR岐阜駅23時
00分

コース (25日) 岐阜駅(バス)
(26日) (バス) 長谷村
仙流荘(朝食・バス) 杖
突峠守屋登山口一守屋山
一立石登山口(バス) 仙
流荘(泊)

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

*定員20名(全員に履き
靴)

山頂からの展望はありませんが、
近くの公園に展望台があり、台高
の山々がよく見えます。雨天中止

自然観察山行115
美濃・舟伏山(一般向き)

期日 4月19日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス) あいの森
駐車場一さくら峠一あいの森
わ平一舟伏山一舟伏一
あいの森駐車場(バス)
大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅か
ら貸切バス代等)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで

京都北山歩き107
枚敷ヶ岳から城丹園境尾根
(一般向き)

期日 4月20日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅前8

線を登り、芽吹き出した赤坂谷か
ら八風谷へくだります。雨天中止

自然観察山行116
南信・守屋山と戸倉山
(一般向き)

期日 4月25日(日) 27日(日)
前後発1泊2日
集合 (25日) JR岐阜駅23時
00分

コース (25日) 岐阜駅(バス)
(26日) (バス) 長谷村
仙流荘(朝食・バス) 杖
突峠守屋登山口一守屋山
一立石登山口(バス) 仙
流荘(泊)

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

時30分
北大路駅(タクシー) 祖
父谷林道車止一枚敷ヶ岳
一ナベクロ峠一城丹園境
尾根一飯森山一天童山一
茶臼峠一カモチ谷一周山
(バス) 京都駅(解散17
時頃)

費用 約3000円(北大路駅
からタクシー・バス代)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎中西信行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

枚敷ヶ岳から城丹尾根をのんび
りと歩きます。雨天中止

鈴鹿百山42
鎌ヶ岳(健脚向き)

期日 4月20日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時40
分

コース 湯の山温泉駅(車) 旧料
金所一三口谷登山道一飯
塚三尾根一奥境尾根一
鎌ヶ岳一長石谷一旧料金所
一滝一長石谷一旧料金所
(車) 湯の山温泉駅(解
散16時頃)

費用 約5300円(名古屋か
ら)

地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ◎西上利和 ○中村英雄

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約5300円(名古屋か
ら)

京都北山・十三石山から船山
(一般向き)

期日 4月20日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分/②飯山電鉄
出町柳駅9時20分

コース 出町柳駅(電車) 二ノ瀬
駅一夜泣峠一発電所一満
樹峠一十三石山一満樹峠
一氷室神社一船山一西賀
茂車庫前(バス) 京阪三
条駅(解散16時頃)

費用 約5300円(名古屋か
ら)

週末ハイイク48
大峰奥庭

期日 4月26日(日) 27日(日)
1泊2日
集合 (26日) 近鉄大和八木駅
1泊2日

コース (26日) 八木駅(バス)
玉置山一奥川隧道一玉置
山登山口一上葛川民宿
(泊)

費用 約19000円(バス・
宿泊代等)

地図 昭文社「大峰山系」
係 ◎狩野東彦

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約19000円(バス・
宿泊代等)

大峰奥庭の二週目を始めます。
第一回はシャクナゲが咲く玉置
山から行仙岳まで。雨天決行

江國園境の地形図に山名記載の
ない山ですが、パノの美林と展望
が楽しめます。遊歩道を利用、や
ぶ漕ぎあり。雨天中止

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約27000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

大パノラマがどこまでも続く様

鈴鹿百山3
イワス・比婆山・高取

期日 4月27日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(車)落合・尾根取付・高取・比婆山・イワス・男取峠・林道・落合(車)彦根駅(解散)
費用 交通費各目(車代1000円)
地図 2万5千・高宮・雲仙山
係 ◎山田明男 ○高原秀彦
申込み 〒503-0535 海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで
*定員20名
*マイカーの方はその旨記載ください
春の花を見て比婆神社に参拝します。雨天中止

紀泉・若湧山(一般向き)
期日 4月27日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄・南海河内長野駅前④番バスのりは10時15分
コース 河内長野駅(バス)滝畑ダムダイトレ登山口
地図
費用 約3500円(バス代等)
係 ◎村田智俊 ○真比佐美

水場・若湧山・根古峠・鉄塔下・車道出合・南海天見駅(解散16時頃)

費用 約5700円(名古屋から)
地図 昭文社『金剛山・若湧山』
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
ダイヤモンドトレイルからスキの草原若湧山に登り、帰路、三角点根古峠に寄ります。雨天中止

近畿百名山に登る(第54回)
江若園境・三十三間山(一般向き)
期日 4月27日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりは7時35分
コース 京都駅(バス)倉見・登山口・大福松屋展望台・芝生広場・三十三間山(往路)倉見(バス)京高駅(解散18時頃)
費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千・熊川
係 ◎村田智俊 ○真比佐美

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

若狭湾や三方五湖を見ながら歩きます。小雨決行
自然観察山行117
湖北・ブンゲン(一般向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)奥伊吹スキー場・品又峠第7リフト終点・ブンゲン・大長谷・奥伊吹スキー場(バス)大垣駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千・横山
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-10828 各務原市蘇原村南町1の19の5 鷺見守康まで
*定員30名

少し前までは積雪期しか登れない女人好みの山でした。前回雨天中止のため再計画しました。小雨決行
尾張・尾張三山(一般向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

集合 JR名古屋駅中央改札口7時52分

コース 名鉄新名古屋駅(電車)大出駅(バス)尾張富士一湯間神社・尾張富士・明治村・池野・白山・本宮山・信貴山・大縣神社・名鉄美田駅(電車)新名古屋駅(解散16時頃)
費用 約1600円(名古屋駅から)
地図 2万5千・大山・小牧
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
尾張の雲峰三山を結んで歩きますが、信貴山を入れると四山になります。雨天中止

九州・大分の山(中級向き)
期日 5月1日(休夜)5日(朝)4泊5日(船中2泊含)
集合 ①日 神戸(六甲アイランド)港フェリーターミナル17時00分(17時50分発乗船)
コース ①日 神戸港(船中泊)

〈2日〉大分港(バス)

北倉登山口・祖母山・登山口(バス)竹田市ビジネスホテル(泊)
〈3日〉竹田市(バス)九折登山口・傾山・九折(バス)上郷民宿(泊)
〈4日〉上郷(バス)登山口・鶴見岳・登山口(バス)大分港(船中泊)
〈5日〉神戸港(解散5時30分着後)
費用 約4500円(バス・宿泊代等)
地図 昭文社『祖母・傾山』
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員19名(会費に限る)
4月10日まで

九州で最もアルペンのな風貌の山群で大崩山に連なる祖母・傾の二山と、別府市郊外で由布岳東麓の鶴見岳を歩きます。雨天決行
美濃の山2
常倉とタンボ(一般向き)
期日 5月3日(休夜)4日(日)

前後泊 1泊2日

集合 ①〈3日〉JR大垣駅北口20時00分/②〈4日〉小津集落奥の白倉林道入口車止め6時00分
コース ①〈3日〉大垣駅(車)花房の滝登山口・駐車場(テント泊)
②〈4日〉駐車場(車)白倉林道入口・白倉林道・月夜谷分岐・林道・常倉取付・常倉・白倉林道入口(解散・車)大垣駅(18時頃)
費用 交通費各目(車代1000円)
地図 2万5千・谷汲
係 ◎山田明男 ○高原秀彦
申込み 〒503-0535 海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで
*マイカーの方はその旨記載ください
*集合は①か②かを必ず明記ください

多くの春の花を見ながら一日でタンボと常倉を回ります。一般向きですが、長い林道歩きがあります。小雨決行

近畿百名山に登る(第55回)

奥高野・冷水山と玉置山(中級向き)
期日 5月3日(休)5日(日) 2泊3日
集合 ①〈3日〉JR・南海橋本駅9時35分
コース ①〈3日〉橋本駅(バス)護摩壇山・森林公園・六里ヶ峰林道・弘法大師衣掛岩・立石・ヤゲン坂・殿垣内(バス)龍神温泉(泊)
②〈4日〉龍神温泉(バス)スパー林道奥無精・冷水山・カヤノダン・公門の崩・ミウガタワープナ・の平・果無越・山口茶屋跡・麓尾・十津川温泉(泊)
③〈5日〉十津川温泉(バス)折立・玉置山(バス)近の森・玉置山(バス)近鉄八木駅(解散18時頃)
費用 約28000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千・護摩壇山・龍神・奥高野・発心門・伏拝・十津川温泉
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝

初日は護摩壇山から花を見ながら森林公園を龍神に下り、冷水山は果無山脈を縦走します。最終日に玉置山に登ります。雨天決行

海外特別山行

韓国最高峰 濟州島・漢拿山(一般向き)
期日 4月22日(休)25日(日) 4日間
集合 ①〈22日〉JR新大阪駅12時28分発新幹線(のぞみ9号)に乗車
②〈22日〉新大阪駅(新幹線)広島駅・広島国際港(釜開フェリー泊)
③〈23日〉釜山市内観光(飛行機)濟州島(ホテル泊)
④〈24日〉漢拿山登山。登山後濟州島南部および濟州市内観光(ホテル泊)
⑤〈25日〉濟州島東北部観光(飛行機)名古屋空港(夕方解散)

濟州島・漢拿山(一般向き)
期日 4月22日(休)25日(日) 4日間
集合 ①〈22日〉JR新大阪駅12時28分発新幹線(のぞみ9号)に乗車
②〈22日〉新大阪駅(新幹線)広島駅・広島国際港(釜開フェリー泊)
③〈23日〉釜山市内観光(飛行機)濟州島(ホテル泊)
④〈24日〉漢拿山登山。登山後濟州島南部および濟州市内観光(ホテル泊)
⑤〈25日〉濟州島東北部観光(飛行機)名古屋空港(夕方解散)

費用 98000円
係 高島伸浩
申込み 〒914-0076
敦賀市元町14の29
高島伸浩まで
*定員10名
*3月20日まで

つるが山楽会と合同登山。
済州島は全島菜の花畑。山はつ
つじの頃です。登山ガイド付き。
登り2時間、下り1時間。問い合
わせは高島まで(☎0770-23
12443)

海外特別山行

台湾最高峰と第二峰の二名山
玉山と雪山登山(7日間)併行
・玉山のみ登山(5日間)併行
(中級向き)
期日 4月13日(即)19日(出)
・玉山のみ13日(即)17日(出)
集合 (13日) 関西空港前前に
費用 玉山と雪山 19万4千円
玉山のみ 16万8千円
行程 (略)
*右の山行を67号(98)99ページ
参照)に計画しておりますが、余
席がありますので、参加ご希望の
方は3月10日まで受付いたします。
申し込みは新ハイキング関西まで

山行報告
(11・12月号)
新ハイキングクラブ関西

台高・高見山
11月3日(日) 雨のち雪
(集合) 近鉄橋原駅9・05〜15
(バス) 高見登山口10・10〜小峠
11・10〜大峠11・42〜高見山12・
25(昼食)12・50〜高見杉13・46
〜下平野14・33(バス)橋原駅15・
30(解散)
高見山が近づくとつれづれ橋原駅で
の天気が信じられないくらい雨
になった。気温は4℃と運転手さ
んが言っていた。大峠から雪道に
なると下山してくる人が樹氷が見
られると言ってくれ、雨で嫌にな
ると思っていたのに山頂ではみん
なニコニコ顔だった。
(参加者) 沢孝夫 金森節子
徳田暢子 砂津達雄 岡本美千子
磯野重治 西村文男 岩本いすゞ
山本博子 柳田隆子 荻野美紀恵
美村孝治 佐々木三千代
◎宮下淳一 ◎小出良春(計15名)

若狭・野坂岳
(近畿百名山に登る第46回)
11月3日(日) 晴れのち雨
(集合) JR敦賀駅9・30〜40
(タクシー) 登山口駐車場10・00
〜10トチの木地蔵10・30(上行者
岩11・00)〜野坂岳12・10(昼
食)13・00(南尾根)鉄塔巡視下
山路分岐13・40(荒谷林道14・45
〜山集落15・00)〜20(タクシー)
敦賀駅15・45(解散)
山頂には先日降った雪もあり、
晴れていて360度の展望が満喫
できた。しかし、南尾根の下山路
で急に雨が降ってきたので雨具を
着け傘をさして下った。山肌の
紅葉が美しかった。
(参加者) 佐野信江 吉戸喜久江
栗橋崇吉 若林文夫 宮村孝次郎
松本 博 白鳥忠孝 野里マツ代
森本幹雄 福岡 章 山高重孝
中谷泰子 入江武史 前田一代
黒河内東洋明 ◎呉比呂美
◎村田智俊 (計17名)

1カタクリ峠10・05(高塚 喜10・
35)〜東池11・25(東端峠11・55
(昼食)12・25)〜奥の谷テント場
13・30(カタクリ峠14・05)〜長命
水14・35(コグルミ谷入口15・00
(車)関ヶ原駅15・45(解散)
先週からの寒波で頂上部では雪
が積もり、紅葉とあいまってきれ
いな風景が見られた。午後は吹雪
に追われて早目に下った。
(参加者) 小林 稔 金谷 昭
原 光一 原 幸子 佐古田文子
磯部 純 合井武司 伊藤恵美子
山村恭男 近藤郁夫 伊藤喜久男
池田 茂 鳥居信吾 山野志保江
水谷一也 水谷有里 ◎高原芳彦
◎山田明男 (計18名)

飛鳥・御破山から石舞台
(ファミリーハイク18)
11月7日(日) 晴れ
(集合) 桜井駅南口9・00〜05
(バス)多武峰9・35(鹿路トン
ネル分岐点10・15)鹿路峠10・40
〜多武峰最高点11・30(御破山
12・20(昼食)13・00)談所の森
13・10(談山神社13・20)〜45(茂
古の森14・25)石舞台古墳15・15
川原寺跡15・50(飛鳥16・45
(解散)

竜作峠から多武峰への登山道は
雑草が刈られ歩きよかった。談山
神社の紅葉を楽しみ、冬野川沿い
の無人販売の店で奥物をお土産に
買った。飛鳥川のとおりで万葉歌
に思いを馳せ駅路についた。
(参加者) 中村英雄 猪野美枝子
吉峰雄次 中川正子 千葉千枝子
中山峰雄 西 悦子 井上由紀晴
石田豊美 柏木孝子 宮村孝次郎
市野博文 辻 行子 成川みさお
白根清子 村上清子 中津ちず子
本間昭恵 岩城豊子 金藤千恵子
秋葉正一 高木 晋 美村孝治
◎木村太郎 (計26名)

金養峰手前広場12・25(昼食)12・
50(金養峰12・55)堂瀧岳13・37
〜45(ノタノホリ15・15)堂瀧岳
登山口15・35〜45(解散) 一比良
駅16・15
思いがけず今シーズン初の雪山
登山となった。シンジ谷のつめの
登りでは、頼りのクサリが雪の下
に隠れていて若し苦勞したが、緑
葉・紅葉・黄葉・白雪と、いろど
り豊かな比良を満喫した。
(参加者) 仲谷利司 石井恵美子
馬藤忠男 山縣勝美 木村 豊
岩田育子 川田洋子 塩尻香織
須田久子 山本京子 武部美美子
金森節子 蓮井洋子 中嶋日出男
山下晴美 谷川俊一 井林寿奈子
東山澄夫 白根清子 大宮隆枝子
東中次夫 岡本英樹 波多野恵子
多賀久子 山口喜弘 若林文夫
小谷和子 里田安代 長尾一令
大矢佳子 阿久津紀代子
小川晴美 角田一江 牧 和夫
◎宮下淳一 ◎瓜飯利明
◎青木一雄 ◎秦 康夫(計26名)

ミズ谷小原9・15〜10(三合
目小屋10・35)〜六合目11・00(無
向山11・35(昼食)12・05)水無
山12・35(林道交差点13・15)ヒ
ミズ谷小原13・40(綿向山登山口
13・55)〜14(解散)
2日前からの寒波で雪が積もり、
湯の山温泉集合の5名が来られ
なくなると、京都大阪方面の6名
とでひと廻りしたが、道半ばはキャ
ンセルにした。山は雪と紅葉と緑
で三段染めが見られて美しかった。
(参加者) 池田隆一 光川一美子
栗橋崇吉 栗橋君子 加納由紀子
◎山田明男 (計6名)

京都北山・貴船山から鞍馬山
11月10日(日) 晴れ
(集合) 叡電出町柳駅9・10〜30
(電車)二ノ瀬駅9・55(二ノ瀬
ユリ道10・10)〜樋ノ水峠11・40(一
貴船山11・47)滝谷峠12・35(昼
食)13・05(貴船神社14・15)鞍
馬山14・57(鞍馬駅15・45(解散)
貴船と鞍馬は紅葉の名所なのだ
ろう、大勢の観光客が歩いてた。
貴船神社・鞍馬寺と観光気分の山
歩きもできて充実した一日だった。
(参加者) 小田潤子 桂 久美子

飯田愛子 小林 桂 小林博子
市野博文 佐野信江 松井トキ子
本間 隆 本間孝子 岡本美千子
森 晴代 盛 敏子 永富律子
大黒 均 小野典子 兼田幸子
中村静香 森澤昭子 ◎美村孝治
◎小出良春 (計21名)

谷 久雄 杉山能久 安田良剛
 谷 守 友田 毅 友田美保子
 加藤因計 木下朝子 石田真由美
 日野新一 日野照代 今井武司
 高杉 博 武村千鶴 ○水戸鉄治
 ◎高野 明 (計24名)

京都北山
 枝敷ヶ岳から城丹尾根

11月12日(日)ふれあいハイック35
 (集合) 出町柳駅7:20/北大路
 駅7:30(バス) 岩倉橋8:35
 枝敷ヶ岳11:00-城丹尾根登山11:
 30(昼食) 12:10-飯森山13:15
 1-天草山14:00-茶臼峠15:00-
 山園16:35(バス) 京都駅17:30
 (解散)

この秋は紅葉がことのほかき
 いた。踏み跡の薄い城丹尾根は
 さしい木立と踏むのが惜しい落ち
 葉があり、ペールをかけたような
 樹影界は黄砂のせいだった。暖かい
 陽差しと紅葉の美しさに満足感の
 残る山歩きだった。
 (参加者) 尾崎光子 光川一美子
 宮崎美智 中村英雄 荒木光雄
 伊藤淑子 神 聖司 神 美栄子
 木村 豊 木間 隆 山本千鶴子
 田中義雄 安良陽子 若林文夫

菅生幸子 小谷和子 三下須美恵
 谷 守 西村耕一 川端敏子
 長沢佑美 細井和子 松井菊子
 上田正子 石原君子 仲谷和司
 榎木金三 多田元司 武田和己
 諏訪敏子 多田陽子 嶋田幸子
 山岸勝雄 青木一雄 ○川上久登
 ◎寺井恒夫 (計36名)

静岡・愛鷹連絡と浜石岳
 (自然観察山行104)

11月15日(日)17日(日)
 前後発1泊2日
 (15日) くもり J R 岐阜駅23:
 00(バス)
 (16日) くもり(バス) 十里木
 高原3:55(飯前・朝食) 6:30
 1-笹峠7:00-越前岳8:05-15
 1-呼子岳8:50-割石峠9:15-
 蓬萊山9:25-錫岳一位峠11:
 10(昼食) 12:10-一服峠12:40
 1-檜原峠12:50-馬場平13:15-
 愛鷹山13:45-14:15-林道出合
 14:50-愛鷹ゴルフ場16:00-10
 (バス) 京市ホテル(泊)
 (17日) 晴れ 京市ホテル6:
 45(バス) 山比町青少年野外セン
 ター7:30-1-浜石岳8:05-30-
 1-青少年野外センター下駐車場9:
 00-10(バス) 静岡温泉10:30

山田明男 永戸鉄治 石田真由美
 平 龍一 平 幸子 藤井みつゑ
 高橋正人 新町幸夫 山本恵子
 ○種田逸夫 ◎尾崎英五(計19名)
 タンポ(美濃の山)
 *11月16日(日)の高丸から期日とコー
 スを変更して登った。
 11月17日(日) 晴れのちくもり
 (集合) J R 大垣駅7:00(車)
 坂内バイクランド8:00(車・夜
 叉ヶ池登山口手前5:30まで雪のため
 目的の三周ヶ岳をあきらめてタン
 ポ) 小津集落白倉谷9:25-30
 1-白倉谷タンポ・雷倉分岐11:30
 1-タンポ12:00(昼食) 12:34-
 1-白倉谷分岐車止14:30(車) 大垣
 駅15:45(解散)
 坂内村から池ノ又林道は紅葉の
 ぜいたくなドライブだったが、雪
 のため三周ヶ岳には行けず。タン
 ポも全山紅葉のなかに、雪の花房
 山や雷倉を眺めながら歩き、山頂
 からは冠山や熊野白山などの展望
 が楽しめた。目的の紅葉はなかっ
 たが、青空のもとに紅葉と雪山を
 堪能した。(記録 村田は江)
 (参加者) 西村文男 村田は江
 今井みよ子 伊藤重英子
 吉戸喜久江 ◎山田明男(計18名)

(入浴・昼食) 13:00(バス) J
 R 岐阜駅16:05(解散)
 夜行後の9時間を越える徒歩に
 加え、愛鷹連絡峠岳位峠岳間は
 予想以上に険しい岩壁。事故の
 ないよう新居の気持で歩き、全員
 が位峠岳に到着したときはほっと
 した。皆さんの頑張りチームワー
 クに感謝。位峠岳位峠岳間は安易
 に踏み込んでほならない。新ハイ
 例登山行には不向きで、計画の甘
 さをリタイアとして反省した。翌
 日の浜石岳は一転してビクニック
 気分。山頂から大きな富士山と輝
 く駿河湾を望んだ。
 (参加者) 石田高教 緒方由子
 岡本佳子 尾崎光子 加納由紀子
 小松志信 首藤育子 谷 久雄
 長尾一令 仲谷和司 林 えい子
 夏山春子 荻野暢子 船本裕己子
 原 文子 三井敏一 安田文美江
 山縣善美 ◎狩野東彦 (計20名)
 ◎賢見守康 (計20名)

湖東・イワス山から比婆之山
 11月16日(日) 晴れのちくもり
 (集合) J R 彦根駅9:30(タク
 シ) 仏生寺林道10:10-イワス
 山11:10-比婆之山11:40-イワ
 ス山12:10(昼食) 13:00-仏生
 寺

若杉原生林(中国自然歩道)
 11月17日(日) 晴れ
 (集合) J R 西明石駅7:30-50
 (バス) 峰越峠10:20-40-三県
 境・江濃峠分岐11:18-林道出合
 12:06(昼食) 12:45-若杉展望
 所13:10-若杉原生林自然研究路
 13:15-若杉駐車場14:35-47-
 宮本武蔵生誕の地15:25-16:05
 (バス) 姫路駅17:45(解散)
 三県境を過ぎてから展望が開け、
 水ノ山をはじめ周囲の山々がよく
 見えた。原生林内は新雪が落ちて
 まだまだ様子を描写していた。すで
 に葉を落とした原生林は静かで明る
 かった。
 (参加者) 眞田久子 森本 勝
 森本淳子 松尾陽子 松上美代子
 栗栖崇吉 栗栖君子 岡田重美子
 宮本真幸 宮本悦子 河本美子子
 松村穂子 秋田穂子 八木八重子
 馬鹿中男 金森節子 田所真留子
 森 瑞代 布施清美 東山登夫
 松井明志 竹田善美 ○岡田 昇
 ◎古賀慶一 (計24名)

三子山・四方草山から安楽越
 11月17日(日) 晴れ
 (集合) J R 関駅9:15-31(バ
 ス)

若狭・千石山
 11月16日(日) 晴れのちくもり
 (集合) 上中町役場9:20(車)
 瓜割の滝9:30-林道終点10:30
 1-尾根11:00-千石山11:35(昼
 食) 12:15-林道終点13:10-瓜
 割の滝13:45(解散)
 日本百名水の瓜割の流から林道
 終点まで1時間、今を盛りの紅葉
 を楽しむ。杉林地のジグザグは

寺14:40-近江鉄道鳥居本駅15:
 10(解散)
 黄葉たけなわの山は野鳥の天国
 だった。やぶ漕ぎ、廃道のルート
 ファインディングと歩行時間は初
 級だが、難易度は中級の山行で楽
 しかった。
 (参加者) 若松朝子 宮下淳一
 宮西博子 小田陽子 岩田育次
 上田建男 栗栖君子 吉藤孝次
 増田龍一 荒木光雄 武部美美子
 堀田輝子 市野博文 井上由紀晴
 入江武史 松尾陽子 松尾芳洋
 川島徹也 川島勝美 吉戸喜久江
 若林文夫 若林和人 水谷信弘
 中村静香 木下照子 岡 信弘
 岡 菊江 森脇真義 十寺由治
 鳥居久秋 妹尾一正 兼田幸子
 平取英子 ◎妻鹿弘子(計34名)

三つこのピークをもつ三子山に着
 いてみれば、まだ歩き足りないそ
 うな顔の人がいる。もう少し歩いて
 みると、四方草山に向かったが、
 ガレ場・ヤセ尾根・キレット・イ
 ナキササの続く道だった。四方草
 山からは戻るより安楽越の峠まで
 行ったほうが安全なので三子山か
 ら徒歩してしまっただが、雨が少し
 でも降っていたとこでも歩けるコー
 スではない。
 (参加者) 徳田暢子 村端和子
 井上久子 小林 稔 中井秀一
 山根弘美 和田直樹 久保田順一
 若林文夫 伊藤則男 ○福本芳雄
 ◎小出良春 (計12名)

大峰・馬形山
 *11月17日(日)に計画したが、急ぎよ
 リタイアの都合で11月28日(日)に変
 更して実施した。
 11月28日(日) 晴れ
 (集合) 近鉄下市口駅9:10-15
 (タクシー) 川戸一片通9:55-

イバラ道。尾根に出ると武奈ヶ岳
 や三十三間山、上中町が眼下に。
 落葉した尾根道はイノシシの体臭
 がプンプン匂う。頂上でフワフワ
 の落ち葉を座布団代わりにして昼
 食。行く秋を楽しんだ。
 (参加者) 三下伸夫 三下英子
 ◎高島伸治 (計3名)
 富川・迷岳(三重の山岳)
 11月16日(日) 晴れ
 (集合) 道の駅・奥伊勢おおだい
 8:00-10(車) 滝谷(車) 八知
 山林道駐車場9:00-10-第一登
 山口9:25-第二登山口9:50-
 稜線10:00-口迷岳10:15-迷岳
 11:00(昼食) 11:50-第二登山
 口13:00(ススキ原経由) 第一
 登山口13:45-駐車場14:00-10
 (車) 奥伊勢おおだい15:00(解
 散)
 稜線上のブナ林は圧巻。やや風
 が強かったがこの時季にしては絶
 好の登山日和。紅葉は尾根よりも
 麓から中腹にかけての谷向こうの
 日の当たった斜面がすばらしかつ
 た。ススキ原もよかった。
 遼山に日の当りたる杜野かな
 夢子
 (参加者) 池田繁美 岡本美子子

カヤ小隊隊10・45―第一鉄塔11・05―扇形山11・45(昼食)12・30―小南峰13・20―松ヶ茶屋跡14・15―河分神社15・00(タクシ)―下市口駅15・45(解散)

山頂は雪におおわれ、新雪を踏みながら歩いた。冬の気配に季節の早さを感じた。

(参加者) 棚田隆子 竹田駿英 木村 豊 奥田則夫 氷見貞砂子 岩本彩子 若林文夫 古川裕子 山根弘美 川村博子 ○中村英雄

◎西上利和 (計12名)

比良・地蔵岳からツルベ岳 (平日水曜ハイク58)

11月20日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅8・18(車庫) 近江高島駅8・52(バス) 畑9・20(バス) 地蔵山10・55(バス) 00―ツルベ岳12・20(昼食) 13・00―細川越13・20―広谷出合13・45―八雲ヶ原14・00(バス) 10―ロープウェイ山上駅14・20(バス) (解散)

中腹では散りゆく黄・紅葉も楽しめ、たぶつぶいた一日でした。解散後は各自で選択して二つのルートに分かれて下山した。

(参加者) 近藤 恭 山藤勝美 岩本彩子 石原順次 本間 隆

田中善雄 木下朝子 井上由紀晴 谷 守 松尾麗子 磯部 純 角江朝子 山根弘美 山岸勝雄 山田幸子 奥山三三 千葉千枝子 棚野欽也 谷川俊一 小坂さゆり 岩城豊子 眞田久子 西 悦子 松井菊子 長沢佑美 大久保秀子 西村耕一 妹尾正 中上紀代子 長尾一合 小川晴美 波多野恵子 岡田春美 市野博文 武村千鶴 西藤良彦 ○青木一雄

◎湯浅次男 (計38名)

金剛・府庁山 (地図読み山行54)

11月23日(日) 晴れ

(集合) 南海千早口駅9・40(バス) 登山口10・20―尾根出合10・55―山田口10・05(バス) 府庁山12・05(バス) 10―送電線鉄塔12・25(昼食) 13・25―十字峠13・40―林道出合13・55―蟹井八幡神社14・30―天見駅14・45(解散)

小春日和に恵まれた一日、地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強しながら金剛山地の一角を歩いた。気分がよい山道を京東高原の展望を楽しんだが、府庁山は期待はずれの頂上だった。

(参加者) 岩田育士 村田はる江

増田龍一 小林 昇 前田栄三 前田初雄 北川良子 東山登夫 高橋輝治 ○中村 登

◎塚元一彦 (計11名)

三重・高鉢山

11月23日(日) 雨のちくもり

(集合) 近鉄松阪駅8・05(バス) 七日市9・43―大野山10・12―高鉢山11・45(昼食) 12・15―共同アソテテ13・06―七日市13・50(タクシ) 飯高町役場14・10(バス) 松阪駅16・40(解散)

高鉢山の周囲コースが開発されてからまだ日が浅いのか、登山道は整備されておらず、山頂からの下山路南尾根はガスのなか。各人勝手に下山してくれというような道だった。

(参加者) 徳田暢子 中尾美智子 石原順次 藤崎流石 石田世志子 脇田和洋 岩城豊子 岡本美子 山本博子 森 晴代 庁 すみ子 押本吉生 水谷陽子 渡辺美代子 原文子 ○藤本桂吉

◎小出良春 (計17名)

鯉子ヶ口・黒尾山・鷹芦山 (鈴鹿を歩く156)

11月24日(日) くもり

(集合) JR京都駅八条口8・00

(集合) 神崎橋広場8・20(車) 風祭台林道モノレール取付広場8・35―鏡子ヶ口10・10―P1016 10・55―黒尾山北峰12・00(昼食) 12・45―黒尾山13・00―庭戸山14・35―紅尾尾15・30―神崎橋広場16・10(解散)

モノレール道の急登後は鏡子ヶ口の大パノラマにひと息。長大な秘境の尾根も随所で眺望が開けた。ガレの横の岩稜の直登、黒尾山にかかると冬枯れの明るい樹林。下りは急斜面を落ち葉とともに流れ落ちる感じ、そして幅50m程の岩の吊尾根は空中を行く思いなどを堪能した。

(参加者) 池田繁美 松上美代子 後藤真幸 林 一夫 奥野太一郎 服部 晃 三仲夫 石田眞由美 下村啓三 下村啓子 網本美恵子 大石裕美 木下朝子 北村つねみ 神野孝允 谷 久雄 緒方由子 原 光一 原 幸子 津野雅弘 堀 寿江 杉山能久 ○山田基三

◎岩野 明 (計24名)

茶臼峰から東俣山 (京都北山歩き105)

11月24日(日) くもり

(集合) JR京都駅八条口8・00

く05(バス) 山岡9・25(バス) 鳴堂10・35(バス) 茶臼峰11・25(バス) 尾根広場11・45(昼食) 12・45―東俣山13・00(バス) 北西尾根―カモチ出合14・15(バス) 15(バス) 00(バス) 15(バス) 京都駅16・45(解散)

東俣山までは初心者コースで、東俣山からの北西尾根もテープもやぶ漕ぎのない落ち葉道で歩きやすい。気分よくゆっくりに歩いた。

(参加者) 馬場昌盛 上田建男 栗橋吉吉 栗橋君子 武藤美美子 佐野信江 栗岡克子 野里マツ代 布施清美 市野博文 中上紀代子 鶴見和子 岩崎健司 原 みとえ 水富律子 岩本彩子 大首純枝子 川島豊美 牧 和夫 井林寿奈子 入江武史 ○磯野重治

◎中西信行 (計23名)

菅生・ブナノ木峠 (北山ちよっと歩き39)

11月27日(日) くもり

(集合) JR京都駅八条口7・00(バス) 林道ゲート9・40(バス) 52―地蔵峠10・18―扇谷のトウヒ10・45―中山10・49(バス) 850 杉の大杉11・38―峠峠12・13(昼

食12・46―ブナノ木峠14・10(バス) ケヤキ坂上14・40(バス) 中山15・30―長谷合衆作業所跡15・40(バス) 地蔵峠16・10―林道ゲート16・35(バス) 京都駅19・00(解散)

紅葉は終わってしまったが、初冬の雪景色がわれわれを迎えてくれた。尾根道は5センチほどの新雪で周りを囲む木々は抜いっばいに真っ白な花を咲かせていた。時折雲間からめれる陽光が輝きと影をいっそう鮮やかに演出してくれた。

(参加者) 東次夫 山岸勝雄 西脇 隆 森本俊雄 平田輝英 米谷建治 伊藤渡子 菅 キョウ 本間 隆 木間孝子 大須賀 實 白鳥忠孝 北谷好子 中嶋日出男 大谷敬子 栗橋君子 山本すまこ 中村 保 奥田則夫 広田不佐子 角江朝子 今村 悟 藤村勝彦 白根紀子 中川光郎 速水 保 市野博文 長尾一合 迫 惠美子 妹尾正 渡辺明子 中上紀代子 土井隆夫 菅生幸子 波多野恵子 諏訪孝子 谷 守 川上久堅 橋本敏子 舟岡 武 中谷孝子 小谷和子 中村勝彦 岩本彩子 和田直樹 浜中寿子 岩本いすゞ

松尾麗子 魚田二江 宮村孝次郎

◎奥山三三 (計54名)

福慶・篠ノ丸と三久安山

11月30日(日) 12月1日(日) 泊2日 (30日) くもり (集合) JR姫路駅南口バスステーション9・10(バス) 山崎道の駅10・20―大雲寺10・40―篠ノ丸城跡11・15(昼食) 12・05―篠ノ丸14・30―上板倉15・00(バス) 福知深谷休養センター16・15(泊)

(1日) 晴れ、福知深谷休養センター18・00(バス) 登山口9・00―山の神跡9・30―大カッラ9・40―三久安山11・20(昼食) 12・00―蓮華岩山林道13・40―渡合15・05(バス) まほろばの湯入浴(バス) 姫路駅17・30(解散)

くもり一時雨の予報がはずれ、ラッキーな冬枯れの雑木林を歩く初日であった。夜はすき焼きのリクエストに応えて、2日目も雨と積雪を心配したが快晴のブナ林で昼食できた。樹間越しに見る播但の山々に感激の歓声。急坂も全員何なくクリア、皆んなの健脚に感服。

(参加者) 三井雄一 前田喜久子 宮本真幸 宮本悦子 美村孝治

美濃・ニツ森山と奥三岳界 (自然観察山行105)

11月30日(日) 12月1日(日) 泊2日 (30日) くもり (集合) JR岐阜駅9・00(バス) 切越峠12・00―ニツ森山13・30(昼食) 14・30―ニツ森林道駐車場15・00(バス) 東郷郡川上村旅館16・00(泊)

(1日) 雨のち晴、川上村旅館7・35―川上林道ゲート17・45―天然公園分岐8・05―林道出合9・10―林道分岐10・00―山道取付点10・30―奥三岳12・06(昼食) 12・35―山道取付点13・30―林道分岐13・50―林道出合14・25―川上林道ゲート15・30(バス) 中津川温泉16・15(入浴) 17・00(バス) 岐阜駅18・50(解散)

大和 紘 石原順次 馬籠忠男 岩田育士 船越利明 船越みよ子 小林真子 石田賢二 土井あつ子 今村 真子 小川 桂 岩城豊子 小田潤子 兼田幸子 山田 輝 馬場昌盛 三輪直文 小西由美子 中島 隆 三輪浩子 大須賀 實 竹田博美 渡辺一雅 佐古田文字 住田隆隆 ○金谷 昭

◎岡田 昇 ○須藤岡 暢 (計33名)

両日とも曇天のため見晴らしは
きかず、積雪三メートルでは雪と雨
頂上部の積雪は本格的でスノーハ
イキングとなった。アニマルトラ
キングとアスナロの原生林を楽し
んだが、林道歩きの長さには閉口
した。

(参加者) 石川 敏 岡田直規
沖 伸 金森節子 加納由紀子
栗橋聖吉 栗橋君子 小松志信
呉比呂美 原 幸子 砂原重美子
原 文子 堀田輝子 武藤由美子
松村輝子 村井寿和 安田文美江
森本淳子 若松朝子 ○狩野東彦
◎鷺見守康 (計21名)

尾張・鳩吹山から継尾尾山
12月1日(日) くもり時々雨

(集合) 名鉄新名古屋駅8・02
(電車) 可児川駅8・47―大脇登
山口9・10―鳩吹山9・57―(途
中休息)―継尾尾山13・42―大山
遊園駅15・00(電車) 新名古屋駅
15・45(解散)

100回の信貴山と同様に20
0回の鳩吹山でも色紙に一言コメ
ントと名前を書いてもらった。生
涯の宝物になると思う。参加され
た皆様ありがとうございました。
(参加者) 吉村 昭 穴戸喜久江

磯部 純 武村千鶴 吉村 昭
谷 守 高原芳彦 加納由紀子
樫田勝利 杉山能久 石田真由美
小松志信 小林 実 網本美恵子
○山田景三 ◎岩野 明(計19名)

南山城・神童子越から海住山寺
12月8日(日) 雨
(集合) J R 横濱駅9・50―57―
神童子10・42―山城宿分等寺12・
00(昼食) 12・30―海住山寺13・
10―20―加茂駅14・08(解散)

南北朝時代の後醍醐天皇が笠置
山を脱出して河内に向かったとい
う。歴史の道の子越から海住
山寺まで傘を差して歩いた。神童
子の本堂と海住山寺の五重塔を見
たいと思っていたのでよかった。
(参加者) 辻垣朝子 小田朝子
金森節子 藤崎流石 木村千代子
渡部和美 永富律子 高垣律子
早野慶子 中村英雄 森 時代
多賀久子 小野慶子 岩本いすゞ
白根清子 兼田幸子 小崎由利子
○速水 保 ◎小出良春(計19名)

鹿ヶ瀬道から
岩阿沙利山・音羽山
12月8日(日) ◎秦 康夫
(比良を歩く18)

川島勝美 安田良剛 岡本美千子
水戸鉄治 石田真由美
○藤崎流石 ◎小出良春(計9名)

紀東・一徳防山から岩湧山
(ファミリーハイック19)
12月5日(日) 晴れ

(集合) 南海三日市町駅8・50―
三日市町駅南(バス) 南ヶ丘9・
20―中山谷1―坂峠9・50―
徳防山10・50―編笠山11・50―岩
湧寺―四季彩彩12・20(昼食) 13・
10―岩湧山14・15―35―南島城山
分岐15・20―岩湧山三合目15・50
―紀貫峰駅16・40(解散)

落葉菜のブロンネードと松茸を登っ
て一徳防山に立つ。岩湧山を仰ぐ
とカヤトの頂は雪山のように銀色
に輝いていた。兼松新道の急坂を
征して、小春日和の下で岩湧山か
ら全方位の展望を楽しむ。年に一
度は日帰りの展望を楽しむ。山歩
きの計画を組んで来たイルで、山歩
(参加者) 山縣勝美 井上由紀晴
柏木孝子 岩城豊子 石井重美子
田中延子 盛 敏子 千葉千枝子
中江清剛 神 照司 榊 美栄子
中山峰雄 西 悦子 宮村孝次郎
市野博文 本間昭恵 光川一美子
村上喜子 岩本彩子 猪狩美枝子

*雨天のため中止しました。
鈴鹿・入道ヶ岳
(遠征百名山に登る第47回)
12月8日(日) くもりのち小雨

(集合) J R 京都駅八条口7・30
④(バス) 宮妻駅駐車場12・10
⑤―新道コース①北の頭12・10
⑥―入道ヶ岳12・20(昼食) 13・05
⑦―北尾根コース①樺大神社15・00
⑧(バス) 京都駅18・00(解散)

宮妻駅から新道コースを北の頭
付近に着くと小雨になった。入道
ヶ岳山頂も風が強くて寒かったが、
アセビの木陰で昼食をとった。展
望は申し分なく、鎌ヶ岳や御池岳
などが展望のようだった。下山の
北尾根コースは歩きやすく、予定
通り樺大神社にくだった。
(参加者) 澤田高治 砂原重美子
島田京子 岩崎昌盛 倉田美恵子
三井絃一 岩田育士 武部美美子
川田洋子 高橋昇治 中村佳津子
山下晴美 高岡信男 三上須美恵
木村 豊 藤 易子 村田はる江
白 里子 妹尾公代 穴谷喜久江
丸 昌子 保田 正 猪狩美枝子
岩崎健司 西村耕一 青木一雄
前田一代 伊藤恵子 若林文夫
呉比呂美 早川和男 里田安代

妹尾一正 羅井敏子 前川和博子
松尾昭子 畑道徳雄 中澤ちず子
木村光江 竹田善英 ○中村友昭
◎木村太郎 (計30名)

京都部山
小嵐山からボンボン山
(週末ハイック45 忘年会山行)
12月7日(日) くもりのち雨

(集合) 阪急東向日町8・30―46
(バス) 南春日町9・05―20―小
嵐山10・35―40―森林公園11・20
(昼食) 12・20―ボンボン山13・
40―14・00―釈迦岳14・25―善峰
寺15・05―西山キャンプ場15・55
―立石16・10―奥海印寺16・30―
J R 長岡京駅前16・55(解散)

歩き始めにバラついていた雨もすぐ
やんだが、大原野森林公園でまた
降り始めたため、森の案内所内で
少し早目の昼食をとり、小雨のな
か東尾根ルートでボンボン山へ歩
いた。釈迦岳から小嵐山へ歩
(参加者) 三井絃一 井上由紀晴
岩田育士 青木一雄 小林 桂
入江武史 船橋利明 船越みよ子
原 幸子 岡田春美 本間孝子

岩城豊子 荒木光雄 中西信行
井上壽子 黒川内東洋明
○安倉止勝 ◎村田智俊(計19名)

私事
くろんど園地からほしだ園地
(平日水曜ハイック59)
12月11日(日) 晴れ

(集合) 京阪河内森駅8・30―38
―獅子嶺寺9・15―みはらしの路
展望台10・00―すいれん池10・15
―船橋神社10・50―星のランコ
11・25―ピトンの小屋11・45(昼
食兼忘年会) 13・00(解散)

コースは短いが変化が多くてお
もしろい園地だ。風が強くて昼食
に適した場所がなく、ピトンの小
屋(園地管理所)まで少し急いだ。
忘年会では山の話と、馳走で寒さ
を忘れた。
(参加者) 近藤 恭 飯田愛子
吉澤孝次 増田龍一 田中善雄
岡田春美 森田 晃 井上由紀晴
岩本健一 岩本彩子 波多野重子
呉山繁三 川上友堅 千葉千枝子
木村 豊 山縣勝美 中山雄雄
速水 保 長尾一令 中上紀代子
岡崎知子 本間 隆 本間孝子
石原君子 山岸勝雄 谷 守
安良陽子 妹尾一正 柏木孝子

南 寛子 仲谷信司 牧 和夫
呉山繁三 村井寿和 小松志信
◎狩野東彦 (計18名)

兵庫北部・西尾尾山
12月8日(日) ◎古賀慶一
*雨天のため中止しました。

三池岳・お菊ヶ池
(鈴鹿を歩く157)
12月8日(日) くもり時々小雪

(集合) 神崎川橋公園8・30(車)
石橋峠9・00―三池岳10・50―三
角点峠10・55―お菊ヶ池11・05―
三池岳11・30―八風峠11・40―八
風大明神11・45(昼食) 12・25―
八風谷河原13・20―八風林道14・
10―1421号線広場14・30(解散)

八風谷林道封鎖のためコース変
更。石橋峠から主稜線に登る。尾
根は雪まじりのガスが吹き上げる
が、三重県側の眺望は最高。霧水
の花は樹木に変わらずはらしい山
旅が続いた。三池岳はカヤと地肌
と霧水の花々。八風大明神の鳥居
で昼食。しかし寒い。早々にくだ
って八風谷の河原で焚火を囲んで楽
しいひとときを過ごした。
(参加者) 後藤康幸 池田繁美
服部 堯 木下朝子 奥野太一郎

本間昭恵 秋葉止人 中澤ちず子
木村太郎 兼田幸子 中村友昭
竹田善英 古川正子 南 ミヤ子
小川晴美 ○青木一雄
◎湯浅次男 (計11名)

奈良・伊那佐山から井足岳
(忘年会山行)
12月12日(日) 晴れ

(集合) 近鉄榛原駅南口9・15
(バス) 比布―竹橋―登山口9・
50―伊那佐山10・50―11・00―西
谷峠分岐11・22―尾根道11・45
(昼食) 12・30―井足岳12・45―
音無川―五原峠13・25―學政神社
13・40―榛原駅13・52(電車) 鶴
橋駅14・40―パンパハウス15・00
(忘年会) 18・00(解散)

予定より早く下山できたので、
鶴橋駅に1時間も早く着いた。駅
市場界隈を散歩し、忘年会も盛り
上がった。二次会でカラオケも楽
しんだ。
(参加者) 竹田勝英 井上由紀晴
古川裕子 東山澄夫 石井重美子
奥村清一 木村 豊 尾崎光子
宮崎美智 永富律子 山根弘美
若林文夫 藤井敏子 松尾昭子
柳 敏弘 柳 雅代 水見昌砂子
岩城豊子 樫田勝利 川村信子

渡辺いく 砂津達雄 成川みさお
岩本杉子 岡 勇子 ○中村英雄
◎西上利和 (計27名)

美濃・文殊の森
(自然観察山行106)

12月14日(日) 晴れ
(集合) JR大垣駅8:40(バス)
文殊の森駐車場9:20→40→山口
城址11:30(昼食) 13:00→駐車場
14:00(バス) 道の駅14:05→
20(バス) 大野温泉14:40(バス)
15:40(バス) 大垣駅16:00(解散)

今年の播磨の山は雪が早くて予
定の西台山への林道が通行できな
くなったため、西台山を断念した。
代わりに生活環境保全林「文殊の
森」で里山自然観察会を開催した。
穏やかな日中のなか、樹木を観察
しながらゆったりと時間を過ごし
た。

(参加者) 荒木光雄 網木美恵子
石田高教 伊藤 直 萩野美紀恵
岡田直規 朽名生石 小崎由利子
川島勝美 川島敬也 砂原惠美子
栗橋崇吉 栗橋君子 船本裕巳子
鳥居信吾 中川美子 武藤由美子
長尾一合 夏山登子 細野欽也
堀田輝子 宮本真幸 村井寿和

西 悦子 小山晴美 中村英雄
白富忠子 荒木光雄 速水 保
川上久堅 磯部 純 中上紀代子
土井隆夫 小谷和子 山盛加奈子
岩本杉子 玉原 一 ◎奥山遊三
(計38名)

丹後・磯砂山と太鼓山
(近畿百名山に登る第48回探検会
12月22日(日)23日(祝) 泊2日
22日) くもり時々雨 (集合)
JR京都駅八条口7:30→40(バ
ス) 大成登山口東原11:30(昼食)
12:00→峠12:10→15(磯砂山12:
35→13:00→峠13:20) 女池13:
30→峠13:40→上常吉15:00(バ
ス) 「丹後おみや」(泊・忘年会
おみや) 8:05(バス) スイス村
第一リフト駐車場9:10→第二リ
フト9:20→太鼓山9:30→40→
第一リフト駐車場10:00→20(バ
ス) 五十河小町公園11:10→30→
内山ブナハウス12:40(昼食) 13:
10→駒倉峠13:35→高山13:50→
14:00→内山ブナハウス14:30→
40→小町公園15:30→45(バス)
京都駅19:10(解散)
一〇一〇段の階段の道に登ると
展望のよい磯砂山のでんでん広場

山本好一 由田郁代 若松朝子
○三井絨一 ◎鷲見守康(計28名)

湖北・文室山
(集合) JR近江塩津駅9:40→
52(国道8号線北へ) 地点→鉄
塔下で二休休→文室山12:05
(昼食) 13:05→国道14:20→近
江塩津駅14:30(解散)

この冬の雪山となった。雪の
上のインソクやカモシカの足跡に
導かれて2時間。山頂からは余呉
湖や琵琶湖が眼下。伊吹山・金葉
岳が遠望。乗鞍岳・岩龍山がそれ
ぞれ白い帽子をかぶっていた。
(参加者) 吉核孝次 穴戸喜久江
谷 守 小河美奈子
◎高島伸浩 (計5名)

北摂・高岳
12月15日(日) 晴れ

(集合) 能勢電鉄日生中央駅10:
20→25(バス) 杉生11:00→猪名
川駅11:25→猪名川不動尊11:
55→尾根上鉄塔下12:20(昼食)
13:00→高岳13:22→35→700
尾根13:53→森上15:29(バス)
山下駅16:20(解散)
猪名川不動尊から尾根に登ると

に着いた。太鼓山とブナ林の高山
は積雪があり、バスが入らない林
道を長く歩くことになった。季節
はずれなのか三山共に人に出会う
ことはなかった。忘年会ではカニ
を腹いっぱい食べた。
(参加者) 沖 伸 長尾節子
小谷和子 塩尻直雄 松田一江
中川光郎 田中善雄 船尾麗子
速水 保 仲谷利司 安田文美江
石原順次 栗橋崇吉 栗橋君子
宮本真幸 宮本悦子 村井寿和
森 瑞代 木下照子 松村雅子
狩野東彦 佐野信江 砂原惠美子
鳥田京子 中村静香 岡 文子
三井絨一 石川 敏 岡田豊治
宮西和子 佐田次男 中嶋日出男
竹田善英 東山澄夫 長沢佑美
田坂育子 川田洋子 片山喜代子
片山克博 遠藤 幸 鈴木敏彦
浅田俊男 磯野重治 ◎奥山遊三
◎安倉正勝 ◎村田智俊(計14名)

六甲・甲山からゴロゴロ岳
12月22日(日) 晴れ
(集合) 阪急仁川駅10:15→仁川
ピクニックセンター11:20→甲山
11:55→神呪寺12:20→北山貯水
池12:20(昼食) 13:20→鷺林寺
14:00→観音山14:25→ゴロゴロ

北摂の山々が見えてきた。全員で
地図を見ながら山名を確認しなが
ら高岳に行った。高岳も自然林に
恵まれたいい山だった。
(参加者) 木村 豊 栗橋崇吉
栗橋君子 岩田貴士 石井惠美子
栗橋健司 柳川常雄 村田はる江
小森東治 小林博子 野里マツ代
黒河内東洋明 中尾美智子
朽名生石 山根弘美 岸 すみ子
篠 弘保 堀 薫 川上香代子
小林 稔 吉核孝次 吉福 清
藤本桂吉 須田久子 若林文夫
入江武史 楠原良彦 妹尾公代
熊田千夜子 ◎宮下淳一
◎美村孝治 ◎小出良春(計32名)

水島岳
(鈴鹿自山37 忘年会山行)
12月15日(日) 晴れ

(集合) 近鉄桑名駅8:00/近鉄
湯の山温泉駅8:25(車) 朝明伊
勢谷小島9:00→15(根の平峠)
55→水島岳10:30→40(根の平峠)
11:00→伊勢谷小屋11:00(忘年
会) 15:15(現地解散後・車) 桑
名駅16:15
思ったよりも多くの積雪(10cm)
があった。山はきれいだった。歩く
には支障なく3時間で水島岳を往

岳15:15→水車谷16:47(バス)
JR芦屋町17:00(解散)
尾張の鳩吹山に続いてゴロゴロ
岳でも200回を脱ぎもった。
いい思い出ができました。
(参加者) 小林 昇 桂 久美子
石田豊美 森 晴代 中尾美智子
本間 隆 若城豊子 野々山 寛
藤本桂吉 若林文夫 前川和佳子
森 昌好 貞近淳子 岡野美十代
井上育子 飯田貞子 渡辺美代子
川上久堅 中村英雄 中村惠美子
岩橋健司 井藤正昭 久保田玲子
白根清子 辻 行子 森澤昭子
永富律子 藤崎洗石 水谷陽子
徳田暢子 山田幸子 多賀久子
市野博文 山岸勝雄 牧 和夫
脇 里子 隣 壽子 朝倉悠雄
◎宮下淳一 ◎美村孝治
◎小出良春 (計41名)

水木野 (割山)・不老堂
(鈴鹿を歩く158)
12月22日(日) くもり
(集合) 神崎橋広場8:20(車)
八風谷広場8:30→水木野9:30
→P93029:45→不老堂10:
40→神崎橋広場11:30(車) 風越
谷林道広場12:00(忘年会) 14:
30(解散)

復し、忘年会兼の昼食を楽しくと
ることができた。
(参加者) 池田 茂 山野志保江
風部 典 武村千鶴 伊藤久男
山村恭男 西村文男 藤藤由美子
井上 光 吉村 昭 光川一美子
鈴木 浩 鈴木友子 落合ひろ子
西村正春 丹下由子 南 智恵子
春見重美 鳥居信吾 伊藤惠美子
◎石川 静 ◎山田妙子
◎高原秀彦 ◎山田明男(計28名)

番掛山から大枝ノ山
(北山ちよっと歩き40)
12月18日(日) 晴れのちくもり
(集合) 阪急上桂駅8:00→10:
10→大枝山鉄塔12:10(昼食) 13:
10→洛西高校前14:30(解散)
実に見事な自然のなかを歩いた
が、西山清神上場から出る煙がい
やだった。

(参加者) 栗橋君子 井上由紀晴
木下朝子 松尾麗子 中嶋日出男
吉核孝次 岡崎知子 波多野惠子
本間 隆 石原君子 野里マツ代
山岸勝雄 谷 守 市野博文
妹尾一正 角江朝子 宮村孝次郎
中村 保 林 俊彦 林 正子
押本吉生 武村千鶴 渡部和美

山は穢 荒谷から水木野に突き
上げたが杉林のなか。石南花のP
930からは冬枯れの明るい樹
林と重なった大岩が次々に現れた。
不老堂のくだりは尾根が滑るを迷っ
た。風越谷林道広場に移動し、焚
火を囲んで盛大に忘年会を実施し
た。
(参加者) 池田賢美 松上美代子
後藤康幸 山田明男 奥野太郎
大石将美 山下朝子 金谷 昭
櫻田勝利 磯部 純 小林 稔
林 一夫 湯浅康夫 湯浅みや子
永戸鉄治 奥田貞雄 北村つねみ
森本 勝 森本淳子 石田真由美
原 光一 原 幸子 伊藤喜久男
谷 守 谷 久雄 加納由紀子
猪方由子 友田 毅 友田美保子
杉山能久 小松志信 吉岡 仁
小林 実 ◎山田遊三
◎岩野 明 (計35名)

京都西山・天王山から十方山
12月29日(日) 晴れ
(集合) JR山崎駅9:15→20→
宝積寺9:30→天王山10:10→20
→十方山10:59(昼食) 11:30→
水無瀬滝12:17→25→山崎駅12:
45(解散)
落ち葉の続く道と竹やぶのなか、

緑のシャワーを浴びて歩いた。
 (参加者) 小山陽子 石倉真佐子
 松尾節子 岩城登子 中村英雄
 藤崎洗石 朝倉松雄 松井トキ子
 菅生 成 菅生幸子 光川トキ子
 野々山 寛 岸 すみ子
 ◎川上友堅 ◎小山良春(計15名)

山科から宇治駅へ
 (年末にロングコースを歩く)
 12月29日(日) 晴れ一時雪
 (集合) 京阪宇治駅・輝丸神社8・
 00~10 音羽山9・20 牛尾親善
 10・00~10 桜の馬場10・15 横
 峰峠11・00 榎橋開山堂11・15
 (昼食) 12・00 水晶谷12・20
 ニウレイ峠12・40~50 日野岳13・
 00 供水峠13・10~20 木下峠13・
 25 長坂峠13・50~14 00 ゴル
 フ場前14・10 大峰山14・30~40
 ゴルフ場臨塔塔15・00(開食)
 15・20 車道16・00 三笠寺前
 16・15 京阪宇治駅16・35(解散)
 音羽山では吹雪のなかを歩いた
 が、後半は冬晴れに恵まれた。長
 坂峠までは落葉を踏み登り山道を
 歩き、ゴルフ場からは鉄塔巡視路
 を伝ったが、一部ゴルフ場開発で
 道が消えていた。やぶ漕ぎもあつ
 たが50名も歩けばよい道になった

**新ハイキングクラブ関西
 入会の案内**

当会は雑誌「新ハイキング関西
 の山」(隔月刊・年6号発行)の
 定期購読者を中心にしたハイキン
 グの集いです。
 この雑誌は紀行文やコースガイ
 ドなどで、関西のハイキングコー
 スや山の情報を発信しています。
 山の知識を深め、健康な身体をつ
 くり、自然のなかを歩く喜びをと
 もに広めましょう。
 「新ハイキングクラブ」は昭和
 25年発足以来、東京を中心に50年
 間余、好評のうちに活動していま
 す。関西は平成3年発足で12年目
 に入りますが、すでにたくさんの方
 が活動しています。
 会員は当会の山行例会に優先し
 て参加できます。この山行例会を
 通じて正しい山歩きを、楽しい山
 仲間たちと味わいませんか。
 リーダー(係)はすべて無償の
 奉仕で、各自で切符を買い茶代を
 払い、宿泊料もすべてワリカンで
 す。
 会員には「新ハイキング関西の
 山」を毎月お送りします。
 四季の自然に触れながら歩き、

だろう。アップタウンのロングコー
 スを順調に歩き、予定時間より早
 く宇治駅に到着できた。
 (参加者) 森本 勝 森本淳子
 後藤康幸 馬場昌盛 松上美代子
 宮下淳一 川田洋子 吉松孝次
 木村 豊 運洋子 井上由紀晴
 入江武史 高木忠夫 中嶋日出男
 堤 良男 森本幹雄 野里マツ代
 加藤元彦 谷 守 北村つねみ
 武村千鶴 立川郁夫 小坂さゆり
 三輪重文 加藤浩一 前田初雄
 山岸勝雄 東中次夫 金谷 昭
 仲谷弘司 山田幸子 南 利恵
 竹田善美 山口喜弘 青木一雄
 大平 漸 大早敦子 津野雅弘
 美村孝治 富岡慶子 川北恵美子
 牧 和夫 西村文男 武田元吉
 茨木良雄 秦 康夫 秦 美代子
 緒方由子 兼田幸子 ◎安倉正勝
 ◎村田智俊 (計51名)

海外特別山行

ニュージーランド
 ルートポートラックとマウント
 クック8日間
 11月11日(月)~18日(月) 7泊8日
 <11日 晴れ>(集合) 関西空港
 15・30~17・30(飛行機)機中泊
 <12日 晴れ>オークランド空港

8・25~10・00(クライストチャー
 チ乗継ぎ) クイーンズタウン空港
 15・40(バス) ホテル16・20(ト
 レッキング説明会) 17・00~18・00
 /ホテル泊
 <13日 晴れ> クイーンズタウン
 7・15(バス) デバッド峠11・05
 ~35 キキサミット12・50~13・
 10 ハウデン避難小屋13・45(昼
 食) 14・15 アーランド滝15・35
 ~45 マッケンジー小屋17・50
 /ホテル泊
 <14日 雨のち晴れ> マッケンジー
 小屋9・40 ホリフォードフェイ
 ス11・20 ハリス峠避難小屋13・
 20(昼食) 14・05 フォールス小
 屋15・50(泊)
 <15日 雨のち晴れ> フォールス
 小屋9・35 ルートポートラック
 避難小屋10・45~11・10 フォル
 ジュフラット12・05(昼食) 12・
 45 トラック終点13・40~14・05
 (バス) クイーンズタウン16・30
 (ホテル泊)
 <16日 晴れのち雪> クイーンズ
 タウン7・00(バス) マウントク
 ック村11・30~45 キャンプ場12・
 35(昼食) 13・10 第一吊橋13・
 25 第二吊橋13・50~14・05 キヤ
 ンプ場14・50~15・00 マウント

若々しい心と健康をいつまでも持
 続するのは素晴らしいことです。
 これから始めてみたい人も、すで
 にベテランの人もみなさんご入会
 いただけます。

入会金 500円(パジャダ)
 年会費 3000円(送料共)
 入会の申し込み(随時)はこの
 雑誌に挿入の振替用紙をご利用く
 ださい。氏名(ふりがな)及び第
 何号からの送本かを忘れずに記
 入ください。
 なお、定期購読をご希望される
 方も会員になっていただきますと、
 毎号確実にお手元に届きますので
 便利です。
 切手530円分をお送りになれ
 ば、「新ハイキング関西の山」見
 本誌1冊送ります。
○山行リーダー募集
 リーダーは2ヶ月に1~2回程度
 の山行例会を計画・実施してい
 ただきます。
 無償の奉仕ですが、やりがいも
 あり、楽しいものです。経験のある
 方や、やってみたいと思われる
 方は、新ハイキング関西までご連絡
 ください。マニュアル「リーダー
 必携」をご参考に送ります。

クック村15・40(ホテル泊)
 <17日 晴れ> マウントクック村
 7・10(バス) クライストチャー
 チ空港13・30~14・20(飛行機)
 オークランド空港15・50(バス)
 ホテル16・25(泊)
 <18日 晴れ> ホテル7・00(バ
 ス) オークランド空港7・40~8・
 50(飛行機) 関西空港16・10(解
 散)
 南半球のニュージーランドは初
 夏の季節だが、エルニーヨの影響
 で、山は残雪が多かった。ルート
 ポートラックは緩走路・山小屋が
 整備され、若いガイドのサービス
 も申し分なく、快適な山旅を楽し
 んだ。マウントクックのトレッキ
 ングでは、季節はずれの吹雪に遭
 うなど、話題の多い海外山行だっ
 た。
 (参加者) 藤原義子 田中三恵子
 大西節郎 大西親子 真島百合子
 前田幸子 白富幸子 野里マツ代
 半田節子 澤田惟之 田中まや子
 金谷 昭 松坂直美 野田恵美子
 磯 易子 松本英子 砂原恵美子
 中川光郎 真田明子 桂 久美子
 浜田喜美子 ◎斎藤 隆
 ◎塚元一彦 (計23名)

○新入会員(定期購読者)紹介
 新しいお仲間のみなさんです。
 会員番号4780番から4815
 番まで

- 【埼玉】 木村貴美江
- 【愛知】 一芝義雄 島田逸子
- 【三重】 林 勝廣 宮本 篤
- 【福井】 福岡八郎
- 【滋賀】 井手利美
- 【京都】 柏村信治 吉野栄子
- 林 俊彦 林 正子 高橋文夫
- 大川直澄 大川明子 高橋栄美子
- 西井博直
- 【大阪】 小出達夫 小出恵都子
- 竹中政勝 岡崎知子 宮崎美智
- 井上恭子 越智康夫 小森律子
- 湯口三郎 岩村春子 近藤さとみ
- 斎藤よし子
- 【和歌山】 寺井 勝 寺井和己
- 【兵庫】 関戸良美 岩本美代子
- 吉岡秀夫 フリッツ知恵子
- 森本美恵子 山田 稔 (36名)

訂正とお詫び

67号(春秋) 86ページ中段終わ
 りから2行目「ギンバイソウ」は
 「ジンバイソウ」が正しい。
 67号(春秋) 98ページ二段目の
 岩野リーダーの例会「鈴鹿を歩く
 157」は「鈴鹿を歩く158」

が正しい。よって、68号(新春)
 の1月・2月の「鈴鹿を歩く」シ
 リーズの通し番号は各1回ずつ増
 え、159回~162回の四回と
 なります。